様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	日本大学
設置者名	学校法人日本大学

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
法学部（第一部）	法律学科（令和２年度以降）	夜・通信	0	10	142	152	13	
	法律学科（令和元年度以前）	夜・通信			140	150	13	
	政治経済学科	夜・通信			22	32	13	
	新聞学科（令和２年度以降）	夜・通信			68	78	13	
	新聞学科（令和元年度以前）	夜・通信			64	74	13	
	経営法学科（令和２年度以降）	夜・通信			142	152	13	
	経営法学科（令和２年度以降）	夜・通信			132	142	13	
	公共政策学科	夜・通信			120	130	13	
法学部（第二部）	法律学科	(夜)・通信		4	22	36	13	
文理学部	哲学科（令和元年度以前の入学者）	夜・通信	0	14	0	14	13	
	史学科（令和元年度以前の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	国文学科（令和元年度以前の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	中国語中国文化学科（令和元年度以前の入学者）	夜・通信			0	14	13	

	英文学科（令和元年度以前の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	ドイツ文学科（令和元年度以前の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	社会学科（令和元年度以前の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	社会福祉学科（令和元年度以前の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	教育学科（令和元年度以前の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	体育学科（令和元年度以前の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	心理学科（令和元年度以前の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	地理学科（令和元年度以前の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	地球科学科（令和元年度以前の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	数学科（令和元年度以前の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	情報科学科（令和元年度以前の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	物理学科（令和元年度以前の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	生命科学科（令和元年度以前の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	化学科（令和元年度以前の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	哲学科（令和２年度以降の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	史学科（令和２年度以降の入学者）	夜・通信			0	14	13	

	国文学科（令和２年度以降の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	中国語中国文化学科（令和２年度以降の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	英文学科（令和２年度以降の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	ドイツ文学科（令和２年度以降の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	社会学科（令和２年度以降の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	社会福祉学科（令和２年度以降の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	教育学科（令和２年度以降の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	体育学科（令和２年度以降の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	心理学科（令和２年度以降の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	地理学科（令和２年度以降の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	地球科学科（令和２年度以降の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	数学科（令和２年度以降の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	情報科学科（令和２年度以降の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	物理学科（令和２年度以降の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	生命科学科（令和２年度以降の入学者）	夜・通信			0	14	13	
	化学科（令和２年度以降の入学者）	夜・通信			0	14	13	

経済学部	経済学科 （令和３年度以前の入学者）	夜・通信	0	4	16	20	13	
	産業経営学科 （令和３年度以前の入学者）	夜・通信			12	16	13	
	金融公共経済学科（令和３年度以前の入学者）	夜・通信			28	32	13	
	経済学科 （令和４年度以降の入学者）	夜・通信			16	20	13	
	産業経営学科 （令和４年度以降の入学者）	夜・通信			12	16	13	
	金融公共経済学科（令和４年度以降の入学者）	夜・通信			28	32	13	
商学部	商業学科 【2020 年度以降入学者】	夜・通信	0	28	78	106	13	
	経営学科 【2020 年度以降入学者】	夜・通信			78	106	13	
	会計学科 【2020 年度以降入学者】	夜・通信			78	106	13	
	商業学科 【2019 年度以前入学者】	夜・通信	0	23	72	95	13	
	経営学科 【2019 年度以前入学者】	夜・通信			72	95	13	
	会計学科 【2019 年度以前入学者】	夜・通信			72	95	13	
芸術学部	写真学科 （令和２年度以降入学者）	夜・通信	0	14	4	18	13	
	写真学科 （令和元年度以前入学者）	夜・通信		10	4	14	13	
	映画学科 （令和２年度以降入学者）	夜・通信		14	4	18	13	
	映画学科 （令和元年度以前入学者）	夜・通信		10	4	14	13	

	美術学科（令和２年度以降入学者）	夜・通信		14	6	20	13	
	美術学科（令和元年度以前入学者）	夜・通信		10	4	16	13	
	音楽学科（令和２年度以降入学者）	夜・通信		14	4	18	13	
	音楽学科（令和元年度以前入学者）	夜・通信		10	4	14	13	
	文芸学科（令和２年度以降入学者）	夜・通信		14	8	22	13	
	文芸学科（令和元年度以前入学者）	夜・通信		10	8	18	13	
	演劇学科（令和２年度以降入学者）	夜・通信		14	4	18	13	
	演劇学科（令和元年度以前入学者）	夜・通信		10	4	14	13	
	放送学科（令和２年度以降入学者）	夜・通信		14	6	20	13	
	放送学科（令和元年度以前入学者）	夜・通信		10	4	14	13	
	デザイン学科（令和２年度以降入学者）	夜・通信		14	4	18	13	
	デザイン学科（令和元年度以前入学者）	夜・通信		10	4	14	13	
国際関係学部	国際総合政策学科	夜・通信	0	10	102	112	13	
	国際教養学科	夜・通信			52	52	13	
危機管理学部	危機管理学科（令和３年入学者以前）	夜・通信	0	18	102	120	13	
	危機管理学科（令和４年入学者以降）	夜・通信		22	96	118	13	
スポーツ科学部	競技スポーツ学科令和２年入学者以前）	夜・通信	0	20	68	88	13	
	競技スポーツ学科令和３年度入学者以降）	夜・通信		22	72	94	13	

理工学部	土木工学科 （令和元年度以前）	夜・通信	0	0	14	14	13	
	土木工学科 （令和２・３年度）	夜・通信		0	14	14	13	
	土木工学科 （令和４年度以降）	夜・通信		0	14	14	13	
	交通システム工学科 （令和元年度以前）	夜・通信		0	14	14	13	
	交通システム工学科 （令和２・３年度）	夜・通信		0	14	14	13	
	交通システム工学科 （令和４年度以降）	夜・通信		0	14	14	13	
	建築学科 （令和元年度以前）	夜・通信		0	14	14	13	
	建築学科 （令和２・３年度）	夜・通信		0	14	14	13	
	建築学科 （令和４年度以降）	夜・通信		0	14	14	13	
	海洋建築工学科 （令和元年度以前）	夜・通信		0	14	14	13	
	海洋建築工学科 （令和２・３年度）	夜・通信		0	14	14	13	
	海洋建築工学科 （令和４年度以降）	夜・通信		0	14	14	13	
	まちづくり工学科 （令和元年度以前）	夜・通信		0	14	14	13	
	まちづくり工学科 （令和２・３年度）	夜・通信		0	14	14	13	
	まちづくり工学科 （令和４年度以降）	夜・通信		0	14	14	13	
	機械工学科 （令和元年度以前）	夜・通信		0	14	14	13	
	機械工学科 （令和２・３年度）	夜・通信		0	14	14	13	
	機械工学科 （令和４年度以降）	夜・通信		0	14	14	13	
	精密機械工学科 （令和元年度以前）	夜・通信		0	14	14	13	
	精密機械工学科 （令和２・３年度）	夜・通信		0	14	14	13	
	精密機械工学科 （令和４年度以降）	夜・通信		0	14	14	13	
	航空宇宙工学科 （令和元年度以前）	夜・通信		0	14	14	13	
	航空宇宙工学科 （令和２・３年度）	夜・通信		0	14	14	13	
	航空宇宙工学科 （令和４年度以降）	夜・通信		0	14	14	13	

	電気工学科 （令和元年度以前）	夜・通信		0	14	14	13	
	電気工学科 （令和２・３年度）	夜・通信		0	14	14	13	
	電気工学科 （令和４年度以降）	夜・通信		0	14	14	13	
	電子工学科 （令和元年度以前）	夜・通信		0	13	13	13	
	電子工学科 （令和２・３年度）	夜・通信		0	13	13	13	
	電子工学科 （令和４年度以降）	夜・通信		0	13	13	13	
	応用情報工学科 （令和元年度以前）	夜・通信		0	13	13	13	
	応用情報工学科 （令和２・３年度）	夜・通信		0	13	13	13	
	応用情報工学科 （令和４年度以降）	夜・通信		0	13	13	13	
	物質応用化学科 （令和元年度以前）	夜・通信		0	14	14	13	
	物質応用化学科 （令和２・３年度）	夜・通信		0	15	15	13	
	物質応用化学科 （令和４年度以降）	夜・通信		0	15	15	13	
	物理学科 （令和元年度以前）	夜・通信		2	12	14	13	
	物理学科 （令和２・３年度）	夜・通信		0	13	13	13	
	物理学科 （令和４年度以降）	夜・通信		0	13	13	13	
	数学科 （令和元年度以前）	夜・通信		0	14	14	13	
	数学科 （令和２・３年度）	夜・通信		0	14	14	13	
	数学科 （令和４年度以降）	夜・通信		0	14	14	13	
生産工学部	機械工学科	夜・通信	0	0	14	14	13	
	電気電子工学科	夜・通信			14	14	13	
	土木工学科	夜・通信			14	14	13	
	建築工学科	夜・通信			15	15	13	
	応用分子化学科	夜・通信			14	14	13	
	マネジメント工学科	夜・通信			14	14	13	

	数理情報工学科	夜・通信			14	14	13	
	環境安全工学科	夜・通信			14	14	13	
	創生デザイン学科	夜・通信			14	14	13	
工学部	土木工学科 (令和3年度入学者以前)	夜・通信	0	4	16	20	13	
	土木工学科 (令和4年度入学者以降)	夜・通信			14	18	13	
	建築学科 (令和3年度入学者以前)	夜・通信			50	54	13	
	建築学科 (令和4年度入学者以降)	夜・通信			47	51	13	
	機械工学科 (令和3年度入学者以前)	夜・通信			32	36	13	
	機械工学科 (令和4年度入学者以降)	夜・通信			32	36	13	
	電気電子工学科 (令和3年度入学者以前)	夜・通信			10	14	13	
	電気電子工学科 (令和4年度入学者以降)	夜・通信			10	14	13	
	生命応用化学科 (令和3年度入学者以前)	夜・通信			22	26	13	
	生命応用化学科 (令和4年度入学者以降)	夜・通信			22	26	13	
	情報工学科 (令和3年度入学者以前)	夜・通信			71	75	13	
	情報工学科 (令和4年度入学者以降)	夜・通信			71	75	13	
医学部	医学科	夜・通信	0	0	19	19	19	
	医学科（旧課程）	夜・通信	0	0	19	19	19	
歯学部	歯学科	夜・通信	0	0	19	19	19	

松戸歯学部	歯学科 （平成 30 年度以前入学者）	夜・通信	0	0	20	20	19	
	歯学科 （令和元年度入学者）	夜・通信			23	23	19	
	歯学科 （令和２年度入学者）	夜・通信			23	23	19	
	歯学科 （令和４年度入学者）	夜・通信			23	23	19	
生物資源科学部	生命農学科	夜・通信	2	1	46	49	13	
	生命化学科	夜・通信			76	79	13	
	獣医学科	夜・通信			64	67	19	
	動物資源科学科	夜・通信			36	39	13	
	食品ビジネス学科	夜・通信			62	65	13	
	森林資源科学科	夜・通信			55	58	13	
	海洋生物資源科学科	夜・通信			37	40	13	
	生物環境工学科	夜・通信			70	73	13	
	食品生命学科	夜・通信			38	41	13	
	国際地域開発学科	夜・通信			51	54	13	
	応用生物科学科	夜・通信			27	30	13	
	くらしの生物学科	夜・通信			36	39	13	
薬学部	薬学科	夜・通信	0	0	83	83	19	
通信教育部 法学部	法律学科	夜・(通信)	0	16	0	16	13	
	政治経済学科	夜・(通信)			0	16	13	
通信教育部 文理学部	文学専攻国文学	夜・(通信)			0	16	13	
	文学専攻英文学	夜・(通信)			0	16	13	
	哲学専攻	夜・(通信)			0	16	13	

	史学専攻	夜・通信			0	16	13	
通信教育部 経済学部	経済学科	夜・通信			0	16	13	
通信教育部 商学部	商業学科	夜・通信			0	16	13	

（備考）

【法学部】

法学部は，全学科において令和２年度新入生から教育課程の変更を行っている。政治経済学科，公共政策学科，法学部（第二部）法律学科は，科目の読み替えのみ。

【文理学部】

令和２年度（2020 年度）に教育課程の変更を行った。実務経験のある教員等による授業科目は新・旧教育課程ともに学部等共通科目であるが，一部科目名に変更が生じているため，「令和元年度以前の入学者」と「令和２年度以降の入学者」を分けて記載している。

【商学部】

2020 年度以降入学者と 2019 年度以前入学者で教育課程の変更を行っている。省令で定める基準単位数における実務経験のある教員による授業科目については，一部科目名称が異なるため 2020 年度以降入学者と 2019 年度以前入学者の一覧は別々に作成した。

【危機管理】

危機管理学部危機管理学科は令和４年度に教育課程の変更を行っている。

【スポーツ科学部】

スポーツ科学部競技スポーツ学科は令和３年度に教育課程の変更を行っている。

【理工学部】

理工学部土木工学科・交通システム工学科・建築学科・海洋建築工学科・まちづくり工学科・機械工学科・精密機械工学科・航空宇宙工学科・電気工学科・電子工学科・応用情報工学科・物質応用化学科・物理学科・数学科は令和２年度及び令和４年度に教育課程の変更を行っている。

【生産工学部】

生産工学部機械工学科・電気電子工学科・土木工学科・建築工学科・応用分子化学科・マネジメント工学科・数理情報工学科・環境安全工学科・創生デザイン学科は令和４年度に教育課程の変更を行っている。

【工学部】

工学部は，全学科において令和４年度新入生から教育課程の変更を行っている。

【医学部】

学年進行で教育課程の変更の途上である。

【松戸歯学部】

松戸歯学部歯学科は，令和元年度，令和２年度，令和４年度に教育課程の変更を行っている。

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

インターネットによる公表。

１　法学部

http://nulawsyllabus.jp/law/MIN_MNU.aspx

２　文理学部

http://syllabus.chs.nihon-u.ac.jp/op/list_work_experience.html

3　経済学部
https://www.eco.nihon-u.ac.jp/disclosure/data_5/business_practice/
4　商学部
（教員一覧－実務経験のある教員による授業科目一覧）
https://www.bus.nihon-u.ac.jp/about/facultymember/
5　芸術学部
http://lc-syl.art.nihon-u.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on
シラバス検索画面の「タイトル」で「2022年度学部」を選択し，「フリーワード」に「実務経験」と入力することで，該当授業が一覧で表示される。
6　国際関係学部
https://www.ir.nihon-u.ac.jp/pdf/faculty/teacher-subject.pdf
7　危機管理学部
http://rmsssyl.nihon-u.ac.jp/ext_syllabus/
「シラバス検索」のページが開くので，「タイトル」のプルダウンから[2022年度危機管理学部（公開用）]を選択，かつ「フォルダ」のプルダウンから[実務経験のある教員による科目]を選択し，「検索」ボタンを押すと一覧が表れる。
8　スポーツ科学部
http://rmsssyl.nihon-u.ac.jp/ext_syllabus/
「シラバス検索」のページが開くので，「タイトル」のプルダウンから[2022年度スポーツ科学部（公開用）]を選択，かつ「フォルダ」のプルダウンから[実務経験のある教員による科目]を選択し，「検索」ボタンを押すと一覧が表れる。
9　理工学部
https://www.kyoumu.cst.nihon-u.ac.jp/syllabus/Publication/2022/jitumu
10　生産工学部
http://www.cit.nihon-u.ac.jp/educational-information
11　工学部
http://www.ce.nihon-u.ac.jp/education/
教育案内ページから「シラバス」を選択する。シラバス照会用のポータルサイトへ移動し，メニューにある「シラバス照会」を選択し，シラバス検索ページに移動する。検索ページ内にある「キーワード」欄に「実務経験」と入力し，検索ボタンを押下して該当科目を抽出表示させる。
12　医学部
https://www.med.nihon-u.ac.jp/syllabus.html
13　歯学部
https://www.dent.nihon-u.ac.jp/education/syllabus/R4only/
14　松戸歯学部
https://www.mascat.nihon-u.ac.jp/data/syllabus/contents/53/pdf2.pdf
15　生物資源科学部
https://lc-syllabus.brs.nihon-u.ac.jp/student/
学科及び科目種別を選択し，「科目の特徴」欄の「実務経験のある教員による実践的授業」の項目にチェックを入れ科目表示ボタンを押す。
16　薬学部
https://www.pha.nihon-u.ac.jp/media/jitsumu-2022.pdf
17　通信教育部
https://www.dld.nihon-u.ac.jp/course/syllabus/

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名　なし
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	日本大学
設置者名	学校法人日本大学

１．理事（役員）名簿の公表方法

大学ホームページにて公表 http://www.nihon-u.ac.jp/about_nu/board/director/

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2020.9.10 ～2023.9.9	組織運営体制へのチェック機能
非常勤	株式会社役員	2020.9.10 ～2023.9.9	組織運営体制へのチェック機能
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	日本大学
設置者名	学校法人日本大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

授業計画（シラバス）は，①授業の概要，②授業の目的・到達目標，③授業の方法，準備学修・授業時間外の学修，④授業計画，⑤成績評価の方法及び基準，⑥教科書・参考書等，⑦連絡先（オフィスアワー，email など），⑧履修上の注意，受講生に対する要望等を最低限の項目とし，各学部の状況に応じて記載項目を追加し，授業担当者に作成を依頼している。また，授業計画（シラバス）は，当該科目の担当以外の教員によるシラバス第三者が，作成された授業計画（シラバス）について，「卒業に関する基本方針」及び「教育課程の編成・実施の方針」に則した内容になっているかといった観点から点検を行い，全ての授業科目の点検が終了したのちに，各学部のホームページで公開している。

以下は，各学部の授業計画（シラバス）公表時期

１	法学部	４月初めにホームページに公開
２	文理学部	３月下旬にホームページに公開
３	経済学部	ホームページに公開中
４	商学部	３月下旬にホームページに公開
５	芸術学部	４月初めにホームページに公開
６	国際関係学部	４月初めにホームページに公開
７	危機管理学部	４月初めにホームページに公開
８	スポーツ科学部	４月初めにホームページに公開
９	理工学部	４月初めにホームページに公開
10	生産工学部	４月初めにホームページに公開
11	工学部	３月下旬にホームページに公開
12	医学部	３月２５日にホームページに公開
13	歯学部	学内関係者（学生含む）には３月下旬に公開し，外部には４月下旬に公開
14	松戸歯学部	４月初めにホームページに公開
15	生物資源科学部	４月初めにホームページに公開
16	薬学部	４月初めにホームページに公開
17	通信教育部	スクーリングの時期により，３月・４月・５月・７月・９月に順にホームページに公開

授業計画書の公表方法	インターネットによる公表。 1　法学部 https://www.law.nihon-u.ac.jp/teacher/ https://nulawsyllabus.jp/law/MIN_MNU.aspx 2　文理学部 http://syllabus.chs.nihon-u.ac.jp/bunri.html 3　経済学部 https://www.eco.nihon-u.ac.jp/disclosure/data_5/ 4　商学部 https://www-unias.bus.nihon-u.ac.jp/uniasv2/UnSSOLoginControlFree 5　芸術学部 http://lc-syl.art.nihon-u.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on 6　国際関係学部 https://unipa.ir.nihon-u.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp 7　危機管理学部 http://rmsssyl.nihon-u.ac.jp/ext_syllabus/ 8　スポーツ科学部 http://rmsssyl.nihon-u.ac.jp/ext_syllabus/ 9　理工学部 https://www.cst.nihon-u.ac.jp/syllabus/ 10　生産工学部 https://portal.cit.nihon-u.ac.jp/Campusweb/slbssrch.do 11　工学部 http://www.ce.nihon-u.ac.jp/education 12　医学部 https://www.med.nihon-u.ac.jp/syllabus.html 13　歯学部 https://www.dent.nihon-u.ac.jp/education/syllabus/ 14　松戸歯学部 https://www.mascat.nihon-u.ac.jp/curriculum/syllabus.html 15　生物資源科学部 https://lc-syllabus.brs.nihon-u.ac.jp/student/ 16　薬学部 https://www.pha.nihon-u.ac.jp/media/R04-05-1.pdf 17　通信教育部 https://www.dld.nihon-u.ac.jp/course/syllabus/
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

学修成果に係る評価方法及び基準については，以下のとおり本学学則第 34 条，第 35 条及び第 36 条において規定している。また，各授業科目における成績評価方法及び基準については，当該授業科目の授業計画（シラバス）の「成績評価の方法及び基準」に記載している。なお，授業計画（シラバス）には，学生が「何を学び，何ができるようになるか」という学修の到達目標及び各授業担当者が設定した成績評価の方法・基準を記載し，学修成果を厳格かつ適正に評価し単位を与えている。

第 34 条　学業成績は，授業科目ごとに行う試験によって，これを定める。ただし，授業科目によっては，その他の方法で査定することができる。

２　試験には，平常試験・定期試験・追試験及び再試験がある。

①　平常試験とは，当該授業科目履修者を対象に授業科目担当教員が学期の途中に適宜行う試験のことをいう。

②　定期試験とは，当該授業科目履修者を対象に大学の定めた試験期間中に行う試験のことをいう。定期試験は学期末又は学年末に行う。

③　追試験とは，やむを得ない事由のため定期試験を受けることのできなかった者のために行う試験のことをいう。

④　再試験とは，受験の結果不合格となった者のために行う試験のことをいう。

３　追試験及び再試験は当該学部において必要と認めたときに限り，これを行う。

第 35 条　修学についての所定の条件を備えていない者は，受験資格を失うことがある。

第 36 条　学業成績の判定は，Ｓ，Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄ及びＥの６種をもってこれを表し，Ｓ（100～90 点），Ａ（89～80 点），Ｂ（79～70 点），Ｃ（69～60 点），Ｄ（59 点以下），Ｅ（履修登録したが成績を示さなかったもの）をもって表し，Ｓ，Ａ，Ｂ，Ｃを合格，Ｄ，Ｅを不合格とする。合格した授業科目については，所定の単位数が与えられる。

２　第１項の学業成績の学修結果を総合的に判断する指標として，総合平均点（Grade Point Average，以下「ＧＰＡ」という）を用いることができる。

３　前項に定めるＧＰＡは，学業成績のうち，Ｓにつき４，Ａにつき３，Ｂにつき２，Ｃにつき１，Ｄ及びＥにつき０をそれぞれ評価点として与え，各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を，総履修単位数（Ｐ又はＮとして表示された科目を除く）で除して算出する。ＧＰＡは，小数点第３位を四捨五入し，小数点以下第２位まで有効とする。

４　第１項の規定にかかわらず，履修登録後，所定の中止手続きを取ったものはＰ，修得単位として認定になったものはＮと表示する。

５　ＧＰＡ算出の対象科目は，卒業要件単位数に含まれる授業科目（単位認定科目としてＮと表示された科目を除く）とする。

６　ＧＰＡは，学期のＧＰＡ，年度のＧＰＡ及び入学時からの累計のＧＰＡとする。

７　通年科目は，学期のＧＰＡ算出の際には，後学期のＧＰＡに算入する。

８　授業科目を再履修した場合，累計のＧＰＡ算出の際には，直近の履修による学業成績及び単位数のみを算入するものとし，以前の学業成績及び単位数は算入しない。

９　試験において不正行為を行った場合は，処分を受けた条件に基づき，評価をＥ，評価点はなしとして取り扱う。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）
客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

本学学則第 36 条第１項において，学業成績の判定は，Ｓ，Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄ及びＥの６種をもってこれを表し，Ｓ（100～90 点），Ａ（89～80 点），Ｂ（79～70 点），Ｃ（69～60 点），Ｄ（59 点以下），Ｅ（履修登録したが成績を示さなかったもの）と規定している。さらに同条第３項において，成績評価を係数化する場合は，Ｓ，Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄ及びＥをそれぞれ４，３，２，１及び０に換算する旨規定している。それをもとにＧＰＡの計算方法は次のとおりとなっている。

$$\frac{(4\times\text{Sの修得単位数})+(3\times\text{Aの修得単位数})+(2\times\text{Bの修得単位数})+(1\times\text{Cの修得単位数})}{\text{総履修単位数（D，Eの単位数も含める）}}$$

この計算方法で求めたＧＰＡについては，成績証明書に記載している。また，このＧＰＡ制度については，各学部ホームページ，学部要覧等で公表している。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	インターネット及び学部要覧等による公表。 １　法学部 https://www.law.nihon-u.ac.jp/educational_info/law.html ２　文理学部 https://chs.nihon-u.ac.jp/about/information/ 教育上の目的に応じ学生が習得すべき知識能力及び能力に関する情報 ３　経済学部 https://www.eco.nihon-u.ac.jp/disclosure/data_6/ ４　商学部 https://www.bus.nihon-u.ac.jp/education-information/ ５　芸術学部 http://www.art.nihon-u.ac.jp/campuslife/registration/gpa/ ６　国際関係学部 https://www.ir.nihon-u.ac.jp/pdf/yoran_2022.pdf?v=220418 （『履修要覧』に毎年度記載（今年度は 12・13 頁に記載）し，ホームページ上にも掲載） ７　危機管理学部 https://www.nihon-u.ac.jp/risk_management/about/disclosure/data9/ ８　スポーツ科学部 http://www.nihon-u.ac.jp/sports_sciences/about/disclosure/data9/ ９　理工学部 https://www.cst.nihon-u.ac.jp/about/education/index.html 10　生産工学部 http://www.cit.nihon-u.ac.jp/about/outline/graduation-requirements 11　工学部 http://www.ce.nihon-u.ac.jp/student/master.html#master01 12　医学部 https://www.med.nihon-u.ac.jp/kyouiku/hyoukakijyun.html 13　歯学部 https://www.dent.nihon-u.ac.jp/education/result/index.html 14　松戸歯学部 学修便覧及びホームページに掲載。 https://www.mascat.nihon-u.ac.jp/data/uploads/education/13/137/pdf1.pdf 15　生物資源科学部 https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/ 16　薬学部

	https://www.pha.nihon-u.ac.jp/media/gpa-2021.pdf 17　通信教育部 https://www.dld.nihon-u.ac.jp/education_info/
４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

（ 卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

卒業の認定に関する方針については，本学の「日本大学教育憲章」と各学部の教育研究上の目的等を踏まえ，制定している。また，同方針は，学位（学士）授与に当たっての修得すべき知識，態度，技能が示され，この方針に基づいて学位が授与される。同方針は，各学部のホームページ等に公表している。なお，各授業科目においては，同方針に定めた能力を獲得するために到達目標を定めており，それらの授業科目を履修・修得し，各学科が定めた卒業要件（単位数等）を満たした学生については，学長が卒業を決定している。

1　法学部　https://www.law.nihon-u.ac.jp/educational_info/diploma_policy.html

「日本大学の目的及び使命」を理解し，日本大学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」,「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を修得し,「リーガルマインド」を身につけた者に,「学士（法学)」の学位を授与する。

DP1　社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得し，法令遵守の精神と高い倫理観に基づいて，自らの使命・役割を果たすことができる。

DP2　日本及び世界の法，政治，行政，経済及びジャーナリズムの仕組みと，それが直面している問題を理解し，説明することができる。

DP3　社会科学の基礎的知識を基に，論理的，科学的，合理的かつ批判的な考察を通じて，新たな「知」の創造に寄与することができる。

DP4　社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的にかかわる中で，事象を注意深く観察して問題を発見し，解決策を提案することができる。

DP5　法規範をはじめとする社会システムに関する専門的知識を基に，あきらめない気持ちをもって，より良い社会・共同体の創造に果敢に挑戦することができる。

DP6　多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質，感性及び価値観を理解・尊重し，社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践し，自らの考えを伝えることができる。

DP7　社会・共同体のさまざまな活動において，より良い成果を上げるために，お互いを尊重し，自らすすんで協働するとともに，リーダーとして協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。

DP8　他者からの評価を謙虚に受け止め，自己の活動がより良い社会・共同体の創造に貢献することができたかを振り返ることにより，生涯にわたり，社会人としての自己を高めることができる。

2　文理学部　https://www.chs.nihon-u.ac.jp/about/diploma_policy/

①学士（文学）

日本大学文理学部（学士（文学））は，日本大学教育憲章に基づき,「日本大学の目的及び使命」を理解し,「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（文学））における能力を修得したものに,「学士（文学)」の学位を授与する。

［DP1］ 国内外の文学・思想・歴史・多様な言語を中心とした幅広く豊かな知識と教養を基に，社会に対しての倫理観を高めることができる。

［DP2］ 日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している問題を理解し，文学・様々な言語を中心とする専門性に基づきながら，その多様性について説明することができる。

［DP3］ 既存の知識にとらわれることなく， 得られる情報を人文系諸学の諸概念や理論に基づいて批判的， 論理的に考察し， その本質を理解しようと努めることができる。

［DP4］ 資料や事象を注意深く観察・検討し，自ら能動的に問題を発見し，人文系諸学の研究を通して解決策を提案することができる。

［DP5］ 人文系諸学の専門的知識を身に着け， 強い意思をもって， 人文学分野の未来に向かって果敢に挑戦することができる。
［DP6］ 様々な言語を通じて他者の意見を聴き，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝え，他者と実りのある議論をすることができる。
［DP7］ 人文系諸学の実践的なスキルを活用しながら，集団の中で他者と連携し，リーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
［DP8］ 客観的に自己を見つめ，振り返りを通じて，様々な文化についての知識や多様性の理解を活かしながら自己の資質を高めることができる。
②学士（社会学）
日本大学文理学部（学士（社会学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（社会学））における能力を修得したものに，「学士（社会学）」の学位を授与する。
［DP1］ 幅広く豊かな知識と教養，そして社会学の枠組みや方法を基に，自己の倫理観や社会に対する責任感を高めることができる。
［DP2］ 国際社会が直面している問題を理解し，日常生活から国際社会に至る現代社会の多層性と多様性について説明することができる。
［DP3］ 社会事象や問題の性質に合わせデータや文献を収集し，それに即して現代社会の多層性・多様性を論理的・批判的に思考することができる。
［DP4］ 社会学の枠組みや方法に即し社会事象や問題を観察・検討するのみならず，問題を発見・理解し，適切な解決策を提案することができる。
［DP5］ 社会学理論や実証を中心とする調査・研究を通じ，あきらめない気持ちで，社会問題の発見・解決や社会学の刷新に向かって果敢に挑戦することができる。
［DP6］ 社会学理論や実証を中心とする調査・研究を通じ，他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝え，他者と議論することができる。
［DP7］ 社会学理論や実証を中心とする調査・研究を通じ，対話や議論を積み重ねながらチームワークに必要なリーダーシップを発揮し，適正な形で協働者への支援を行うことができる。
［DP8］ 社会学理論や実証を中心とする調査・研究を通じ，自身の行為・態度を自己反省的に捉え返す省察力と自己管理能力を発揮することができる。
③学士（社会福祉学）
日本大学文理学部（学士（社会福祉学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（社会福祉学））における能力を修得したものに，「学士（社会福祉学）」の学位を授与する。
［DP1］ 幅広く豊かな知識と教養を基に，人間や社会に対しての倫理観を高めることができる。
［DP2］ 日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している社会福祉の問題を理解し，福祉社会の多様性について説明することができる。
［DP3］ 得られる情報を客観的に捉え，論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
［DP4］ 社会や身近な環境に存在する福祉課題を見抜き，職業人及び市民としての立場から，課題解決の方向を提案することができる。
［DP5］ どんなに困難な社会福祉の課題に関しても忍耐強く取り組み，社会福祉学の未来に向かって果敢に挑戦することができる。
［DP6］ 他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，問題解決するための信頼・協働関係を構築することができる。

［DP7］　集団において他者と連携しながら，リーダーシップを発揮し，社会福祉の当事者や協働者の力を引き出し，支援することができる。
［DP8］　自らの実践や社会との関わりを常に振り返り，社会の変化に応じた新たな知識や技能を学び，自己の資質を高めることができる。
④学士（教育学）
日本大学文理学部（学士（教育学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（教育学））における能力を修得したものに，「学士（教育学）」の学位を授与する。
［DP1］　幅広い教養と倫理感を持ち，学科の学位プログラムに基づいて習得した専門的知識・技能をつなぎ，総合的に活用することができる。
［DP2］　古今東西の多様な文化や社会について豊かな想像力と理解力をもち，少数者を含めた他者への共感的な感覚や態度を身に付けている。
［DP3］　学科の学位プログラムに基づいて習得した専門的・知識技能をつなぎ，総合的に活用する論理的・批判的思考力を身に付ける。
［DP4］　自然の摂理を解明するとともに，多くの対立や葛藤を抱えた人間・社会の複雑性を科学的に認識し，問題を見出すことができる。
［DP5］　自ら新しきを作り出す気概を持ち，行動できる。
［DP6］　言語や身体など，様々な媒体を通して他者の思いや考えを受けとめるとともに，自分の思いや考えを伝え，創造的な対話と議論を重ねることができる。
［DP7］　見出され問題に立ち向かい，的確な情報収集や分析をしながら多くの人々と協力し，解釈や解決に向けてリーダーシップを発揮することができる。
［DP8］　普遍的な市民としての自覚をもち，その専門的知識の社会的な意味を省察的に考え，総合的な活動につなげることができる。
⑤学士（体育学）
日本大学文理学部（学士（体育学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（体育学））における能力を修得したものに，「学士（体育学）」の学位を授与する。
［DP1］　体育学を中心とした幅広く豊かな知識と教養を基に，社会に対しての倫理観を高めることができる。
［DP2］　日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している問題を理解し，その多様性について説明することができる。
［DP3］　得られる情報を客観的に捉え，論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
［DP4］　資料や事象を注意深く観察・検討し，自ら能動的に問題を発見し，体育学を通して解決策を提案することができる。
［DP5］　あきらめない気持ちで，体育学分野の未来に向かって果敢に挑戦することができる。
［DP6］　他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝え，他者と議論することができる。
［DP7］　集団の中で他者と連携しながら，リーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
［DP8］　謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて，体育学を活かしながら自己の資質を高めることができる。
⑥学士（心理学）
日本大学文理学部（学士（心理学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（心理学））における能力を修得し

たものに,「学士（心理学)」の学位を授与する。
［DP1］ 心理学を中心とした，幅広く豊かな知識と教養を基に，社会に対しての倫理観を高めることができる。
［DP2］ 現代社会が直面している問題を理解し，その多様性について心理学を活かしながら説明することができる。
［DP3］ 得られる情報を客観的に捉え，論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
［DP4］ 資料や事象を注意深く観察・検討し，自ら能動的に問題を発見し，心理学を活かしながら解決策を提案することができる。
［DP5］ あきらめない気持ちで，心理学に解決が託された課題に向かって果敢に挑戦することができる。
［DP6］ 他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝え，他者と議論することができる。
［DP7］ 集団の中で他者と連携しながら，リーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
［DP8］ 謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて，心理学を活かしながら自己の資質を高めることができる。
⑦学士（地理学）
日本大学文理学部（学士（地理学））は，日本大学教育憲章に基づき,「日本大学の目的及び使命」を理解し,「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（地理学））における能力を修得したものに,「学士（地理学)」の学位を授与する。
［DP1］ 地理学に関する幅広く豊かな知識と教養を基に，社会に対しての倫理観を高めることができる。
［DP2］ 日本及び世界の情勢や，国際社会が直面している問題を理解し，その多様性について説明することができる。
［DP3］ 得られる情報を客観的に捉え，論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
［DP4］ 資料や事象を注意深く観察・検討して，自ら能動的に問題を発見し，地理学に基づく解決策を提案することができる。
［DP5］ あきらめない気持ちで，地理学分野が解決すべき課題に向かって果敢に挑戦することができる。
［DP6］ 他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝えて，他者と議論することができる。
［DP7］ 集団の中で他者と連携しつつリーダーシップを発揮し，協働者の力を引き出して，その活躍を支援することができる。
［DP8］ 謙虚に自己を見つめ，振り返ることで，地理学を活用しながら自己の資質を高めることができる。
⑧学士（理学）
日本大学文理学部（学士（理学））は，日本大学教育憲章に基づき,「日本大学の目的及び使命」を理解し,「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（理学））における能力を修得したものに,「学士（理学)」の学位を授与する。
［DP1］ 社会人として必要な教養を身に着け，科学技術の進歩がもたらす倫理的問題を理解し，自らの役割を説明することができる。
［DP2］ 現代社会における情報科学・自然科学の役割を理解し，国際社会が直面している問題点などを説明することができる。
［DP3］ 物事を科学的根拠に基づいて客観的に捉え，批判的・論理的に考察し，既存の知識にとらわれることなく，物事の本質を捉えることができる。

［DP4］　日常生活における現象を注意深く観察・検討し，自ら能動的に考察することにより科学的問題を発見し，解決策を提案することができる。
［DP5］　情報科学・自然科学の専門的知識を身に付け，あきらめない意思を持って，未解決問題に向かって果敢に取り組むことができる。
［DP6］　社会的・学問的背景の異なる他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解すると共に自分の考え方をわかりやすく伝え，他者と議論することができる。
［DP7］　学修活動のみならず日常生活においても他者と連携し，時には自ら進んでリーダーシップを発揮することで協働者の力を引き出すことができる。
［DP8］　他者の評価を謙虚に受け止め，自分の学修生活がもたらす意義を追求し，科学分野の知識や経験を活かしながら自己の資質を高めることができる。

3　経済学部　https://www.eco.nihon-u.ac.jp/education/

日本大学経済学部（学士（経済学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，次表に示す「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」，「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（経済学））における能力を修得した者に，「学士（経済学）」の学位を授与する。
［DP1］　経済社会に関する豊かな知識・教養を基に倫理的に判断することができる。
［DP2］　グローバル化する経済社会の複雑な実態を理解し，説明することができる。
［DP3］　経済学・経営学の知識及び理論を理解し，得られる情報を基に論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
［DP4］　経済学・経営学に関する理論及びデータ分析手法を活用し，経済社会に関わる問題を発見し，解決策を提案することができる。
［DP5］　あきらめない気持ちで経済社会が直面する課題に果敢に挑戦することができる。
［DP6］　他者の意見を聴き，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えをわかりやすく他者に伝えることができる。
［DP7］　他者と協働しながら，自らの役割を認識するとともに，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
［DP8］　自ら省みて，状況を改善する方策を見出すことができる。

4　商学部　https://www.bus.nihon-u.ac.jp/education-information/

日本大学学則第１条に掲げた「自主創造」を教育の基本理念とし，その教育理念を達成するために学士課程を通して，自立した個性・豊かな人間性・専門的創造性・世界的視野を持つ人材の育成を目指す。そして，グローバルビジネス社会に対応できる実学を学修し，日本だけでなく，世界で新しく生まれるビジネスシーンを創造し，現代社会が直面する諸問題の解決を通じて，人々の幸福の増進に寄与できる人材を養成し，以下に掲げる８つの能力を修得するために設定された卒業要件を満たした者に，学士（商学）の学位を授与する。

DP1　幅広い知識・教養，豊かな人間力と高い倫理観に裏打ちされた，確かな常識を持つ市民として，正しいビジネス判断ができる。
DP2　ビジネスに必須とされる教養，英語，ビジネスツール，コミュニケーション力を持つことで，様々なビジネスシーンを理解し，説明することができる。
DP3　ビジネスの世界の多様な情報を基にして，自らの視点から論理的・批判的な思考を行うことができる。
DP4　目まぐるしく変化するビジネス環境の中で，事業を注意深く観察して問題を発見し，解決策を提案することができる。
DP5　ビジネスシーンにおいて，新境地開拓に向けて，失敗を恐れず，果敢に粘り強く挑み続けることができる。
DP6　ビジネスシーンにおいて，他者の考えを理解し自分の考えを正確に伝えるこ

とで，相互理解や共同作業を進めることができる。
DP7　グローバル社会の中で，国籍・言語を超えて連携協力しながら，リーダーシップを発揮しつつ，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
DP8　常に自分の言動を振り返り自省することで，自分の長所短所を知り，自己啓発をすることができる。

5　芸術学部　http://www.art.nihon-u.ac.jp/about/policy/education/

日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，次表に示す「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」，「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（芸術））における能力を修得した者に，「学士（芸術）」の学位を授与する。

DP1　芸術に関する豊かな知識と教養を基に，社会に対しての倫理観を高めることができる。
DP2　日本及び世界の歴史や直面している問題を理解し，その多様性について説明することができる。
DP3　得られる情報を客観的に捉え，論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
DP4　事象を注意深く観察して，自ら能動的に課題を発見し，芸術表現を通して解決策を提案することができる。
DP5　あきらめない気持ちで，芸術分野の未来に向かって果敢に挑戦することができる。
DP6　他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝え，他者を納得させることができる。
DP7　集団のなかで他者と連携しながら，リーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
DP8　謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて自己を高め，芸術表現に活かすことができる。

6　国際関係学部　https://www.ir.nihon-u.ac.jp/guide/info-ed/

日本大学国際関係学部（学士（国際関係））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，次表に示す「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」，「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（国際関係））における能力を修得した者に「学士（国際関係）」の学位を授与する。

DP1　国際社会に通用する豊かな知識と幅広い教養力を身につけることにより，倫理観を高めることができる。
DP2　国際的な諸問題を理解し，専門分野における基本的な知識を身に付け，世界の現状を説明することができる。
DP3　国際情勢を理解し，国際社会の各分野で活躍・貢献できる論理的かつ批判的な思考をすることができる。
DP4　国際実務の現場で実務に即応した問題を発見し，解決策を提案することができる。
DP5　国際社会の各分野において，あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦し，政策立案を提言し行動することができる。
DP6　多様な価値観を受け入れる気構えと気質を養い，多文化共生・日本の特質を理解し，国際社会の中で積極的にコミュニケーションを実践し，外国語で自分の考えを伝えることができる。
DP7　探究心を養い，率先して物事を解決する力を修得することにより，国際社会において他者と連携を図り，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
DP8　自己を見つめ，学修を通じて，振り返りを行い，多様な国際社会の中で自己を向上させることができる。

7　危機管理学部

https://www.nihon-u.ac.jp/risk_management/about/disclosure/data8/

自主創造の理念の下，豊かな教養と確かな知性の上に，法学と危機管理学とを融合させた学識を構築する教育課程を通じて，危機管理の重責を全うしようとする使命感と，その実践に不可欠な，自ら学び，考え，道をひらくための以下の能力等を身につけ，所定の単位を修得した者に，「学士（法学）」を授与する。

DP1　市民的素養を基礎として，法学と危機管理に関する高度な学識と技能（リーガルマインド，リスクリテラシー）を運用する能力

〔DP1-D〕市民的素養・市民的教養

市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために，知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。

〔DP1-E〕学識・専門技能

専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。

DP2　国際的教養人としての感性

〔DP2-A〕日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢

地球的視点で物事を多面的に捉え，異文化との交流の重要性を認識するとともに，異文化との交流を積極的かつ多面的に行い，相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。

〔DP2-B〕自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢

自己の存在意義を知り，自らを高め続けようと努力することができる。

DP3　問題を適切に把握して，合理的な判断につなげられる能力

〔DP3-G〕状況把握力・判断力

自らの置かれた状況，及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し，適切に対応することができる。

〔DP3-H〕論理的思考力・批判的思考力

理路整然とした思考を備えつつ，偏りを排除するための内省をもって，問題・課題を合理的に解決することができる。

DP4　問題を探求し，状況を的確に分析する能力

〔DP4-F〕探究力・課題解決力

問を設定し又は論点を特定し，それに対する答・結論・判断を合理的に導くために，論拠の収集と分析を体系的に行うとともに，オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし，検証し実行することができる。

〔DP4-I〕理解力・分析力

文章表現，数値データを適切に扱いつつ，情報の収集と取捨選択，分析と加工を有効かつ円滑に行い，課題の解決につなげることができる。

DP5　新たな可能性を追求し果敢に挑戦し続ける行動力

〔DP5-J〕創造的挑戦力・達成力

コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを，自らの思考及び行動のパターンとするとともに，既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し，リスクをとりながら，結果に結び付けることができる。

DP6　グローバルに行動できるコミュニケーション能力

〔DP6-K〕表現力・対話力

文章及び口頭で，自らの考えを的確に表現し，他者に過不足なく伝達することができる。

DP7　多様な価値を受容し，対立を乗り越え，協働を通じて社会の安定，安全と世界の平和を希求する公共心

〔DP7-C〕他者理解・倫理観・公共心

人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み，社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。

〔DP7-L〕協働力・牽引力
集団的に課題解決を行う際に，自己の立場や責任を認識し，互いに集団の連帯を強めることができる。
DP8　課題発見・仮説構築・仮説検証・課題解決・省察のプロセスを主体的に反復する思考様式
〔DP8-M〕省察力
知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに，これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。

8　スポーツ科学部
http://www.nihon-u.ac.jp/sports_sciences/about/policy/#content1
スポーツ科学部（学士（体育学））は，スポーツ立国を目指す我が国の競技スポーツの発展に貢献するべく，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部における能力を修得したものに，「学士（体育学）」の学位を授与する。
DP1（DP1-D・DP1-E）
競技スポーツ分野における反省的実践家としての実践力を構成する基礎的・汎用的能力及び社会一般的な倫理観を高めることができる。
DP2（DP2-A・DP2-B）
自国のスポーツ文化を理解し、スポーツを通した国際的教養人としての感性を高めることができる。
DP3（DP3-G・DP3-H）
スポーツに関わる様々な問題を適切に把握して，合理的な判断につなげられる能力を高めることができる。
DP4（DP4-F・DP4-I）
スポーツ界が抱える問題を探求し，その状況を的確に分析する能力を高めることができる。
DP5（DP5-J）
スポーツの新たな可能性を追求し、様々な領域、領野から果敢に挑戦し続ける行動力を高めることができる。
DP6（DP6-K）
スポーツを通してグローバルに行動できるコミュニケーション能力を高めることができる。
DP7（DP7-C・DP7-L）
スポーツを通して社会にある多様な価値を受容し，対立を乗り越え，協働を通じて社会の安定を希求する公共心を高めることができる。
DP8（DP8-M）
課題発見・仮説構築・仮説検証・課題解決・省察のプロセスについて、スポーツ科学の手法に基づき主体的に反復する思考を高めることができる。

9　理工学部　https://www.cst.nihon-u.ac.jp/about/education/index.html
【日本大学理工学部（工学）卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）】
日本大学理工学部は，日本大学教育憲章に基づき，以下の能力を身に付け，所定の年限在学し，かつ所定の授業科目及び単位を修得した学生の卒業を認定し，学士（工学）の学位を授与する。
1　豊かな教養・知識に基づいた高い倫理観を有し，人類の平和と福祉に貢献できる。
2　世界情勢を理解し，国内外において直面している状況を理解し，その多様性及び自身の考えを説明することができる。
3　得られる情報を基に工学に関する知見から論理的な思考，批判的な思考をする

ことができる。
4　事象を注意深く観察して能動的に課題を発見し，豊かな創造性及び工学に関する専門的知識を基に解決策を提案することができる。
5　旺盛な探究心を持ち，あきらめない気持ちで社会における様々なことに対し果敢に挑戦することができる。
6　他者の意見を聴き，自身の考えを伝え，互いの個性・特色を理解することができる。
7　集団においてリーダーシップを発揮し，他者と連携することで，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
8　謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて自己を高めることができる。

【日本大学理工学部（理学）卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー)】
日本大学理工学部は，日本大学教育憲章に基づき，以下の能力を身に付け，所定の年限在学し，かつ所定の授業科目及び単位を修得した学生の卒業を認定し，学士（理学）の学位を授与する。
1　豊かな教養・知識に基づいた高い倫理観を有し，人類の平和と福祉に貢献できる。
2　世界情勢を理解し，国内外において直面している状況を理解し，その多様性及び自身の考えを説明することができる。
3　得られる情報を基に理学に関する知見から論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
4　事象を注意深く観察して能動的に課題を発見し，豊かな創造性及び理学に関する専門的知識を基に解決策を提案することができる。
5　旺盛な探究心を持ち，あきらめない気持ちで社会における様々なことに対し果敢に挑戦することができる。
6　他者の意見を聴き，自身の考えを伝え，互いの個性・特色を理解することができる。
7　集団においてリーダーシップを発揮し，他者と連携することで，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
8　謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて自己を高めることができる。

10　生産工学部　http://www.cit.nihon-u.ac.jp/about/outline/policy
日本大学教育憲章，生産工学部の教育目標並びに各学科の教育研究上の目的に基づいた教育課程により，以下の項目を修得している者に学士（工学）の学位を授与する。
DP1　豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき，倫理観を高めることができる。
DP2　国際的視点から，必要な情報を収集・分析し，自らの考えを説明することができる。
DP3　専門分野を体系的に理解して得られる情報に基づき，論理的な思考・批判的な思考をすることができる。
DP4　生産工学に関する視点から，新たな問題を発見し，解決策をデザインすることができる。
DP5　生産工学の視点から，適切な目標と手段を見定め，新たなことにも挑戦し，やり抜くことができる。
DP6　多様な考えを受入れ，適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。
DP7　チームの一員として目的・目標を他者と共有し，達成に向けて働きかけながら，協働することができる。
DP8　経験を主観的・客観的に振り返り，気付きを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

11　工学部
http://www.ce.nihon-u.ac.jp/wordpress/wp-content/uploads/2019/03/gakubu_dp.pdf
日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」，「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部における能力を修得した者に，「学士（工学）」の学位を授与する。
DP1　工学技術が社会と環境に及ぼす影響を理解し，幅広い知識・教養に基づく高い倫理観を涵養することができる。
DP2　グローバル化する社会における工学技術者として，多文化や異文化に関する知識や国際社会が直面している問題を理解し説明することができる。
DP3　体系化された継続的な学修により工学の基礎力を身につけ，工学技術者として論理的，批判的な思考をすることができる。
DP4　工学の基礎力に基づいて，自ら問題を発見し考察できる発想力と分析力を持ち，問題の解決策を提案できる。
DP5　地球環境の保全や健康的な生活に工学の立場から寄与し，持続可能な社会の実現のために，あきらめない気持ちを持って果敢に挑戦することができる。
DP6　社会性を持つ工学技術者として，常に他者の意見に耳を傾け，自らの意見を相手に伝えることができる。
DP7　工学技術者の立場から他者との協働を通して，リーダーとして他者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
DP8　自己を見つめ，自らの言動を謙虚に振り返り，工学技術者として自己を高めることができる。
12　医学部　http://www.med.nihon-u.ac.jp/gaiyou/policy.html
日本大学教育憲章に基づき，日本大学マインド，すなわち日本文化を理解し，国民の福祉・健康に寄与し，多様な文化を受容し，地域社会及び国際社会に貢献できる医師を輩出するため，日本大学の教育理念「自主創造」を構成する３つのカテゴリーである「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道を開く」姿勢を育み，本学部の理念「醫明博愛」を実践する資質と能力を身につけ，所定の単位を修得した学生に卒業を認定し，学位（学士）を授与する。
DP1　「教養・知識に基づく高い倫理観」
生命に対する尊厳を持ち，責任ある医療を実践するための豊かな教養と医学の知識を修得し，倫理的原則に基づいた医療を実践できる。(医師としての職責・倫理観とプロフェッショナリズム)
DP2　「保健・医療・福祉の社会性を理解して，世界の現状を理解し，説明する力」
自己の専門領域の文化的･社会的位置付けを把握し，地域社会及び国際社会の保健･医療･福祉の現状を理解して，疾病予防と健康増進の向上に寄与することができる。(疾病予防と健康増進・医療の社会性)
DP3　「論理的・批判的思考力」
新たな知識の創造をめざし，得られる情報を基に実証的・論理的な思考，及び批判的な思考ができる。(科学的探究・医学研究への志向・医学的知識と問題対応能力)
DP4　「問題発見・解決力」
患者に対して思いやりと敬意を示し，基礎・臨床・社会医学領域において，自らの立場を基に，事象を注意深く観察して，問題を発見し，解決策を提案することができる。(診療技能と患者ケア・科学的探究・問題対応能力)
DP5　「省察力」
生涯にわたり，患者の安全を基盤に医療の質を担保し，謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて基礎･臨床･社会医学領域において自己を高めることができる。(自律的学習能力・医療の質と安全管理・生涯にわたって共に学ぶ姿勢)
DP6　「挑戦力」

医療の基盤となる基礎・臨床・社会医学等の知識を基に，新しい医学知識や医療技術の創造に果敢に挑戦することができる。(医学知識と問題対応能力・科学的探究)

DP7　「コミュニケーション力」

国内外の多様な文化，社会，環境の中で他者を理解し，その価値観を尊重し，医療の現場において適切なコミュニケーションを主体的に実践し，自らの考えを伝え，発信することができる。(コミュニケーション能力・社会における医療の実践・診療技能と患者ケア)

DP8　「リーダーシップ・協働力」

患者とその近親者，及び医療チームを尊重し，医療の質の向上と患者の安全管理を確保するために，責任ある医療を実践する上での協働力・リーダーシップを有する。(チーム医療の実践・プロフェッショナリズム・医療の質と安全管理)

13　歯学部　https://www.dent.nihon-u.ac.jp/about/policy/

日本大学教育憲章では「日本大学マインド」として「日本の特質を理解し伝える力」，「多様な価値を受容し，自己の立場・役割を認識する力」，「社会に貢献する姿勢」の三つを掲げている。本学部は，日本大学の医療系学部として，自主創造の三要素「自ら学ぶ」，「自ら考える」，「自ら道をひらく」を基盤とした医療人を育成する。本学部は，所定の単位を修得し，課題探求能力や自己学習能力を高め，患者本位の歯科医療ができる人間性豊かで，的確な診察・治療を行える「社会に有為な歯科医師」として認められる学生に対し，卒業を認定し，学位（学士）を授与する。

DP1　医の尊厳を理解し，法と倫理に基づいた医療を実践するために必要な豊かな教養と歯科医学の知識を修得できる。

DP2　国際社会の現状と背景を理解し，地域社会における医療・保健・福祉の役割が説明できる。

DP3　多岐にわたる知識や情報を基に，論理的な思考や批判的な思考ができる。

DP4　自ら問題を発見し，その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

DP5　新たな課題の解決策を見い出すために，基礎・臨床・社会医学等の知識を基に積極的に挑戦し続けることができる。

DP6　医療をはじめとする様々な場面において，他者との円滑な意思の疎通を行い，互いに価値観を共有し，適切なコミュニケーションを実践して自らの考えを発信することができる。

DP7　患者を中心としたチーム医療において，責任ある医療を実践するためのリーダーシップと協働力を養うことができる。

DP8　プロフェッショナルとして生涯にわたり，振り返りを通じて基礎・臨床・社会歯科領域において自らを高めることができる。

14　松戸歯学部　https://www.mascat.nihon-u.ac.jp/info/purpose.html

松戸歯学部は，日本大学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」，「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ，松戸歯学部の教育理念に基づいた各分野の授業科目をすべて修得し，以下の到達目標に達した者に学士（歯学）の学位を授与する。

＜自ら学ぶ＞

・豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

〔DP1〕幅広い教養と豊かな人間性に基づく高い倫理観を持ち，医療の中での役割を認識して社会に貢献できる。

・世界の現状を理解し，説明する力

〔DP2〕国際社会における歯科医学や医療の現状を理解し，その多様性について説明できる。

＜自ら考える＞

・論理的・批判的思考力

〔DP3〕歯科医学の研鑽によって得られる情報を基に論理的な思考，批判的な思考をすることができる。

・問題発見・解決力

〔DP4〕自ら能動的に課題を発見し，歯科医学の知識に基づく問題解決ができる。

＜自ら道をひらく＞

・挑戦力

〔DP5〕医療人として新しいことに挑戦し，自らの道を切り拓くことができる。

・コミュニケーション力

〔DP6〕歯科医療に必要なコミュニケーション力を有し，かつ実践できる。

・リーダーシップ・協働力

〔DP7〕地域社会における保健，医療，福祉および介護などに貢献するために必要な多職種の医療・福祉従事者と連携，協働かつ支援することができる。

・省察力

〔DP8〕生涯にわたり謙虚に自己を見つめ，自己分析の習慣を身に付け，医療人としての資質を高めることができる。

15　生物資源科学部　https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/educational_goal/

①学士（生物資源学）

「日本大学教育憲章」に則り，日本や国際社会が直面している生命･食料･資源･環境に関するさまざまな問題を発見･解決し，科学･技術の持続的な発展に貢献することを基本理念としている。また，生物資源の生産と利用に関する科学（以下 「生産･利用科学」），「生命科学」，「環境科学」の三分野を基軸とした生物資源科学に関する幅広い知識と高い専門性，豊かな教養，人間活動に関する深い洞察力，高い倫理観を身につけた人材の育成を教育目標としている。生物資源科学部では，これらの基本理念と教育目標に基づき，「日本大学マインド」と「自主創造」の能力を身につけ，かつ各学科の教育研究上の目的に対して設定された卒業要件を満たす者に，学士（生物資源学）の学位を授与する。

具体的到達目標

【自ら学ぶ】

DP1　豊かな教養と生命･食料･資源･環境に関する幅広い知識に立脚した高い倫理観を身につけ，健康で快適な生活，自然環境の保全･修復に貢献できる。

DP2　日本や国際社会が直面している生命･食料･資源･環境に関するさまざまな問題を理解し，説明することができる。

【自ら考える】

DP3　生物資源科学に関するあらゆる情報を収集して総括し，論理的・批判的な思考をすることができる。

DP4　日本や国際社会が直面している生命･食料･資源･環境に関するさまざまな問題を発見し，解決策を提案することができる。

【自ら道をひらく】

DP5　学問および科学の発展に寄与するために，自らが設定した課題に果敢に挑戦し，調査･実験などにより得られた研究成果を発信することができる。

DP6　生物資源科学に関する英語や日本語の文献，情報を調査して他者の意見を理解し，自分の考えを伝えることができる。

DP7　生物資源科学に関連するさまざまな分野の人々と連携・協働すること，リーダーシップを発揮して他者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。

DP8　地域社会，日本及び世界における生命･食料･資源･環境をめぐる人間活動において，自己の立場と役割を認識し，生物資源科学に関わるさまざまな活動に貢献することができる。

②学士（獣医学）

「日本大学教育憲章」に則り，日本や国際社会が直面している生命･食料･資源･

環境に関するさまざまな問題を発見･解決し，科学･技術の持続的な発展に貢献することを基本理念としている。また，獣医学科では豊かな教養，獣医学に関連する幅広い知識と高い専門性，高い倫理観を身につけた人材の育成を教育目標としている。これらの基本理念と教育目標に基づき，「日本大学マインド」と「自主創造」の能力を身につけ，かつ獣医学科の教育研究上の目的に対して設定された卒業要件を満たす者に，学士（獣医学）の学位を授与する。

具体的到達目標

【自ら学ぶ】

DP1　獣医師として活躍するのに必要とされる豊かな教養・知識・技術を修得し，法令遵守の精神と高い倫理観に基づいて，自らの使命・役割を果たすことができる。

DP2　日本や国際社会における飼育動物の診療，保健衛生・福祉と公衆衛生の向上，畜産業に関する諸問題を理解し，説明することができる。

【自ら考える】

DP3　獣医学に関連するさまざまな情報を基に，論理的・批判的な思考をすることができる。

DP4　日本や国際社会における獣医学に関連する諸問題を発見し，その解決策を提案することができる。

【自ら道をひらく】

DP5　獣医学の発展に寄与するために，新たな問題や課題に果敢に挑戦することができる。

DP6　獣医師としての社会的な責務や役割を理解し，自分の考えを正しく伝え，実行することができる。

DP7　獣医師として適切なリーダーシップを発揮し，さまざまな分野の人々と連携・協働することができる。

DP8　将来にわたって獣医学に関する専門知識及び技術を省察・研鑽し，獣医学の関わる様々な分野に貢献することができる。

16　薬学部　https://www.pha.nihon-u.ac.jp/outline/policy/

日本大学薬学部は，日本大学教育憲章に基づき，日本大学の目的及び使命を理解し，薬学部の教育研究上の目的のもとに設定した以下の能力を身に付け，所定の年限在学し，所定の授業科目及び単位を修得した学生の卒業を認定し，学士（薬学）の学位を授与する。

・豊かな知識・教養に基づいた高い倫理観を有し，医療人として社会に貢献できる。（ＤＰ１）
・日本を含む世界の情勢や直面している問題を理解し，その多様性及び自身の考えを説明することができる。（ＤＰ２）
・豊かな知識と教養を基に，薬剤師として論理的な思考，批判的な思考をすることができる。（ＤＰ３）
・事象を注意深く観察して問題を発見し，薬学に関する豊かな専門知識を基に解決策を提案することができる。（ＤＰ４）
・探究心を持ち，あきらめない気持ちで医療の発展のために新しいことに対し，果敢に挑戦することができる。（ＤＰ５）
・他者の意見を聴き，自分の考えを伝え，互いの価値観を理解・尊重することができる。（ＤＰ６）
・集団において，リーダーシップを発揮し，他者と協働してその力を引き出し，活躍を支援することができる。（ＤＰ７）
・謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて自己を高めることができる。（ＤＰ８）

17　通信教育部

①法学部

日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，次表に示す「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」，「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（法学））における能力を修得した者に，「学士（法学）」の学位を授与する。

②文理学部

日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，次表に示す「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」，「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（文学））における能力を修得した者に，「学士（文学）」の学位を授与する。

③経済学部

学士課程を通して，自立した個性，豊かな人間性，専門的創造性，世界的視野を持つ人材として自ら成長する，日本大学の学則第１条に掲げた「自主創造」を教育の基本理念とする。教養教育，経済学の学修を通じて，経済社会システムを構成する市場・企業・制度・政策に関する深い知識を身につけ，主体的に考え，行動することで，変化し続ける経済社会が直面する諸問題の解決を通じて，人々の幸福の増進に寄与できる人材の育成を目標とする。このディプロマ・ポリシーに基づき設定された卒業要件を満たした者に，学士（経済学）の学位を授与する。

④商学部

日本大学学則第１条に掲げた「自主創造」を教育の基本理念とする。その教育理念を達成するために学士課程を通して，自立した個性・豊かな人間性・専門的創造性・世界的視野を持つ人材として成長することを目指す。そして，グローバルビジネス社会に対応できる実学を修得し，日本だけでなく，世界で新しく生まれるビジネスシーンを創造し，現代社会が直面する諸問題の解決を通じて，人々の幸福の増進に寄与できる人材を育成する。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	インターネットによる公表。 １　法学部 https://www.law.nihon-u.ac.jp/educational_info/diploma_policy.html ２　文理学部 https://www.chs.nihon-u.ac.jp/about/diploma_policy/ ３　経済学部 https://www.eco.nihon-u.ac.jp/education/ ４　商学部 https://www.bus.nihon-u.ac.jp/education-information/ ５　芸術学部 http://www.art.nihon-u.ac.jp/about/policy/education/ ６　国際関係学部 https://www.ir.nihon-u.ac.jp/guide/info-ed/ ７　危機管理学部 https://www.nihon-u.ac.jp/risk_management/about/disclosure/data8/ ８　スポーツ科学部 http://www.nihon-u.ac.jp/sports_sciences/about/disclosure/data8/ ９　理工学部 https://www.cst.nihon-u.ac.jp/about/education/index.html 10　生産工学部 http://www.cit.nihon-u.ac.jp/about/outline/policy 11　工学部 http://www.ce.nihon-u.ac.jp/wordpress/wp-content/uploads/2019/03/gakubu_dp.pdf 12　医学部 http://www.med.nihon-u.ac.jp/gaiyou/policy.html https://www.med.nihon-u.ac.jp/syllabus.html 13　歯学部 https://www.dent.nihon-u.ac.jp/about/policy/ 14　松戸歯学部 学修便覧及びホームページに掲載。 https://www.mascat.nihon-u.ac.jp/info/purpose.html 15　生物資源科学部 https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/educational_goal/ 16　薬学部 https://www.pha.nihon-u.ac.jp/outline/policy/ 17　通信教育部 https://www.dld.nihon-u.ac.jp/education_info/

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	日本大学
設置者名	学校法人日本大学

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.nihon-u.ac.jp/disclosur/financial/report/
収支計算書又は損益計算書	https://www.nihon-u.ac.jp/disclosur/financial/report/
財産目録	https://www.nihon-u.ac.jp/disclosur/financial/report/
事業報告書	https://www.nihon-u.ac.jp/disclosur/financial/report/
監事による監査報告（書）	https://www.nihon-u.ac.jp/disclosur/financial/report/

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：事業計画　　対象年度：令和４年度（継続計画含む）
公表方法：ホームページで公表 https://www.nihon-u.ac.jp/disclosur/financial/report/
中長期計画（名称：中期計画　　対象年度：令和３年度～令和８年度）
公表方法：ホームページで公表 https://www.nihon-u.ac.jp/disclosur/financial/report/

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：ホームページで公表 https://www.nihon-u.ac.jp/about_nu/evaluation/self_evaluation/

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：ホームページで公表 https://www.nihon-u.ac.jp/about_nu/evaluation/result/

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　法学部・文理学部・経済学部・商学部・芸術学部・国際関係学部・危機管理学部・スポーツ科学部・理工学部・生産工学部・工学部・医学部・歯学部・松戸歯学部・生物資源科学部・薬学部・通信教育部

教育研究上の目的（公表方法：インターネットによる公表）

（概要）

１　法学部　https://www.law.nihon-u.ac.jp/educational_info/law.html

法律の知識を基礎として，高水準の実践的な専門教育と国際的教養人としての教養教育に努め，高い倫理観と優れた人格を備えた法律的なものの考え方ができる人材を養成する。また，高度な職業意識と専門的な能力を兼ね備えた人材を養成する。

２　文理学部　https://www.chs.nihon-u.ac.jp/about/information/

文理学部は，人文学をはじめ社会科学や理学に関する幅広い学問領域をカバーし，「文と理」の横断，融合を目指した教育を基本として，各学科による個々の専門に応じた教育・研究を行う。そのために，

①学際的な専門知（Interdisciplinary Expertise）

②学びと教えの循環（“Peer to Peer” Learning）

③他者への想像力（Imagination for Others）

の３つの柱を組み合わせた教育・研究を通して，グローバル化した 21 世紀を生きぬき，自由でしなやかに社会をリードすることができる多様性とアイデンティティ(Diversity and Identities)を形成する。

これにより，専門的な知識や技術とともに，境界を超えた柔軟で学際的な思考と創造力，そして対等に開かれた学びのネットワークを通じて，既成概念を超えた新しい協働の場を作り，正解のない困難な課題に立ち向かうことのできる創造的かつ実践的な知の担い手としての人材を養成する。

（哲学科）

哲学・倫理学・美学・宗教学の理論と方法を学ぶことを通じて，人間の価値と文化的実践に関わる総合的・体系的研究を行う。特に，古今の哲学者の著作や資料を厳密に読み解くことを基本としながら，思想全般にわたる幅広い知識を身につけて，鋭い思考力と複眼的なものの見方を養う。それによって，多様化する現代社会の中で自ら問題を発見し，分析して解決することができる人材を養成する。

（史学科）

現代社会の様々な問題を解決するためには，過去の経緯を踏まえることが必要である。ゼミナール制を基本とした充実した教育環境の下で，歴史及びその研究法を習得し，歴史的視点と，より正確な歴史像把握の方法を身に付け，豊かな現代社会の構築に寄与する人材を養成する。

（国文学科）

日本語学・日本文学の各分野における多角的で総合的な研究に基づく教育のもと，中学校・高等学校等の国語科・書道科教員をはじめとして，日本語・日本文学・日本文化に関する深い知識と，それらを駆使した優れた思考力，対話力，文章力，プレゼンテーション能力をもった，社会的に有為な人材を養成する。

（中国語中国文化学科）

本学科では，「読む・書く・聞く・話す」などすべての面で実用にたえる中国語の教育を行う。さらに，長い歴史と広い領域にわたる多様な中国文化を理解し，東アジアを主とする国際社会で活躍できる人材を養成する。

（英文学科）
高度な英語運用能力と英米文学及び英語学の知識に基づく豊かな教養を備え，国際社会の場をはじめ各方面で活躍できる能力を持つ人材を養成する。具体的には，コミュニケーション中心の科目群の学修を通して社会に十分通用する英語運用能力を身に付けさせ，英米の文学・文化・言語の専門知識に裏打ちされた多様な価値観を持つ，個性豊かな人材を養成する。
（ドイツ文学科）
1959（昭和 34）年の学科創設以来の研究と教育の蓄積を活かし，ドイツ語力を基盤にしたドイツ，オーストリア，スイスなどのドイツ語圏の文学・言語学・文化についての専門的な指導を行い，また実用ドイツ語力を身に付けられるようドイツ語ネイティヴ教員による授業を多数開講するほか，ドイツ語技能検定試験や海外語学研修も単位認定をする形で受験・参加を奨励し，国際的な広い視野と豊かな感性並びに柔軟な判断力を備えた有為な人材を養成する。
（社会学科）
1920（大正 9）年の学科創設以来，「文と理」の横断・融合を目指す文理学部の中で，自然科学と異なる問題意識から出発した社会科学において独自の特徴を有する社会学の強みを活かし，理論と実証と実践のいずれをも重視する学風を築き上げてきた。このような伝統の下で，グローバル化する現代社会における問題や課題を見いだし，その解決に力を発揮することで，自由でしなやかな社会の構想を具体化する人材の養成を目指す。具体的には，①社会学の理論・学説と方法を深く学び身に付け，②社会学的な思考力や想像力を培い，③現実社会を的確に調査・分析し考察する力を高め，④企画立案と課題解決のための力を養成する。
（社会福祉学科）
社会福祉のあり方は，社会の変化や人々の価値観の多様化，その時々の経済情勢などに対応することが求められる。また，社会福祉の主体は，行政機関，非営利団体，地域の組織や住民，社会的企業など多岐にわたる。
こうした社会の状況を踏まえつつ，社会福祉学の理念や制度，社会福祉の実践（ソーシャルワーク）を融合した教育研究を実現することで，変化・多様化するニーズに柔軟に対応し，さまざまな主体との協働によって，人々が幸せに生活することができる福祉社会の創造に貢献できる人材の養成を目的とする。
このため，多彩な福祉専門領域の教育研究を通じて，社会福祉の理論や相談援助に関する価値・知識・技術を体系的に学ぶとともに，それぞれの学生のキャリア形成も見据えつつ，社会問題の解決を目指した多様な分野の理論や実践に触れることで，高い専門性，豊かな人間性と福祉マインド，地域における協働を通じた社会問題の解決に取り組む実践力を育む。
（教育学科）
教育については，原理的かつ総合的に学習することにより，教職をはじめとする多様な分野において活躍し得る人材を養成する。研究については，教育に関する幅広い視野と問題意識をもつ多くの教員を擁し，各分野における最前線の研究活動を通じて，その成果を学生に還元する。
（体育学科）
体育・スポーツ・健康を取り巻く様々な学問領域における最先端の研究成果を活かしながら，優れた運動技能と高度な科学的知識・技術及び実践力を備えた，活力あふれる人間性豊かな専門家を養成する。
（心理学科）
基礎と応用の両領域で，バランスのとれた心理学の知識を身に付け，社会貢献ができる人材育成を目標にしている。また，公認心理師コースにおいては，医療・福祉・教育・司法・産業等の領域で心理学的な専門的支援を担う公認心理師として活躍できる人材を養成することを目標にしている。そのために，「人間のこころ」を科学的

に理解する心理学的知識や方法を習得し，実社会に応用できる力を身につけ，自身で能動的に考え，行動する能力を育成する。そして，「社会の中で役に立つ心理学」を実践する人材を養成する。

（地理学科）

自然地理学，地理情報学，人文地理学，地誌学の 4 つの分野において，実験や野外実習を通じて地域調査の方法を身につけるとともに，GIS やリモートセンシングなどを用いた分析・問題解決能力を養成する。とくに，環境保全計画や災害対策，産業立地計画，地域政策，シンクタンク，観光業界，中学・高等学校の教育職などの諸分野で活躍できる人材を養成する。

（地球科学科）

気象学，水圏科学，地球化学，地質学，地球物理学などの地球科学的な知識と技術に基づき，自然災害問題や地球環境問題の具体的な課題に対処できる基礎的能力もった人材や，幅広い地球科学的教養を身に付け社会の様々な領域で活躍できる人材を養成する。

（数学科）

抽象的な数学から実際に役立つ応用数学まで幅広い数学の教育・研究を行っている。抽象的な数学を学ぶことから発想力や，正確な論理を展開する力を習得し，応用数学を学ぶことから直ちに社会に役立つ数学の運用力を習得することで，教員や柔軟性と応用力を備えた即戦力となる人材を養成する。

（情報科学科）

情報科学に関連する知識・技術を基礎から指導することにより，物事を論理的に分析・理解し，原理的側面から問題解決を行う能力と新しい情報技術に対応できる能力を養う。また，新しい情報技術を創出し，情報社会の発展に寄与できる資質を養成する。

（物理学科）

現代の先端科学技術の発展に十分対処できる基礎的・専門的な学力・知識を備えた科学技術者を養成し，企業，教育・研究機関，産業界に人材を提供する。科学の基礎である物理学を学ぶことによって，技術力，計算力，思考力及び判断力を養い，未来の科学技術及び産業界の発展に貢献できる能力を養成する。また，理科の教員を養成し，次世代の教育に貢献する。

（生命科学科）

人間社会が直面している健康と医療・エネルギー・食糧・環境・自然再生などの問題は，生命科学と密接に関連している。そこで，分子から生態系にいたる様々なレベルで，生物の「生きる」メカニズムを体系的に学ぶことによって，このような諸問題に対応できる人材を養成する。また，理科の教員を養成し，次世代の教育に貢献する。

（化学科）

21 世紀における資源やエネルギー源の枯渇，食糧不足，人口問題，環境問題など，人類が繁栄するために解決しなければならない諸問題に対して，化学が果たす役割は大きい。このようなニーズに応えるため，化学のみならず他の分野との境界領域に踏み込める基礎的な知識と力量を身に付け，関連分野でも活躍できる化学技術者・研究者を養成する。また，理科の教員を養成し，次世代の教育に貢献する。

3　経済学部　https://www.eco.nihon-u.ac.jp/disclosure/data_1/

自立した個人の自主的な努力を原則に，教職員と学生が一体となって，変化する経済的，社会的な環境に対し，人間としての生きる力，愛する力，考える力を養い，その全人格的能力を自由かつ多様に伸長することを図る。そのことを通して，経済諸現象を経済・経営・会計の諸分野で分析できる能力を養い，国際的視野を持って高度情報化時代に対応できる健全かつ高度な専門職業人・社会人を養成する。

4　商学部　https://www.bus.nihon-u.ac.jp/education-information/

激しく変動する市場経済の下でビジネスを行うには商品，人的資源，資金，情報にかかわる知識と実践的技能の習得が必要である。そのため，実学としてビジネスの理論を学修するとともに，幅広い教養に裏打ちされた職に就く力（就職力）を身に付け，国内だけでなく広い世界を視野に入れて，営利企業，非営利組織，行政で活躍できる専門能力，人間力をもった人材を養成する。

5　芸術学部　http://www.art.nihon-u.ac.jp/about/objective/

芸術総合学部としての特徴と伝統を保持するとともに，21 世紀における芸術の持つ社会的先導性にかんがみ，学科の各々の専門教育をさらに充実・発展させ，同時に，学科の垣根を越えた総合的なカリキュラムを展開することで，芸術・文化全般にわたる広い視野を持った人材を養成する。

6　国際関係学部　https://www.ir.nihon-u.ac.jp/guide/info-ed/

日本大学の教育理念「自主創造」を実践するとともに，国際社会で活躍するために必要な問題解決能力，社会の各分野で提言できる政策能力，高いコミュニケーション能力を兼ね備えた，国際交流や国際社会のさまざまな分野で活躍できる人材を養成する。

7　危機管理学部

https://www.nihon-u.ac.jp/risk_management/about/objective/#content1

グローバル化した現代社会を取り巻く様々な危機と向き合い，人々の生命や生活を守る強い信念と高い志を基に，リーガルマインド（法を用いて紛争や問題を解決する能力）とリスクリテラシー（危機管理能力）とを融合させた学識をもって主体的に行動し，日本の秩序の維持と国民の安全，さらには世界の平和の実現に向けて問題解決を実践する人材，すなわち「危機管理パーソン」を養成する，と定めた教育研究上の目的を施行している。

8　スポーツ科学部

http://www.nihon-u.ac.jp/sports_sciences/about/objective/#content1

スポーツ科学部では，「競技スポーツにおける実践力のある反省的実践家」を育成するため，1 年次より競技スポーツ学の基礎を学ぶと同時に，学びの重点を「アスリートコース」か「スポーツサポートコース」の 2 コースいずれかに置きながら，専門教育のみならず教養教育を十分に踏まえた総合的かつ学際的な教育を行います。これらの教育を通して，国内及び国際的競技会で活躍できる優秀なアスリートの育成や，競技スポーツ分野で活躍できる「反省的実践家」としての能力を身に付けた人間性豊かな指導者を育成していくことを目標とします。

9　理工学部　https://www.cst.nihon-u.ac.jp/about/education/pdf/1_1.pdf

理工学部の教育理念「自由闊達な精神，豊かな創造性及び旺盛な探究心を持ち，人類の平和と福祉に貢献できる，誇りある人材を養成する」に基づき，理学と工学の連携下，先端技術の創成と情報化・国際化に対応できる教養・基礎教育と，理論と応用を体系的に修得できる実践的な専門教育を実施する。これにより豊かな人間力（教養と高い倫理観）とともに，質の高い学士力を培い，個性・特色ある人材を養成する。

10　生産工学部　http://www.cit.nihon-u.ac.jp/about/outline/policy

幅広い教養と経営能力を持ち学生個々の個性・能力を生かして人類の幸福と安全を実現するために考え行動し社会に貢献できる技術者を養成するこのために技術の進歩に対応できる基礎学力と応用能力及び技術の社会と自然に及ぼす効果と影響について多面的に考える能力を培う。

11　工学部

http://www.ce.nihon-u.ac.jp/undergraduate/undergraduate109/

基礎教育の徹底により，工学の基礎力を修得し，自主的に考察し判断できる発想力及び解析能力を培う。さらに，工業技術が社会と環境に及ぼす影響を理解することにより，高い倫理観をもって調和のとれた持続可能な社会の実現に貢献できる人

間性豊かな技術者を養成する。また，教育研究活動を通じて地域環境の保護と健康的な生活に工学の立場から寄与し，その成果を社会と地域に還元する。

12　医学部　http://www.med.nihon-u.ac.jp/gaiyou/policy.html

医学を修める者の社会的責務を自覚し，常に自ら考え研鑽し，豊かな知識・教養に基づき社会に貢献する高い人間力を有する医師を育てる。さらに高い倫理感のもとに，論理的・批判的思考力を有し，世界へ発信できる学際的視野を持った研究者，豊かな個性を引き出し，次世代リーダーを育成する熱意ある教育者の育成を目的とする。

13　歯学部　https://www.dent.nihon-u.ac.jp/about/policy/index.html

歯学部の前進である東洋歯科医学校の創設者である佐藤運雄先生の唱えた「歯学を口腔に止めず，常に全身と関連付けて学ぶ」という医学的歯学を校是とした教育を基盤としている。さらに，人間教育としては，師による人格の教化と切磋琢磨を基本としている。また，医療人として，生涯にわたり自己の資質の向上に努め，社会に有為なスキルの高い歯科医師を養成する。

14　松戸歯学部　https://www.mascat.nihon-u.ac.jp/info/purpose.html

口腔の健康は全身の健康を支えるという考えを基盤とし、それを具現化した「オーラルサイエンス（口腔科学）」の学びを礎に、自主創造の能力を養い、豊かな知識と教養に基づく高い倫理観を持ち、論理的かつ批判的思考を用いた問題解決力と省察力を有し、歯科医療と歯科保健を通して生涯にわたり社会に貢献できる人材を育成する。

15　生物資源科学部　https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/educational_goal/

今日，世界は食糧問題や環境問題をはじめ，多くの解決すべき問題を抱えている。生物資源科学部は，生産・利用科学，生命科学，環境科学の３分野を基軸として，自然や生物との共生を図り，人間活動を重視した教育研究を行っている。対象とする生物資源は，これらの問題を解決し，持続可能な社会を実現させる上で必須である。これらの教育と研究を通して，フィールドから分子レベルに至る優れた科学技術を備えた人間性豊かな人材を養成する。

16　薬学部　https://www.pha.nihon-u.ac.jp/outline/policy/

「人類の保健，医療及び福祉に貢献する新しい薬学を創造する」という理念に基づいて，高度医療社会のニーズに応える医療薬学に重点を置いた特色のある教育・研究を推進し，医療人としての倫理観と高い専門性を備え，人の健康と医療の向上に貢献できる自主創造の気風を身に付けた薬剤師を養成する。

17　通信教育部　https://www.dld.nihon-u.ac.jp/education_info/

①法学部

法律の知識を基礎として，高水準の実践的な専門教育と国際的教養人としての教養教育に努め，高い倫理観と優れた人格を備えた法律的なものの考え方ができる人材を育成する。また，高度な職業意識と専門的な能力を兼ね備えた人材を養成するための教育に努めている。

②文理学部

「文と理の融合」を教育理念に掲げ，教養教育と専門教育の両面から総合的・学際的な教育と高度な専門的研究を行う。また，時代や社会のニーズに応えられる教養教育，語学教育，情報教育の充実を図り，特色ある専門教育により，総合的な学力または専門的な学力を有する人材を養成する。

③経済学部

自立した個人の自主的な努力を原則に，変化する経済的社会的環境に対し，人間としての生きる力，愛する力，考える力を養い，その全人格的能力を自由かつ多様に伸長させ，そのことを通して，経済諸現象を経済・経営・会計の諸分野で分析できる能力を養い，国際的視野を持って高度情報化時代に対応できる健全かつ高度な専門職業人・社会人を養成する。

④商学部

激しく変動する市場経済の下でビジネスを行うには，商品，人的資源，資金，情報にかかわる知識と実践的技能の習得が必要である。そのため，実学としてビジネスの理論を学修するとともに，幅広い教養に裏打ちされた職に就く力（就職力）を身に付け，国内だけでなく広く世界を視野に入れて，営利企業，非営利組織，行政で活躍できる専門能力，人間力をもった人材を養成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：インターネットによる公表）

（概要）

1　法学部　https://www.law.nihon-u.ac.jp/educational_info/law.html

「日本大学の目的及び使命」を理解し，日本大学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」，「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を修得し，「リーガルマインド」を身につけた者に，「学士（法学）」の学位を授与する。

DP1　社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得し，法令遵守の精神と高い倫理観に基づいて，自らの使命・役割を果たすことができる。

DP2　日本及び世界の法，政治，行政，経済及びジャーナリズムの仕組みと，それが直面している問題を理解し，説明することができる。

DP3　社会科学の基礎的知識を基に，論理的，科学的，合理的かつ批判的な考察を通じて，新たな「知」の創造に寄与することができる。

DP4　社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的にかかわる中で，事象を注意深く観察して問題を発見し，解決策を提案することができる。

DP5　法規範をはじめとする社会システムに関する専門的知識を基に，あきらめない気持ちをもって，より良い社会・共同体の創造に果敢に挑戦することができる。

DP6　多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質，感性及び価値観を理解・尊重し，社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践し，自らの考えを伝えることができる。

DP7　社会・共同体のさまざまな活動において，より良い成果を上げるために，お互いを尊重し，自らすすんで協働するとともに，リーダーとして協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。

DP8　他者からの評価を謙虚に受け止め，自己の活動がより良い社会・共同体の創造に貢献することができたかを振り返ることにより，生涯にわたり，社会人としての自己を高めることができる。

2　文理学部　https://www.chs.nihon-u.ac.jp/about/diploma_policy/

①学士（文学）

日本大学文理学部（学士（文学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（文学））における能力を修得したものに，「学士（文学）」の学位を授与する。

［DP1］ 国内外の文学・思想・歴史・多様な言語を中心とした幅広く豊かな知識と教養を基に，社会に対しての倫理観を高めることができる。

［DP2］ 日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している問題を理解し，文学・様々な言語を中心とする専門性に基づきながら，その多様性について説明することができる。

［DP3］ 既存の知識にとらわれることなく， 得られる情報を人文系諸学の諸概念や理論に基づいて批判的， 論理的に考察し， その本質を理解しようと努めることができる。

［DP4］ 資料や事象を注意深く観察・検討し，自ら能動的に問題を発見し，人文系諸学の研究を通して解決策を提案することができる。

［DP5］ 人文系諸学の専門的知識を身に着け， 強い意思をもって， 人文学分野の未来に向かって果敢に挑戦することができる。
［DP6］ 様々な言語を通じて他者の意見を聴き，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝え，他者と実りのある議論をすることができる。
［DP7］ 人文系諸学の実践的なスキルを活用しながら，集団の中で他者と連携し，リーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
［DP8］ 客観的に自己を見つめ，振り返りを通じて，様々な文化についての知識や多様性の理解を活かしながら自己の資質を高めることができる。

②学士（社会学）

日本大学文理学部（学士（社会学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（社会学））における能力を修得したものに，「学士（社会学）」の学位を授与する。

［DP1］ 幅広く豊かな知識と教養，そして社会学の枠組みや方法を基に，自己の倫理観や社会に対する責任感を高めることができる。
［DP2］ 国際社会が直面している問題を理解し，日常生活から国際社会に至る現代社会の多層性と多様性について説明することができる。
［DP3］ 社会事象や問題の性質に合わせデータや文献を収集し，それに即して現代社会の多層性・多様性を論理的・批判的に思考することができる。
［DP4］ 社会学の枠組みや方法に即し社会事象や問題を観察・検討するのみならず，問題を発見・理解し，適切な解決策を提案することができる。
［DP5］ 社会学理論や実証を中心とする調査・研究を通じ，あきらめない気持ちで，社会問題の発見・解決や社会学の刷新に向かって果敢に挑戦することができる。
［DP6］ 社会学理論や実証を中心とする調査・研究を通じ，他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝え，他者と議論することができる。
［DP7］ 社会学理論や実証を中心とする調査・研究を通じ，対話や議論を積み重ねながらチームワークに必要なリーダーシップを発揮し，適正な形で協働者への支援を行うことができる。
［DP8］ 社会学理論や実証を中心とする調査・研究を通じ，自身の行為・態度を自己反省的に捉え返す省察力と自己管理能力を発揮することができる。

③学士（社会福祉学）

日本大学文理学部（学士（社会福祉学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（社会福祉学））における能力を修得したものに，「学士（社会福祉学）」の学位を授与する。

［DP1］ 幅広く豊かな知識と教養を基に，人間や社会に対しての倫理観を高めることができる。
［DP2］ 日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している社会福祉の問題を理解し，福祉社会の多様性について説明することができる。
［DP3］ 得られる情報を客観的に捉え，論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
［DP4］ 社会や身近な環境に存在する福祉課題を見抜き，職業人及び市民としての立場から，課題解決の方向を提案することができる。
［DP5］ どんなに困難な社会福祉の課題に関しても忍耐強く取り組み，社会福祉学の未来に向かって果敢に挑戦することができる。
［DP6］ 他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，問題解決する

ための信頼・協働関係を構築することができる。
［DP7］　集団において他者と連携しながら，リーダーシップを発揮し，社会福祉の当事者や協働者の力を引き出し，支援することができる。
［DP8］　自らの実践や社会との関わりを常に振り返り，社会の変化に応じた新たな知識や技能を学び，自己の資質を高めることができる。

④学士（教育学）

日本大学文理学部（学士（教育学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（教育学））における能力を修得したものに，「学士（教育学）」の学位を授与する。

［DP1］　幅広い教養と倫理感を持ち，学科の学位プログラムに基づいて習得した専門的知識・技能をつなぎ，総合的に活用することができる。
［DP2］　古今東西の多様な文化や社会について豊かな想像力と理解力をもち，少数者を含めた他者への共感的な感覚や態度を身に付けている。
［DP3］　学科の学位プログラムに基づいて習得した専門的・知識技能をつなぎ，総合的に活用する論理的・批判的思考力を身に付ける。
［DP4］　自然の摂理を解明するとともに，多くの対立や葛藤を抱えた人間・社会の複雑性を科学的に認識し，問題を見出すことができる。
［DP5］　自ら新しきを作り出す気概を持ち，行動できる。
［DP6］　言語や身体など，様々な媒体を通して他者の思いや考えを受けとめるとともに，自分の思いや考えを伝え，創造的な対話と議論を重ねることができる。
［DP7］　見出され問題に立ち向かい，的確な情報収集や分析をしながら多くの人々と協力し，解釈や解決に向けてリーダーシップを発揮することができる。
［DP8］　普遍的な市民としての自覚をもち，その専門的知識の社会的な意味を省察的に考え，総合的な活動につなげることができる。

⑤学士（体育学）

日本大学文理学部（学士（体育学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（体育学））における能力を修得したものに，「学士（体育学）」の学位を授与する。

［DP1］　体育学を中心とした幅広く豊かな知識と教養を基に，社会に対しての倫理観を高めることができる。
［DP2］　日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している問題を理解し，その多様性について説明することができる。
［DP3］　得られる情報を客観的に捉え，論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
［DP4］　資料や事象を注意深く観察・検討し，自ら能動的に問題を発見し，体育学を通して解決策を提案することができる。
［DP5］　あきらめない気持ちで，体育学分野の未来に向かって果敢に挑戦することができる。
［DP6］　他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝え，他者と議論することができる。
［DP7］　集団の中で他者と連携しながら，リーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
［DP8］　謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて，体育学を活かしながら自己の資質を高めることができる。

⑥学士（心理学）

日本大学文理学部（学士（心理学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及

び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（心理学））における能力を修得したものに，「学士（心理学)」の学位を授与する。
［DP1］　心理学を中心とした，幅広く豊かな知識と教養を基に，社会に対しての倫理観を高めることができる。
［DP2］　現代社会が直面している問題を理解し，その多様性について心理学を活かしながら説明することができる。
［DP3］　得られる情報を客観的に捉え，論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
［DP4］　資料や事象を注意深く観察・検討し，自ら能動的に問題を発見し，心理学を活かしながら解決策を提案することができる。
［DP5］　あきらめない気持ちで，心理学に解決が託された課題に向かって果敢に挑戦することができる。
［DP6］　他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝え，他者と議論することができる。
［DP7］　集団の中で他者と連携しながら，リーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
［DP8］　謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて，心理学を活かしながら自己の資質を高めることができる。
⑦学士（地理学)
日本大学文理学部（学士（地理学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（地理学））における能力を修得したものに，「学士（地理学)」の学位を授与する。
［DP1］　地理学に関する幅広く豊かな知識と教養を基に，社会に対しての倫理観を高めることができる。
［DP2］　日本及び世界の情勢や，国際社会が直面している問題を理解し，その多様性について説明することができる。
［DP3］　得られる情報を客観的に捉え，論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
［DP4］　資料や事象を注意深く観察・検討して，自ら能動的に問題を発見し，地理学に基づく解決策を提案することができる。
［DP5］　あきらめない気持ちで，地理学分野が解決すべき課題に向かって果敢に挑戦することができる。
［DP6］　他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝えて，他者と議論することができる。
［DP7］　集団の中で他者と連携しつつリーダーシップを発揮し，協働者の力を引き出して，その活躍を支援することができる。
［DP8］　謙虚に自己を見つめ，振り返ることで，地理学を活用しながら自己の資質を高めることができる。
⑧学士（理学)
日本大学文理学部（学士（理学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（理学））における能力を修得したものに，「学士（理学)」の学位を授与する。
［DP1］　社会人として必要な教養を身に着け，科学技術の進歩がもたらす倫理的問題を理解し，自らの役割を説明することができる。
［DP2］　現代社会における情報科学・自然科学の役割を理解し，国際社会が直面している問題点などを説明することができる。
［DP3］　物事を科学的根拠に基づいて客観的に捉え，批判的・論理的に考察し，既

存の知識にとらわれることなく，物事の本質を捉えることができる。
［DP4］　日常生活における現象を注意深く観察・検討し，自ら能動的に考察することにより科学的問題を発見し，解決策を提案することができる。
［DP5］　情報科学・自然科学の専門的知識を身に付け，あきらめない意思を持って，未解決問題に向かって果敢に取り組むことができる。
［DP6］　社会的・学問的背景の異なる他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解すると共に自分の考え方をわかりやすく伝え，他者と議論することができる。
［DP7］　学修活動のみならず日常生活においても他者と連携し，時には自ら進んでリーダーシップを発揮することで協働者の力を引き出すことができる。
［DP8］　他者の評価を謙虚に受け止め，自分の学修生活がもたらす意義を追求し，科学分野の知識や経験を活かしながら自己の資質を高めることができる。

3　経済学部　https://www.eco.nihon-u.ac.jp/education/

日本大学経済学部（学士（経済学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，次表に示す「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」，「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（経済学））における能力を修得した者に，「学士（経済学）」の学位を授与する。

［DP1］　経済社会に関する豊かな知識・教養を基に倫理的に判断することができる。
［DP2］　グローバル化する経済社会の複雑な実態を理解し，説明することができる。
［DP3］　経済学・経営学の知識及び理論を理解し，得られる情報を基に論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
［DP4］　経済学・経営学に関する理論及びデータ分析手法を活用し，経済社会に関わる問題を発見し，解決策を提案することができる。
［DP5］　あきらめない気持ちで経済社会が直面する課題に果敢に挑戦することができる。
［DP6］　他者の意見を聴き，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを分かりやすく他者に伝えることができる。
［DP7］　他者と協働しながら，自らの役割を認識するとともに，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
［DP8］　自ら省みて，状況を改善する方策を見出すことができる。

4　商学部

https://www.bus.nihon-u.ac.jp/education-information/

日本大学学則第１条に掲げた「自主創造」を教育の基本理念とし，その教育理念を達成するために学士課程を通して，自立した個性・豊かな人間性・専門的創造性・世界的視野を持つ人材の育成を目指す。そして，グローバルビジネス社会に対応できる実学を学修し，日本だけでなく，世界で新しく生まれるビジネスシーンを創造し，現代社会が直面する諸問題の解決を通じて，人々の幸福の増進に寄与できる人材を養成し，以下に掲げる８つの能力を修得するために設定された卒業要件を満たした者に，学士（商学）の学位を授与する。

DP1　幅広い知識・教養，豊かな人間力と高い倫理観に裏打ちされた，確かな常識を持つ市民として，正しいビジネス判断ができる。
DP2　ビジネスに必須とされる教養，英語，ビジネスツール，コミュニケーション力を持つことで，様々なビジネスシーンを理解し，説明することができる。
DP3　ビジネスの世界の多様な情報を基にして，自らの視点から論理的・批判的な思考を行うことができる。
DP4　目まぐるしく変化するビジネス環境の中で，事業を注意深く観察して問題を発見し，解決策を提案することができる。
DP5　ビジネスシーンにおいて，新境地開拓に向けて，失敗を恐れず，果敢に粘り強く挑み続けることができる。

DP6　ビジネスシーンにおいて,他者の考えを理解し自分の考えを正確に伝えることで，相互理解や共同作業を進めることができる。
DP7　グローバル社会の中で，国籍・言語を超えて連携協力しながら，リーダーシップを発揮しつつ，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
DP8　常に自分の言動を振り返り自省することで，自分の長所短所を知り，自己啓発をすることができる。

5　芸術学部　http://www.art.nihon-u.ac.jp/about/policy/education/

日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，次表に示す「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」，「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（芸術））における能力を修得した者に，「学士（芸術）」の学位を授与する。

DP1　芸術に関する豊かな知識と教養を基に,社会に対しての倫理観を高めることができる。
DP2　日本及び世界の歴史や直面している問題を理解し,その多様性について説明することができる。
DP3　得られる情報を客観的に捉え，論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
DP4　事象を注意深く観察して，自ら能動的に課題を発見し，芸術表現を通して解決策を提案することができる。
DP5　あきらめない気持ちで,芸術分野の未来に向かって果敢に挑戦することができる。
DP6　他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝え，他者を納得させることができる。
DP7　集団のなかで他者と連携しながら，リーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
DP8　謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて自己を高め，芸術表現に活かすことができる。

6　国際関係学部　https://www.ir.nihon-u.ac.jp/guide/info-ed/

日本大学国際関係学部（学士（国際関係））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，次表に示す「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」，「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（国際関係））における能力を修得した者に「学士（国際関係）」の学位を授与する。

DP1　国際社会に通用する豊かな知識と幅広い教養力を身につけることにより,高い倫理観を高めることができる。
DP2　国際的な諸問題を理解し，専門分野における基本的な知識を身に付け，世界の現状を説明することができる。
DP3　国際情勢を理解し，国際社会の各分野で活躍・貢献できる論理的かつ批判的な思考をすることができる。
DP4　国際実務の現場で実務に即応した問題を発見し,解決策を提案することができる。
DP5　国際社会の各分野において，あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦し，政策立案を提言し行動することができる。
DP6　多様な価値観を受け入れる気構えと気質を養い，多文化共生・日本の特質を理解し，国際社会の中で積極的にコミュニケーションを実践し，外国語で自分の考えを伝えることができる。
DP7　探究心を養い，率先して物事を解決する力を修得することにより，国際社会において他者と連携を図り，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
DP8　自己を見つめ，学修を通じて，振り返りを行い，多様な国際社会の中で自己を

向上させることができる。

7　危機管理学部

https://www.nihon-u.ac.jp/risk_management/about/disclosure/data8/

自主創造の理念の下，豊かな教養と確かな知性の上に，法学と危機管理学とを融合させた学識を構築する教育課程を通じて，危機管理の重責を全うしようとする使命感と，その実践に不可欠な，自ら学び，考え，道をひらくための以下の能力等を身につけ，所定の単位を修得した者に，「学士（法学）」を授与する。

DP1　市民的素養を基礎として，法学と危機管理に関する高度な学識と技能（リーガルマインド，リスクリテラシー）を運用する能力

〔DP1-D〕市民的素養・市民的教養

市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために，知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。

〔DP1-E〕学識・専門技能

専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。

DP2　国際的教養人としての感性

〔DP2-A〕日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢

地球的視点で物事を多面的に捉え，異文化との交流の重要性を認識するとともに，異文化との交流を積極的かつ多面的に行い，相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。

〔DP2-B〕自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢

自己の存在意義を知り，自らを高め続けようと努力することができる。

DP3　問題を適切に把握して，合理的な判断につなげられる能力

〔DP3-G〕状況把握力・判断力

自らの置かれた状況,及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し，適切に対応することができる。

〔DP3-H〕論理的思考力・批判的思考力

理路整然とした思考を備えつつ,偏りを排除するための内省をもって,問題・課題を合理的に解決することができる。

DP4　問題を探求し，状況を的確に分析する能力

〔DP4-F〕探究力・課題解決力

問を設定し又は論点を特定し，それに対する答・結論・判断を合理的に導くために，論拠の収集と分析を体系的に行うとともに，オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし，検証し実行することができる。

〔DP4-I〕理解力・分析力

文章表現，数値データを適切に扱いつつ，情報の収集と取捨選択，分析と加工を有効かつ円滑に行い，課題の解決につなげることができる。

DP5　新たな可能性を追求し果敢に挑戦し続ける行動力

〔DP5-J〕創造的挑戦力・達成力

コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを,自らの思考及び行動のパターンとするとともに,既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し，リスクをとりながら，結果に結び付けることができる。

DP6　グローバルに行動できるコミュニケーション能力

〔DP6-K〕表現力・対話力

文章及び口頭で,自らの考えを的確に表現し,他者に過不足なく伝達することができる。

DP7　多様な価値を受容し，対立を乗り越え，協働を通じて社会の安定，安全と世界の平和を希求する公共心

〔DP7-C〕他者理解・倫理観・公共心

人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み,社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。

〔DP7-L〕協働力・牽引力

集団的に課題解決を行う際に,自己の立場や責任を認識し,互いに集団の連帯を強めることができる。

DP8　課題発見・仮説構築・仮説検証・課題解決・省察のプロセスを主体的に反復する思考様式

〔DP8-M〕省察力

知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに,これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。

8　スポーツ科学部

http://www.nihon-u.ac.jp/sports_sciences/about/policy/#content1

スポーツ科学部（学士（体育学））は，スポーツ立国を目指す我が国の競技スポーツの発展に貢献するべく，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部における能力を修得したものに，「学士（体育学）」の学位を授与する。

DP1（DP1-D・DP1-E）

競技スポーツ分野における反省的実践家としての実践力を構成する基礎的・汎用的能力及び社会一般的な倫理観を高めることができる。

DP2（DP2-A・DP2-B）

自国のスポーツ文化を理解し、スポーツを通した国際的教養人としての感性を高めることができる。

DP3（DP3-G・DP3-H）

スポーツに関わる様々な問題を適切に把握して，合理的な判断につなげられる能力を高めることができる。

DP4（DP4-F・DP4-I）

スポーツ界が抱える問題を探求し，その状況を的確に分析する能力を高めることができる。

DP5（DP5-J）

スポーツの新たな可能性を追求し、様々な領域、領野から果敢に挑戦し続ける行動力を高めることができる。

DP6（DP6-K）

スポーツを通してグローバルに行動できるコミュニケーション能力を高めることができる。

DP7（DP7-C・DP7-L）

スポーツを通して社会にある多様な価値を受容し，対立を乗り越え，協働を通じて社会の安定を希求する公共心を高めることができる。

DP8（DP8-M）

課題発見・仮説構築・仮説検証・課題解決・省察のプロセスについて、スポーツ科学の手法に基づき主体的に反復する思考を高めることができる。

9　理工学部　https://www.cst.nihon-u.ac.jp/about/education/index.html

【日本大学理工学部（工学）卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）】

日本大学理工学部は，日本大学教育憲章に基づき，以下の能力を身に付け，所定の年限在学し,かつ所定の授業科目及び単位を修得した学生の卒業を認定し,学士（工学）の学位を授与する。

1　豊かな教養・知識に基づいた高い倫理観を有し，人類の平和と福祉に貢献できる。

2　世界情勢を理解し，国内外において直面している状況を理解し，その多様性及

び自身の考えを説明することができる。
3　得られる情報を基に工学に関する知見から論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
4　事象を注意深く観察して能動的に課題を発見し，豊かな創造性及び工学に関する専門的知識を基に解決策を提案することができる。
5　旺盛な探究心を持ち，あきらめない気持ちで社会における様々なことに対し果敢に挑戦することができる。
6　他者の意見を聴き，自身の考えを伝え，互いの個性・特色を理解することができる。
7　集団においてリーダーシップを発揮し，他者と連携することで，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
8　謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて自己を高めることができる。

【日本大学理工学部（理学）卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）】
日本大学理工学部は，日本大学教育憲章に基づき，以下の能力を身に付け，所定の年限在学し，かつ所定の授業科目及び単位を修得した学生の卒業を認定し，学士（理学）の学位を授与する。
1　豊かな教養・知識に基づいた高い倫理観を有し，人類の平和と福祉に貢献できる。
2　世界情勢を理解し，国内外において直面している状況を理解し，その多様性及び自身の考えを説明することができる。
3　得られる情報を基に理学に関する知見から論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
4　事象を注意深く観察して能動的に課題を発見し，豊かな創造性及び理学に関する専門的知識を基に解決策を提案することができる。
5　旺盛な探究心を持ち，あきらめない気持ちで社会における様々なことに対し果敢に挑戦することができる。
6　他者の意見を聴き，自身の考えを伝え，互いの個性・特色を理解することができる。
7　集団においてリーダーシップを発揮し，他者と連携することで，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
8　謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて自己を高めることができる。

10　生産工学部　http://www.cit.nihon-u.ac.jp/about/outline/policy
日本大学教育憲章，生産工学部の教育目標並びに各学科の教育研究上の目的に基づいた教育課程により，以下の項目を修得している者に学士（工学）の学位を授与する。
DP1　豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき，倫理観を高めることができる。
DP2　国際的視点から，必要な情報を収集・分析し，自らの考えを説明することができる。
DP3　専門分野を体系的に理解して得られる情報に基づき，論理的な思考・批判的な思考をすることができる。
DP4　生産工学に関する視点から，新たな問題を発見し，解決策をデザインすることができる。
DP5　生産工学の視点から，適切な目標と手段を見定め，新たなことにも挑戦し，やり抜くことができる。
DP6　多様な考えを受入れ，適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。
DP7　チームの一員として目的・目標を他者と共有し，達成に向けて働きかけながら，

協働することができる。
DP8　経験を主観的・客観的に振り返り，気付きを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

11　工学部

http://www.ce.nihon-u.ac.jp/wordpress/wp-content/uploads/2019/03/gakubu_dp.pdf

日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」，「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部における能力を修得した者に，「学士（工学）」の学位を授与する。

DP1　工学技術が社会と環境に及ぼす影響を理解し，幅広い知識・教養に基づく高い倫理観を涵養することができる。
DP2　グローバル化する社会における工学技術者として，多文化や異文化に関する知識や国際社会が直面している問題を理解し説明することができる。
DP3　体系化された継続的な学修により工学の基礎力を身につけ，工学技術者として論理的，批判的な思考をすることができる。
DP4　工学の基礎力に基づいて，自ら問題を発見し考察できる発想力と分析力を持ち，問題の解決策を提案できる。
DP5　地球環境の保全や健康的な生活に工学の立場から寄与し，持続可能な社会の実現のために，あきらめない気持ちを持って果敢に挑戦することができる。
DP6　社会性を持つ工学技術者として，常に他者の意見に耳を傾け，自らの意見を相手に伝えることができる。
DP7　工学技術者の立場から他者との協働を通して，リーダーとして他者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
DP8　自己を見つめ，自らの言動を謙虚に振り返り，工学技術者として自己を高めることができる。

12　医学部　http://www.med.nihon-u.ac.jp/gaiyou/policy.html

日本大学教育憲章に基づき，日本大学マインド，すなわち日本文化を理解し，国民の福祉・健康に寄与し，多様な文化を受容し，地域社会及び国際社会に貢献できる医師を輩出するため，日本大学の教育理念「自主創造」を構成する 3 つのカテゴリーである「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道を開く」姿勢を育み，本学部の理念「醫明博愛」を実践する資質と能力を身につけ，所定の単位を修得した学生に卒業を認定し，学位（学士）を授与する。

DP1　「教養・知識に基づく高い倫理観」
生命に対する尊厳を持ち，責任ある医療を実践するための豊かな教養と医学の知識を修得し，倫理的原則に基づいた医療を実践できる。（医師としての職責・倫理観とプロフェッショナリズム）
DP2　「保健・医療・福祉の社会性を理解して，世界の現状を理解し，説明する力」
自己の専門領域の文化的・社会的位置付けを把握し，地域社会及び国際社会の保健・医療・福祉の現状を理解して，疾病予防と健康増進の向上に寄与することができる。（疾病予防と健康増進・医療の社会性）
DP3　「論理的・批判的思考力」
新たな知識の創造をめざし，得られる情報を基に実証的・論理的な思考，及び批判的な思考ができる。（科学的探究・医学研究への志向・医学的知識と問題対応能力）
DP4　「問題発見・解決力」
患者に対して思いやりと敬意を示し，基礎・臨床・社会医学領域において，自らの立場を基に，事象を注意深く観察して，問題を発見し，解決策を提案することができる。（診療技能と患者ケア・科学的探究・問題対応能力）
DP5　「省察力」

生涯にわたり，患者の安全を基盤に医療の質を担保し，謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて基礎・臨床・社会医学領域において自己を高めることができる。（自律的学習能力・医療の質と安全管理・生涯にわたって共に学ぶ姿勢）

DP6 「挑戦力」

医療の基盤となる基礎・臨床・社会医学等の知識を基に，新しい医学知識や医療技術の創造に果敢に挑戦することができる。（医学知識と問題対応能力・科学的探究）

DP7 「コミュニケーション力」

国内外の多様な文化，社会，環境の中で他者を理解し，その価値観を尊重し，医療の現場において適切なコミュニケーションを主体的に実践し，自らの考えを伝え，発信することができる。（コミュニケーション能力・社会における医療の実践・診療技能と患者ケア）

DP8 「リーダーシップ・協働力」

患者とその近親者，及び医療チームを尊重し，医療の質の向上と患者の安全管理を確保するために，責任ある医療を実践する上での協働力・リーダーシップを有する。（チーム医療の実践・プロフェッショナリズム・医療の質と安全管理）

13 歯学部 https://www.dent.nihon-u.ac.jp/about/policy/

日本大学教育憲章では「日本大学マインド」として「日本の特質を理解し伝える力」,「多様な価値を受容し，自己の立場・役割を認識する力」,「社会に貢献する姿勢」の三つを掲げている。本学部は，日本大学の医療系学部として，自主創造の三要素「自ら学ぶ」,「自ら考える」,「自ら道をひらく」を基盤とした医療人を育成する。本学部は，所定の単位を修得し，課題探求能力や自己学習能力を高め，患者本位の歯科医療ができる人間性豊かで，的確な診察・治療を行える「社会に有為な歯科医師」として認められる学生に対し，卒業を認定し，学位（学士）を授与する。

DP1 医の尊厳を理解し,法と倫理に基づいた医療を実践するために必要な豊かな教養と歯科医学の知識を修得できる。

DP2 国際社会の現状と背景を理解し，地域社会における医療・保健・福祉の役割が説明できる。

DP3 多岐にわたる知識や情報を基に，論理的な思考や批判的な思考ができる。

DP4 自ら問題を発見し，その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

DP5 新たな課題の解決策を見い出すために，基礎・臨床・社会医学等の知識を基に積極的に挑戦し続けることができる。

DP6 医療をはじめとする様々な場面において，他者との円滑な意思の疎通を行い，互いに価値観を共有し,適切なコミュニケーションを実践して自らの考えを発信することができる。

DP7 患者を中心としたチーム医療において,責任ある医療を実践するためのリーダーシップと協働力を養うことができる。

DP8 プロフェッショナルとして生涯にわたり，振り返りを通じて基礎・臨床・社会歯科領域において自らを高めることができる。

14 松戸歯学部 https://www.mascat.nihon-u.ac.jp/info/purpose.html

松戸歯学部は，日本大学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」,「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ，松戸歯学部の教育理念に基づいた各分野の授業科目をすべて修得し，以下の到達目標に達した者に学士（歯学）の学位を授与する。

＜自ら学ぶ＞

・豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

〔DP1〕幅広い教養と豊かな人間性に基づく高い倫理観を持ち，医療の中での役割を認識して社会に貢献できる。

・世界の現状を理解し，説明する力
〔DP2〕国際社会における歯科医学や医療の現状を理解し，その多様性について説明できる。
＜自ら考える＞
・論理的・批判的思考力
〔DP3〕歯科医学の研鑽によって得られる情報を基に論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
・問題発見・解決力
〔DP4〕自ら能動的に課題を発見し，歯科医学の知識に基づく問題解決ができる。
＜自ら道をひらく＞
・挑戦力
〔DP5〕医療人として新しいことに挑戦し，自らの道を切り拓くことができる。
・コミュニケーション力
〔DP6〕歯科医療に必要なコミュニケーション力を有し，かつ実践できる。
・リーダーシップ・協働力
〔DP7〕地域社会における保健，医療，福祉および介護などに貢献するために必要な多職種の医療・福祉従事者と連携，協働かつ支援することができる。
・省察力
〔DP8〕生涯にわたり謙虚に自己を見つめ，自己分析の習慣を身に付け，医療人としての資質を高めることができる。

15　生物資源科学部　https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/educational_goal/

① 学士（生物資源学）

「日本大学教育憲章」に則り，日本や国際社会が直面している生命･食料･資源･環境に関するさまざまな問題を発見･解決し，科学･技術の持続的な発展に貢献することを基本理念としている。また，生物資源の生産と利用に関する科学（以下「生産･利用科学」），「生命科学」，「環境科学」の三分野を基軸とした生物資源科学に関する幅広い知識と高い専門性，豊かな教養，人間活動に関する深い洞察力，高い倫理観を身につけた人材の育成を教育目標としている。生物資源科学部では，これらの基本理念と教育目標に基づき，「日本大学マインド」と「自主創造」の能力を身につけ，かつ各学科の教育研究上の目的に対して設定された卒業要件を満たす者に，学士（生物資源学）の学位を授与する。

具体的到達目標

【自ら学ぶ】

DP1　豊かな教養と生命･食料･資源･環境に関する幅広い知識に立脚した高い倫理観を身につけ，健康で快適な生活，自然環境の保全･修復に貢献できる。

DP2　日本や国際社会が直面している生命･食料･資源･環境に関するさまざまな問題を理解し，説明することができる。

【自ら考える】

DP3　生物資源科学に関するあらゆる情報を収集して総括し，論理的･批判的な思考をすることができる。

DP4　日本や国際社会が直面している生命･食料･資源･環境に関するさまざまな問題を発見し，解決策を提案することができる。

【自ら道をひらく】

DP5　学問および科学の発展に寄与するために，自らが設定した課題に果敢に挑戦し，調査･実験などにより得られた研究成果を発信することができる。

DP6　生物資源科学に関する英語や日本語の文献,情報を調査して他者の意見を理解し，自分の考えを伝えることができる。

DP7　生物資源科学に関連するさまざまな分野の人々と連携･協働すること，リーダーシップを発揮して他者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。

DP8　地域社会，日本及び世界における生命･食料･資源･環境をめぐる人間活動において，自己の立場と役割を認識し，生物資源科学に関わるさまざまな活動に貢献することができる。

② 学士（獣医学）

「日本大学教育憲章」に則り，日本や国際社会が直面している生命･食料･資源・環境に関するさまざまな問題を発見･解決し，科学･技術の持続的な発展に貢献することを基本理念としている。また，獣医学科では豊かな教養，獣医学に関連する幅広い知識と高い専門性，高い倫理観を身につけた人材の育成を教育目標としている。これらの基本理念と教育目標に基づき，「日本大学マインド」と「自主創造」の能力を身につけ，かつ獣医学科の教育研究上の目的に対して設定された卒業要件を満たす者に，学士（獣医学）の学位を授与する。

具体的到達目標

【自ら学ぶ】

DP1　獣医師として活躍するのに必要とされる豊かな教養・知識・技術を修得し，法令遵守の精神と高い倫理観に基づいて，自らの使命・役割を果たすことができる。

DP2　日本や国際社会における飼育動物の診療，保健衛生・福祉と公衆衛生の向上，畜産業に関する諸問題を理解し，説明することができる。

【自ら考える】

DP3　獣医学に関連するさまざまな情報を基に，論理的･批判的な思考をすることができる。

DP4　日本や国際社会における獣医学に関連する諸問題を発見し，その解決策を提案することができる。

【自ら道をひらく】

DP5　獣医学の発展に寄与するために，新たな問題や課題に果敢に挑戦することができる。

DP6　獣医師としての社会的な責務や役割を理解し，自分の考えを正しく伝え，実行することができる。

DP7　獣医師として適切なリーダーシップを発揮し，さまざまな分野の人々と連携・協働することができる。

DP8　将来にわたって獣医学に関する専門知識及び技術を省察・研鑽し，獣医学の関わる様々な分野に貢献することができる。

16　薬学部　https://www.pha.nihon-u.ac.jp/outline/policy/

日本大学薬学部は，日本大学教育憲章に基づき，日本大学の目的及び使命を理解し，薬学部の教育研究上の目的のもとに設定した以下の能力を身に付け，所定の年限在学し，所定の授業科目及び単位を修得した学生の卒業を認定し，学士（薬学）の学位を授与する。

・豊かな知識・教養に基づいた高い倫理観を有し，医療人として社会に貢献できる。（ＤＰ１）
・日本を含む世界の情勢や直面している問題を理解し，その多様性及び自身の考えを説明することができる。（ＤＰ２）
・豊かな知識と教養を基に，薬剤師として論理的な思考，批判的な思考をすることができる。（ＤＰ３）
・事象を注意深く観察して問題を発見し，薬学に関する豊かな専門知識を基に解決策を提案することができる。（ＤＰ４）
・探究心を持ち，あきらめない気持ちで医療の発展のために新しいことに対し，果敢に挑戦することができる。（ＤＰ５）
・他者の意見を聴き，自分の考えを伝え，互いの価値観を理解・尊重することができる。（ＤＰ６）

・集団において，リーダーシップを発揮し，他者と協働してその力を引き出し，活躍を支援することができる。（ＤＰ７）
・謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて自己を高めることができる。（ＤＰ８）

17　通信教育部

①法学部

日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，次表に示す「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」，「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（法学））における能力を修得した者に，「学士（法学）」の学位を授与する。

②文理学部

日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，次表に示す「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」，「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（文学））における能力を修得した者に，「学士（文学）」の学位を授与する。

③経済学部

学士課程を通して，自立した個性，豊かな人間性，専門的創造性，世界的視野を持つ人材として自ら成長する，日本大学の学則第１条に掲げた「自主創造」を教育の基本理念としている。教養教育，経済学の学修を通じて，経済社会システムを構成する市場・企業・制度・政策に関する深い知識を身につけ，主体的に考え，行動することで，変化し続ける経済社会が直面する諸問題の解決を通じて，人々の幸福の増進に寄与できる人材の育成を目標とする。このディプロマ・ポリシーに基づき設定された卒業要件を満たした者に，学士（経済学）の学位を授与する。

④商学部

日本大学学則第１条に掲げた「自主創造」を教育の基本理念としている。その教育理念を達成するために学士課程を通して，自立した個性・豊かな人間性・専門的創造性・世界的視野を持つ人材として成長することを目指す。そして，グローバルビジネス社会に対応できる実学を修得し，日本だけでなく，世界で新しく生まれるビジネスシーンを創造し，現代社会が直面する諸問題の解決を通じて，人々の幸福の増進に寄与できる人材を育成する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：インターネットによる公表）

（概要）

1　法学部　https://www.law.nihon-u.ac.jp/educational_info/law.html

法学部ディプロマ・ポリシーに適う人材を養成するため，4年間を通じて，共通科目領域，総合科目・体育実技科目領域，外国語領域，法律学科（第一部）（第二部），政治経済学科，新聞学科，経営法学科及び公共政策学科の体系的なカリキュラムを編成し実施する。また，各科目における教育内容・方法，成績評価方法及び評価基準をシラバス等で明示し，学生に周知した上で，実施する授業形態に即し，公正かつ厳正に評価を行う。

①共通科目領域

CP1　「知の技法」に習熟し，それらを駆使して，高度な教養・社会科学の学修を遂行し，法令遵守の精神や高い倫理観を涵養し，自分の使命・役割を探究することができる人材を育成する。

CP2　日本大学の歴史を知り，本学が世界の中で有する使命・役割を理解した上で，日本および世界における法，政治，行政，経済及びジャーナリズムの仕組みや諸問題を幅広く見渡し，説明することができる力を養成する。

CP3　論理的・科学的・合理的・批判的考察の重要さや仕方を理解・習得し，社会科学の基礎的知識を基に，これらの思考力を活かし，文章作成や口頭発表によって新たな「知」の創造に挑むことができる人材を育成する。

CP4　問題解決型思考力の大切さやその思考力を社会で活かす技法を学び,今日の社会・共同体の諸問題への解決策を自ら考案しながら，社会人として社会活動に積極的に参加することができる人材を育成する。

CP5　理想的な社会へのビジョンを持つことの大切さや，自分の専門知識の活かし方，未知未踏のものに取り組む勇気などを学び，自分自身のキャリアを設計・計画していくことができる人材を育成する。

CP6　最新のコンピュータ・リテラシーを活用する技法を修得して積極的に国内外の人々とコミュニケーションを実践し，自分とは異なる気質や感性，価値観を有する他者の考えや立場を理解・尊重しつつ，自らの考えを伝えることができる力を養成する。

CP7　長期的なキャリア・プラン作成において自ら決定していく力を発揮し，そのプランや科目の履修等によって得たビジョンにそって，より良い社会・共同体の建設のために率先して行動することができる人材を育成する。

CP8　リーガルマインドの研鑽に絶えず励むとともに,社会等が抱える諸問題の解決には，他者の提言や批判を謙虚に受け止める必要があることを理解し，より良い社会・共同体の創造のためにそれらの提言や批判を活かすことができる人材を育成する。

②総合科目・体育実技科目領域

CP1　人文・社会・自然の各分野にわたる「知」を主体的に学び，豊かな人間性と強靭な思考力，健康な身体，そして高い倫理観を養い，自らの持ち場で適切に判断を下して行動する力を育成する。

CP2　それぞれの歴史と文化、自然条件等を踏まえて社会システムを理解し、それぞれの社会や国際社会が直面する問題の構造を根源的に考察し,その理解を適切に整理・表現する力を育成する。

CP3　諸事象や既成の言説について批判的な精神を保ち,自らのもつ文化や価値観をも相対化しながら，確かなエビデンスと合理的な推論とに基づき，あらたな「知」の創造に参与する力を育成する。

CP4　過去に学ぶことで，未来を創造する当事者としての責任感・使命感をもち，現代社会の諸事象について主体的に考察し，問題の所在を明らかにして，その解決策を提案する力を育成する。

CP5　人文・社会・自然諸科学の各分野にわたって身につけた学識と教養に対する自信と誇りの上に立ち，社会の改革や価値の創造にむけて，主体的に取り組む勇気と粘り強さを育成する。

CP6　差別や偏見を払拭し，社会・文化・意識の多様性を尊重する開かれた態度をもって，豊かなコミュニケーションを図り，自ら成長するとともに，新たな価値を創造・伝達する力を育成する。

CP7　学習活動における協働作業のなかで，自己の成長や問題解決の経験，協働することの喜びを積み重ね,他者との協働の技法や集団の力を引き出すリーダーの役割を理解し，積極的・主体的に協働に参画する意欲を育成する。

CP8　他者による評価に謙虚に耳を傾けながら，自己の達成を確認し，問題点を明らかにして，次なる課題や目標を定め，成長に結びつける力を育成する。

③外国語科目領域

CP1　人文科学系外国語文献の読解 （言語文化の理解） を通じ，国際人に必須の多様な価値を許容する倫理観を養い，国際交流に貢献できる人材を育成する。

CP2　社会科学系外国語文献の読解（言語文化の理解）を通じ，自国の社会システムを相対的に捉える視点を養い,世界の問題を複眼的に理解することができる人材を育成する。

CP3　他国の「言語・哲学」に関する外国語文献の読解（言語文化の理解）を通じ，論理的思考を養い，人間（社会）について批判的に考える力を養成する。

CP4　他国の「芸術・文学・思想」に関する外国語文献の読解（言語文化の理解)を通じ，想像力と発想力を養い，独創的な視点から問題を発見し解決策を提案することができる人材を養成する。
CP5　資格試験の受験や海外研修等の参加を通じ,積極的かつ自主的に行動する習慣を身につけ，学生生活・就職活動等において，果敢に挑戦できる人材を育成する。
CP6　複数言語の学習を通じ，自国の言語文化を相対化する視点を養い，自国の文化を世界に発信できる人材を育成する。
CP7　演習や海外研修等への参加を通じ，他者と積極的に協働するなかで，互いに長所を見出し、支援できる人材を育成する。
CP8　演習や海外研修等における他者との関わりを客観的に振り返ることを通して，自己がどのように変化したかを省察し,多様な価値観を許容するグローバルな視野を確立することができる力を養成する。

④法律学科（第一部）（第二部）

CP1
・現代社会における法の役割を理解し，説明することができる力を養成する。
・高い倫理観と優れた人格を備えて，適切かつ責任ある行動をとることができる人材を育成する。
・他者の人格を尊重し，常に敬意を払って接することができる人材を育成する。
・日本大学の学則に従って学生生活を過ごすことができる人材を育成する。

CP2
・日本及び世界の法の仕組みを理解し,的確に説明することができる力を養成する。
・社会における法的問題を認識し，それにどのように取り組むべきかを述べることができる力を養成する。

CP3
・法律学の基礎的知識を身につけ，新たな知見を生み出すことができる力を養成する。
・法律学の基礎的知識に基づいて，物事を論理的，合理的かつ批判的に考察することができる人材を育成する。

CP4
・社会における問題の解決にとって必要な情報を積極的に収集・分析し，それを解決策に役立てることができる力を養成する。
・社会における法的問題を抽出し，専門的知識に基づく具体的な解決方法を示すことができる力を養成する。
・法律学に関する体系的知識を修得し，法的観点に立って問題を解決することができる人材を育成する。

CP5
・法律学の専門的知識を基に，自らが取り組むべき課題を探求することができる力を養成する。
・専門的知識・能力を社会の様々な領域に応用することにより，社会に貢献することができる人材を育成する。

CP6
・コミュニケーション能力を高め，自らの考えを的確に伝えることができる人材を育成する。
・世界に発信できる語学力を身につけることにより，社会の中で積極的にコミュニケーションを図ることができる力を養成する。
・他者とのコミュニケーションを通じて，多様な価値観を理解・尊重することができる力を養成する。

CP7

・リーダーとしての役割を理解し，社会の中でリーダーシップを発揮することができる力を養成する。
・他者を尊重し，信頼関係を構築することにより，協働して問題解決に取り組むことができる力を養成する。
・問題解決のために話し合いの場を設け，自主的に問題を解決することができる人材を育成する。

CP8

・他者の意見を謙虚に受け入れ，自己の達成度を客観的に分析した上で，さらなる目標を定めて，それを達成するために積極的に取り組むことができる力を養成する。

⑤政治経済学科

CP1

・社会における政治と経済の役割を理解し，説明する能力を養成する。
・法律，社会道徳及び日本大学の学則に従って,適切に学生生活を過ごすことができる人格を涵養する。
・高い倫理観に基づいて，政治・経済分野での自らの使命・役割を果たす力を育成する。

CP2

・日本と世界の政治や経済の仕組みや現状を分析し，説明する能力を養成する。
・日本や世界が直面する政治的・経済的問題を正確に理解し，的確に説明する能力を養成する。

CP3

・政治・経済現象を客観的・批判的に観察し，その本質を把握する能力を養成する。
・政治と経済に関する学問的知識を基礎として，社会現象を科学的に分析する能力や論理的・合理的に考察する能力を養成する。
・政治と経済に関する新たな知見を生み出す力を育成する。

CP4

・政治や経済に関する社会的活動に積極的にかかわる姿勢や態度を涵養する。
・現代の政治や経済の実情を観察し，その本質を見抜く力を育成する。
・政治的・経済的問題に対する適確な解決策を提示できる能力を養成する。

CP5

・社会の抱える政治的・経済的課題に対して，積極的に取り組む力を育成する。
・より良い社会の創造に向けて，政治的・経済的問題の解決に果敢に挑戦する姿勢を涵養する。

CP6

・他者の意見や考えを理解し，それらを尊重する姿勢と態度を涵養する。
・政治や経済に関する学問的知識に基づき，論理的に表現する能力を養成する。
・政治や経済に関する自らの考えを正確に伝える能力を養成する。

CP7

・政治や経済に関する社会的活動に参加するにあたり，多様な考えを持つ人々と協働することができる力を育成する。
・社会や共同体において，政治や経済に関する学問的知識を応用してリーダーシップを発揮するとともに，協働者を支援することが可能な力を育成する。

CP8

・政治や経済に関する他者の意見を受け入れるとともに，自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる人間性を涵養する。
・政治や経済に関する社会的活動に対する自らの参加や貢献について振り返り，それらを客観的に評価することができる人間性を涵養する。
・生涯にわたり社会に貢献できるよう，日頃から政治や経済の新しい知識の獲得に

努力する姿勢を育成する。

⑥新聞学科

CP1　「ジャーナリズム」「メディア」「コミュニケーション」をめぐる学問（以下，「新聞学」という）に係る専門的な知識を学ぶ力を養成し，規範と高い倫理観に基づいて情報を取り扱うことができる人材を育成する。

CP2　日本及び世界における新聞学に係る諸問題を理解し，説明することができる人材を育成する。

CP3　社会を客観的かつ批判的に捉えて考察し，論理的に結論を導き出す力を夭逝する。

CP4　自ら問題を発見し，問題に対する解決策を考え，積極的に提案することができる人材を育成する。

CP5　新聞学に係る専門的な知識を基に，率先してより良い社会の構築に寄与しようとする人材を育成する。

CP6　他者を尊重し，ジャーナリズムやメディアに係る現場など，実社会において適切なコミュニケーションを実践することができる人材を育成する。

CP7 あらゆる場面において，率先してリーダーシップを発揮して，より良い成果をあげるよう尽力することができる人材を育成する。
ジャーナリズムやメディアに係る現場などの実社会において，自らすすんで協働することができる力を養成する。

CP8　自ら行動すべきことを計画して実践することができ，自らの行動を振り返ることで，自己目標を実現しようとたゆまずに努力することができる人材を育成する。

⑦経営法学科

CP1

・社会における法と企業の役割を理解し説明することができる力を養成する。
・日本大学の学則に従って学生生活を過ごすことができる人材を育成する。
・適切な言葉遣い，態度，行動をとることができる人材を育成する。
・他者の人格を尊重し，常に敬意を払って接することができる人材を育成する。

CP2

・国内外の経営活動・企業活動の現状を理解し，経営と法の視点からそれらの内容を分析し説明することができる力を養成する。
・情報収集により得た新しい知見を基に，国内外の経営活動・企業活動をめぐる社会的問題について，説明することができる力を養成する。
・国内外の裁判手続及び裁判外紛争解決手段に関する基本的知識を身につけ説明することができる力を養成する。

CP3

・国内外の経営活動・企業活動に必要な基礎的知識を積極的に身につけ，論理的かつ批判的に評価することができる力を養成する。
・国内外の経営活動・企業活動に関する倫理的問題を把握し，倫理的原則に基づいてビジネスプランを立案することができる力を養成する。
・常に学問に対して前向きな姿勢を忘れず，生涯にわたり向上を図ることができる人材を育成する。
・国内外の経営活動・企業活動の基礎的知識を身につけ，新たな知見とイノベーションを生みだすことができる力を養成する。

CP4

・国内外の経営活動・企業活動における経営と法に関する体系的知識を修得し，実務的観点に立って問題を解決することができる力を養成する。
・国内外の経営活動・企業活動における経営と法に関する基礎的知識に基づいて，事業が直面しうる問題点を評価し，その改善計画を立案することができる力を養

成する。
・国内外の経営活動・企業活動における経営と法に関する情報を収集・分析し，得られた情報をもとに問題点を抽出することができる力を養成する。
・国内外の経営活動・企業活動について，経営と法の視点からみた問題点に共通する事象を抽出・発見し，列挙することができる力を養成する。
CP5
・最新の国内外の経営活動・企業活動における問題点に関する知識を修得し，未来を見据え自らが取り組むべき課題を探求することができる力を養成する。
CP6
・国内外の経営活動・企業活動に参加した際に直面する課題について，どのように対応すべきかを具体的に述べ，実践することができる人材を育成する。
・世界に発信できる語学力を身につけ，コミュニケーション能力を高めることができる力を養成する。
・国内外の経営活動・企業活動の発展に貢献することの必要性を理解し，自らの考えを述べることができる力を養成する。
CP7
・国内外の経営活動・企業活動における協働プロジェクトを実践するために，外部の協働事業者との信頼関係を形成することができる力を養成する。
・経営強化と予防法務に貢献する者として，幅広い教養と豊かな感性を身につけることができる人材を育成する。
CP8
・他者や専門職からの助言を受け容れ，自己学習への意欲を高め，生涯にわたって向上を図ることの必要性と方法を説明することができる力を養成する。
⑧公共政策学科
CP1
・現代社会における，公的セクター，私的セクターの役割を理解し説明する能力を育成する。
・公共空間で活躍できる教養と総合的な社会科学の知識を有し，自らの役割を果たすことのできる人材（公務員、公益法人職員、公益関係民間企業職員等。以下同じ）を養成する。
CP2
・日本及び世界の法，政治，経済，行政，の仕組みと，それらが直面している問題の表面的なことだけでなく，本質面を理解し，説明できる能力を育成する。
CP3
・公共政策に関する基礎的知識及び政策分析のスキルを基に，論理的，合理的かつ多面的な考察を通じて新たな知見を構築し、社会と人々のために当該知見を提供することができる能力を育成する。
・政策形成に必要な基礎的知識を身につけ，論理的かつ批判的にそれらのプロセスや政策効果を評価することができる人材を養成する。〃
CP4
・現代社会を深く観察し，問題を発見し，公共政策に関する知見をいかして立法行為などの解決策を示すことのできる人材を養成する。
・公共領域に関する体系的知識を修得し，問題を構造化する能力を育成する。
・現代行政に関する情報を収集・分析し，得られた情報をもとに問題点を抽出する能力を育成する。
・公共政策の視点からみた現代社会の問題点に共通する事象を抽出・発見し，列挙する能力を育成する。
CP5
・社会システムに関する専門的知識を基に，社会変動に応じたより良い公共の創造

と社会システムの構築に寄与することに挑戦することがのできる人材を養成する。

CP6

・他者や社会の多様な価値観とその変化を理解し，社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践し，自らの考えを伝えることができる人材を養成する。

・現代社会の問題を理解し解決するために，国内外においてコミュニケーションがとれる語学力と交渉力を育成する。

CP7

・公共領域の課題の解決のために，解決策ごとに様々なアクターと協働して問題の解決に向けて行動計画を作成し，行動できる人材を養成する。

・公共領域における公私協働を実践するために，協働の相手との信頼関係を構築できる人材を養成する。

・新しい公共領域に貢献する者として，幅広い教養と豊かな感性を身につけた人材を養成する。

CP8

・多面的な意見を客観的に受け入れ，自己の活動がより良い社会，コミュニティの創造に貢献したかを振り返ることにより，社会人として自己研鑽を続ける人材を養成する。

・生涯にわたって自己の能力の向上を図り，社会での役割を説明することができる人材を養成する。

2　文理学部　https://chs.nihon-u.ac.jp/about/information/policy/

学位ごとの教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は次のとおりである。

①学士（文学）

日本大学文理学部（学士（文学））では，日本大学教育憲章（以下,「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成するために，総合教育，外国語教育，初年次教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し,「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の８ つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目（ゼミナール，卒業論文等）の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

［CP1］　初年次教育，総合教育及び各学科専門基礎教育を通じて，人文学，社会科学，自然科学・様々な文化圏の言語・文学に関する知識・教養を学ぶなかで倫理観を高める能力を育成する。

［CP2］　総合教育，外国語教育及び各学科専門科目を通じて，グローバルな視点を持ち，日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している問題を理解し，その多様性について，人文学を活かしながら説明する能力を育成する。

［CP3］　各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて,様々な情報を公平に入手し,その情報を基に論理的・批判的に思考し，表現する能力を育成する。

［CP4］　各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて,資料や事象を注意深く観察・検討して，自らの能動的に問題を発見し，様々な文化圏における言語・文学・思想・歴史の知識を活かしながら解決策を提案できる能力を育成する。

［CP5］　各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，強い気持ちで，人文学を中心としたさまざまな問題に果敢に挑戦する姿勢と能力を育成する。

［CP6］　各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，様々な文化圏における言語を通じて他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを明晰に伝え，他者と議論することができる能力を育成する。
［CP7］　各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，集団の中で他者と連携しながら，自らリーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，様々な文化圏における文化についての知識や多様性への理解を活かしながら協働者の活躍を支援する能力を育成する。
［CP8］　各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，客観的に自己を見つめ，振り返ることにより，様々な文化圏における言語・文学・思想・歴史の知識を活かしながら自己の資質を高めることができる能力を育成する。

②学士（社会学）

日本大学文理学部（学士（文学））では，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成するために，総合教育，外国語教育，初年次教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の８ つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目（ゼミナール，卒業論文等）の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

［CP1］　初年次教育，総合教育，外国語教育，人文・社会・自然各学科の専門基礎教育をバランスよく履修し，人文科学，社会科学，自然科学に関する幅広い知識・教養を学ぶなかで，自然科学と異なる問題意識から出発してきた社会科学において独自の方法論的特徴を持つ社会学の枠組みや方法から，自己の倫理観のみならず社会に対する責任観を身につける。
［CP2］　総合教育，外国語教育，初年次教育，そして社会学科専門科目（入門科目・基本科目・応用科目・完成科目）の段階的修得を通じ，日本及び世界のグローバルな歴史・文化を踏まえつつ，国際社会が直面している問題を理解し，日常生活から国際社会に至る現代社会の多層性と多様性を社会学の枠組みや方法を活かし説明する能力を育成する。
［CP3］　社会学科専門科目（入門科目・基本科目・応用科目・完成科目）の段階的修得を通じ，社会事象や問題の性質に合わせ，データや文献を収集するための方法を選択し，収集されたデータや文献と適切に向き合うための作法を身につけるとともに，講義や実習での対話や討論を経て，現代社会の多層性・多様性について論理的・批判的に思考するリテラシーを育成する。
［CP4］　社会学科専門科目（入門科目・基本科目・応用科目・完成科目）の段階的修得を通じ，社会学の枠組みや方法に即して社会事象や問題を観察・検討するのみならず，自らが能動的に動くことで新たな問題やその構造を発見・理解し，適切な解決策を提案できる能力を育成する。
［CP5］　社会学科専門科目（入門科目・基本科目・応用科目・完成科目）の段階的修得を通じ，個人又はグループで社会学的研究計画を構想し，輪読・実査を行うという，理論と実証を架橋する一連の協同作業の中で，何事にも全力で取り組み，諦めずに社会問題の発見・解決や社会学の刷新に立ち向かう挑戦力を養う。
［CP6］　社会学科専門科目（入門科目・基本科目・応用科目・完成科目）の段階的修得を通じ，個人又はグループで社会学的研究計画を構想し，輪読や実査を行うという，理論と実証を架橋する一連の協同作業の中で，他者の意見を聴いて理解

し，自分の考えを明晰に伝え，他者と議論することができる能力を育成する。
［CP7］　社会学科専門科目（入門科目・基本科目・応用科目・完成科目）の段階的修得を通じ，個人又はグループで社会学的研究計画を構想し，輪読や実査を行うという，理論と実証を架橋する一連の協同作業の中で，対話と議論を積み重ねながらチームワークに必要なリーダーシップを習得し，適正な形で協働者を支援していくための能力を育成する。
［CP8］　社会学科専門科目（入門科目・基本科目・応用科目・完成科目）の段階的修得を通じ，社会問題の発見と解決に向けた実践的な調査研究を経て，自身の行為・態度を自己反省的に捉え返す省察力と自己管理能力を養う。

③ 学士（社会福祉学）

日本大学文理学部（学士（社会福祉学））では，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された 8 つの能力（コンピテンシー）を養成するために，総合教育，外国語教育，初年次教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。

また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の 8 つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目（ゼミナール，卒業論文等）の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

［CP1］　初年次教育，基礎教育，総合教育及び学科専門基礎教育を通じて，人文科学，社会科学，自然科学に関する知識・教養を学ぶなかで倫理観を高める能力を育成する。
［CP2］　総合教育，外国語教育及び学科専門基礎教育を通じて，グローバルな視点を持ち，日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している社会福祉の問題を理解し，その多様性について，社会福祉学の視点を活かしながら説明する能力を育成する。
［CP3］　学科専門基礎教育及び専門発展教育を通じて，社会や社会福祉に関する情報を公平に入手し，その情報を基に論理的・批判的に思考し，表現する能力を育成する。
［CP4］　学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，社会福祉の関連資料やその実践を注意深く考察・検討して，自ら能動的に問題を発見し，社会福祉学の視点を活かしながら解決策を提案できる能力を育成する。
［CP5］　学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，社会福祉学を中心としたさまざまな問題に忍耐強く取り組み，果敢に挑戦する姿勢と能力を育成する。
［CP6］　学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，他者の意見を聴いて理解・尊重し，自分の考えを明晰に伝え，他者と議論することができる能力を育成する。
［CP7］　学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，集団の中で他者と連携しながら，自らリーダーシップを発揮することで，当事者や協働者の力を引き出し，社会福祉学の視点を活かしながら支援することができる能力を育成する。
［CP8］　学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，謙虚に自己を見つめ，振り返ることにより，社会福祉学を活かしながら自己の資質を高めることができる能力を育成する。

④ 学士（教育学）

日本大学文理学部（学士（教育学））では，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された

8 つの能力（コンピテンシー）を養成するために，総合教育，外国語教育，初年次教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の 8 つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目（卒業論文）の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

［CP1］　主に初年次教育，基礎教育，総合教育及び人文各学科専門基礎教育を通じて，人文科学，社会科学，自然科学に関する知識・教養を学ぶなかで倫理観を高める能力を育成する。

［CP2］　主に総合教育，外国語教育及び人文各学科専門科目を通じて，グローバルな視点を持ち，日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している問題を理解し，その多様性について，人文学を活かしながら説明する能力を育成する。

［CP3］　主に学科専門必修科目や学科専門科目［DP3 群］を通じて，様々な情報を公平に入手し，その情報を基に論理的・批判的に思考し，表現する能力を育成する。

［CP4］　主に学科専門必修科目や学科専門科目［DP4 群］を通じて，資料や事象を注意深く観察・検討して，自らの能動的に問題を発見し，人文学を活かしながら解決策を提案できる能力を育成する。

［CP5］　主に学科専門必修科目や学科専門科目［DP5 群］を通じて，あきらめない気持ちで，人文学を中心とした様々な問題に果敢に挑戦する姿勢と能力を育成する。

［CP6］　主に学科専門必修科目や学科専門科目［DP6 群］を通じて，他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを明晰に伝え，他者と議論することができる能力を育成する。

［CP7］　主に学科専門必修科目や学科専門科目［DP7 群］を通じて，集団の中で他者と連携しながら，自らリーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を人文学を活かしながら支援することができる能力を育成する。

［CP8］　主に学科専門必修科目や学科専門科目［DP8 群］を通じて，謙虚に自己を見つめ，振り返ることにより，人文学を活かしながら自己の資質を高めることができる能力を育成する。

⑤ 学士（体育学）

日本大学文理学部（学士（体育学））では，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された 8 つの能力（コンピテンシー）を養成するために，総合教育，外国語教育，初年次教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の 8 つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目（ゼミナール，卒業論文等）の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

［CP1］　初年次教育，基礎教育，総合教育及び人文各学科専門基礎教育を通じて，人文学，社会科学，自然科学に関する知識・教養を学ぶなかで倫理観を高める能力を育成する。

［CP2］　総合教育，外国語教育及び人文各学科専門科目を通じて，グローバルな視点を持ち，日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している問題を理解し，その多様性について，体育学を活かしながら説明する能力を育成する。
［CP3］　各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて,様々な情報を公平に入手し,その情報を基に論理的・批判的に思考し，表現する能力を育成する。
［CP4］　各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて,資料や事象を注意深く観察・検討して，自らの能動的に問題を発見し，体育学を活かしながら解決策を提案できる能力を育成する。
［CP5］　各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，あきらめない気持ちで，体育学を中心とした様々な問題に果敢に挑戦する姿勢と能力を育成する。
［CP6］　各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて,他者の意見を聴いて理解し,自分の考えを明晰に伝え，他者と議論することができる能力を育成する。
［CP7］　各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，集団の中で他者と連携しながら，自らリーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を体育学を活かしながら支援することができる能力を育成する。
［CP8 ］　各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，謙虚に自己を見つめ，振り返ることにより，体育学を活かしながら自己の資質を高めることができる能力を育成する。

⑥ 学士（心理学）

日本大学文理学部（学士（心理学））では，日本大学教育憲章（以下,「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された 8 つの能力（コンピテンシー）を養成するために，総合教育，外国語教育，初年次教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し,「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の 8 つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目（ゼミナール，卒業論文等）の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

［CP1］　初年次教育・総合教育及び心理学科専門基礎教育を通じて，人文学，社会科学，自然科学に関する知識・教養を学ぶなかで倫理観を高める能力を育成する。
［CP2］　総合教育，外国語教育及び心理学科専門科目を通じて，グローバルな視点を持ち，現代社会が直面している問題を理解し，その多様性について，心理学を活かしながら説明する能力を育成する。
［CP3］　心理学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，様々な情報を公平に入手し，その情報を基に論理的・批判的に思考し，表現する能力を育成する。
［CP4］　心理学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，資料や事象を注意深く観察・検討して，自らの能動的に問題を発見し，心理学を活かしながら解決策を提案できる能力を育成する。
［CP5］　心理学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，あきらめない気持ちで，心理学を中心とした様々な課題に果敢に挑戦する姿勢と能力を育成する。
［CP6］　心理学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを明晰に伝え，他者と議論することができる能力を育成する。
［CP7］　心理学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，集団の中で他者と連携しながら，自らリーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を心理学を活かしながら支援することができる能力を育成する。
［CP8］　心理学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，謙虚に自己を見つめ，振

り返ることにより，心理学を活かしながら自己の資質を高めることができる能力を育成する。

⑦ 学士（地理学）

日本大学文理学部（学士（地理学））では，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された8 つの　能力（コンピテンシー）を養成するために，総合教育，外国語教育，初年次教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の 8 つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目（課題研究，卒業研究等）の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

［CP1］　初年次教育・総合教育及び学科専門基礎教育を通じて，人文科学，社会科学，自然科学に関する知識・教養を学ぶことで倫理観を高める能力を育成する。

［CP2］　総合教育，外国語教育及び学科専門教育を通じて，グローバルな視点を養い，日本及び世界の情勢や，国際社会が直面している問題を理解し，その多様性について，地理学を活かしながら説明する能力を育成する。

［CP3］　学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，有用な情報を入手し，その情報を基に論理的・批判的に思考するとともに，それを的確に表現する能力を育成する。

［CP4］　学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，資料や事象を注意深く観察・検討して，自ら能動的に問題を発見し，地理学に基づく解決策を提案できる能力を育成する。

［CP5］　学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，あきらめない気持ちを養い，地理学分野が解決すべき課題に果敢に挑戦する姿勢と能力を育成する。

［CP6］　学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを明晰に伝えて，他者と議論できる能力を育成する。

［CP7］　学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，集団の中で他者と連携しつつ自らリーダーシップを発揮し，協働者の力を引出して，その活躍を地理学に基づいて支援できる能力を育成する。

［CP8］　学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，謙虚に自己を見つめ，振り返ることで，地理学を活用しながら自己の資質を高める能力を育成する。

⑧ 学士（理学）

日本大学文理学部（学士（理学））では，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された 8 つの能力（コンピテンシー）を養成するために，総合教育，外国語教育，初年次教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の 8 つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目（卒業テーマ研究，数学研究，情報科学研究，特別研究，化学特別実験）の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

［CP1］　初年次教育，総合教育及び各学科専門基礎教育を通じて，人文学，社会科学，自然科学・情報科学に関する知識・教養を学ぶなかで倫理観を高める能力を育成する。
［CP2］　総合教育，外国語教育及び各学科専門科目を通じて，グローバルな視点を持ち，日本及び世界の歴史や，科学技術が抱える問題，国際社会が直面している問題を理解し，その多様性について，自然科学・情報科学の知識や経験を活かしながら説明する能力を育成する。
［CP3］　各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて,様々な情報を公平に入手し，その情報を科学的根拠に基づいて客観的に捉え，論理的・批判的に思考し，表現する能力を育成する。
［CP4］　各学科の専門科目を通じて，日常生活における現象や資料から能動的に科学的問題を発見し，自然科学・情報科学分野の知識や経験を活かしながら解決策を提案できる能力を育成する。
［CP5］　各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，あきらめない気持ちで，自然科学・情報科学を中心とした様々な問題に果敢に挑戦する姿勢と能力を育成する。
［CP6］　各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて,他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを明晰に伝え，他者と議論することができる能力を育成する。
［CP7］　各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，集団の中で他者と連携しながら，自らリーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，自然科学・情報科学の知識や経験を活かしつつ，その活躍を支援することができる能力を育成する。
［CP8］　各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，謙虚に自己を見つめ，振り返ることにより，自然科学・情報科学の知識や経験を活かしながら，他者からの批評を謙虚に受け止め，自己の資質を高めることができる能力を育成する。

3　経済学部　https://www.eco.nihon-u.ac.jp/education/（令和３年度以前の入学者）

経済学部（学士（経済学））は，卒業の認定に関する方針に適う人材を養成するため，次表に基づき，４年間を通じて，体系的なカリキュラムを編成し実施する。また，各科目における教育内容・方法，成績評価方法及び評価基準をシラバス等で明示し，学生に周知した上で，実施する授業形態に即し，公正かつ厳正に評価を行う。
［CP1］　専門科目及び総合教育科目の学修を通じて，経済・経営に関する専門的な知識と社会・文化に関する豊かな教養を学び倫理的に判断できる能力を養う。
［CP2］　経済学・経営学の専門科目及び幅広い総合教育科目の学修を通じて，グローバル化する経済社会の複雑な実態を理解し，説明できる能力を養う。
［CP3］　経済学・経営学の知識及び理論を学修することを通じて，様々な情報を基に論理的・批判的に考える能力を涵養する。
［CP4］　経済学・経営学の理論及びデータ分析手法の学修を通じて，経済社会の諸問題に対する分析視角を涵養し，具体的な解決策を提案できる能力を養う。
［CP5］　経済学・経営学に関して初歩的な知識から高度な専門知識や分析手法まで段階的に学修し，修得することを通じて，経済社会が直面する課題の解決に向けて，あきらめず地味かつ積極的に取り組む姿勢を育む。
［CP6］　全ての学生が履修するゼミナールをはじめ，様々な少人数のグループ学修を通じて，他者の意見を聴き，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えをわかりやすく他者に伝える能力を向上させる。
［CP7］　ゼミナールをはじめ，様々な少人数のグループ学修において，他者と協働しながら問題解決を図ることを通じて，自らの役割を認識するとともに，協働者の力を引き出し，その活躍を支援する能力を育む。
［CP8］　専門科目及び総合教育科目の学習を通じて，自ら省みて，状況を改善する

方策を見出す能力を養う。

経済学部　https://www.eco.nihon-u.ac.jp/dp/gakubuyouran2022/image/dpcp.pdf
（令和４年度の入学者）
[CP1]　経済学専門科目の系統的学修を軸として，経営学専門科目及び総合教育科目の並行的学修も合わせて推奨することで，経済学を軸とする専門的な知識と，経営・社会・文化につなぐ豊かな教養を学び，倫理的に判断できる能力を養う。
[CP2]　経済学専門科目の系統的学修を軸としつつ，経営学専門科目及び総合教育科目の学修を通じて，グローバル化する経済社会の複雑な実態を理解し，隣接分野に関わる他者との協働に必要となる，専門的事項をわかりやすく説明できる能力を養う。
[CP3]　経済学の知識及び理論を系統的に学修することを通じて，経済現象に関する様々な情報を論理的・批判的に考え，さらに身につけた専門知識を経営学や総合教育分野との協働に資する形で分野を超えた対話に活かすことができる能力を涵養する。
[CP4]　経済現象を帰納的に理解するための経済学の理論および情報処理の手法に関する学修と，得られた解決策を実現するために必要な演繹的な主体的学修を通じて，経済社会の諸問題に対する分析視角を涵養し，具体的に課題を解決できる能力を養う。
[CP5]　経済学に関して初歩から高度な内容に至るまでの専門知識を系統的に学修し，実体験を踏まえた主体的学修を通じて，単純な知識解答型課題とは異なる，複雑化した現実課題をあきらめず着実かつ積極的に取り組む姿勢を育む。
[CP6]　全ての学生が履修するゼミナールをはじめ，様々な形のグループ学修を通じて，他者の意見を聴き，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えをわかりやすく他者に伝える能力を向上させる。
[CP7]　ゼミナールをはじめ，様々な少人数のグループ学修において，他者と協働しながら問題解決を図ることを通じて，自らの役割を認識するとともに，協働者の力を引き出し，その活躍を支援する能力を育む。
[CP8]　専門科目及び総合教育科目の学修と自らを省みる主体的学修を通じて，経済学と経営学，そして総合教育分野からの要請をバランス良く調和させながら，状況を改善する方策を見出す能力を養う。

４　商学部　https://www.bus.nihon-u.ac.jp/education-information/
日本大学の基本理念である「自主創造」の精神にもとづき，ディプロマ・ポリシーに適う人材を養成するため，４年間を通じて，体系的なカリキュラムを編成し，実施することによって，以下の８つの能力を修得することを目指す。また各科目における教育内容・方法，成績評価方法及び評価基準をシラバス等で明示し，学生に周知した上で，実施する授業形態に即し，公正かつ厳正に評価を行う。
CP-1　総合教育科目及び専門教育科目を通じて，豊かな教養・知識を身に付け，高い倫理観と柔軟なバランス感覚を養い，正しいビジネス判断をすることで新境地を拓く能力を育成する。
CP-2　総合教育科目及び専門教育科目を通じて，経済知識・教養・語学を身に付け，コミュニケーション力を駆使して，様々なビジネスシーンを分析理解し，その背景・経緯・問題点等を分かりやすく説明する能力を育成する。
CP-3　総合教育科目及び専門教育科目を通じて，論理的・批判的思考を身に付け，独自の視点からビジネスを構想する能力を育成する。
CP-4　総合教育科目及び専門教育科目を通じて，事象を注意深く観察して問題を発見し，ビジネスの新たな局面においても解決策を提案できる能力を育成する。
CP-5　総合教育科目及び専門教育科目を通じて，ビジネス社会で必要とされる実践力・組織運営力及び新たな分野に果敢に粘り強く挑戦する能力を育成する。

CP-6　総合教育科目の実技科目及び専門選択科目の少人数授業を通じて，ビジネスの場で他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを伝えることができる能力を育成する。

CP-7　総合教育科目及び専門教育科目を通じて，グローバルな視点から，集団の中でリーダーシップを発揮しつつ，他人の意見を十分に尊重し支援する能力を育成する。

CP-8　総合教育科目及び専門教育科目を通じて，社会人としての十分な幅広い教養と道徳観・倫理観・世界観・歴史観を養い，他人の言動を尊重しつつ，自己分析を冷静に行いながら自分の長所・才能を伸ばす能力を育成する。

5　芸術学部　http://www.art.nihon-u.ac.jp/about/policy/education/

日本大学教育憲章（以下,「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業の認定に関する方針に沿って 21 世紀における芸術の持つ社会的先導性にかんがみ，学科の各々の専門教育をさらに充実・発展させ，同時に，学科の垣根を越えた総合的な教育課程を編成し実施する。卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成するために,芸術・文化全般にわたる初年次教育，芸術教養教育，専門教育，キャリア教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実習・実技等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。学修成果の評価は，専門的な知識・技能および態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し,「憲章」に示される日本大学マインドおよび自主創造の８つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

CP1　各学科専門科目の理論･歴史部門及び芸術教養科目,体育講義科目等を通じて,芸術に関する豊かな知識・教養を学び，倫理観を高める能力を育成する。

CP2　各学科専門科目の理論・歴史部門及び芸術教養科目，外国語科目等を通じて,グローバルな視点を持ち，日本及び世界の歴史や直面している問題を理解し,その多様性について，芸術の専門家として説明できる能力を育成する。

CP3　各学科専門科目の研究部門及び芸術教養科目等を通じて,様々な情報を基に論理的・批判的な思考やプロセスを持つ能力を育成する。

CP4　各学科専門科目の研究部門及び芸術教養科目等を通じて,世の中の事象を注意深く観察して問題を発見し，芸術表現を通して解決策を提案できる能力を育成する。

CP5　各学科専門科目の表現技術部門及び体育実技科目等を通じて,あきらめない気持ちで，芸術表現における様々な問題に果敢に挑戦する能力を育成する。

CP6　各学科専門科目の表現技術部門等を通じて,他者の意見を聴いて理解し,自分の考えを明確に伝え，他者を納得させることができる能力を育成する。

CP7　各学科専門科目の表現技術部門等を通じて，集団のなかで他者と連携しながら，リーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を芸術の専門家として支援できる能力を育成する。

CP8　各学科専門科目の表現技術部門等を通じて，謙虚に自己を見つめ，振り返ることにより，自己を高め，芸術表現に活かすことができる能力を育成する。

6　国際関係学部　https://www.ir.nihon-u.ac.jp/guide/info-ed/

国際関係学部（学士（国際関係））では，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業の認定に関する方針に沿って国際関係学部の教育課程を編成し実施する。次表の「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された次表の 8 つの能力（コンピテンシー）を養成するために，初年次教育，総合教育，外国語教育，健康スポーツ教育，専門教育及び学部共通教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実習等の授業形態を組み入

れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能および態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインドおよび自主創造の 8 つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，体系的に編成された教育課程に基づく授業科目の単位修得状況，及び学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

CP1　総合教育科目，外国語科目，専門教育科目を通じて，包括的な知識を修得し，柔軟な発想ができる能力を培い，国際社会に通用する豊かな知識と幅広い教養に基づく高い倫理観を養成する。

CP2　総合教育科目，専門教育科目等を通じて，国際関係・国際文化に関する基本的な学修の能力・方法やコミュニケーション能力と知識を身に付けることにより，国際社会の現状を説明することができる能力を養成する。

CP3　体系化された専門教育科目から得られる専門知識に基づき，国際情勢を理解し，国際社会や国際交流の各分野で活躍しうる理論と応用力を身に付け，論理的かつ批判的な思考できる能力を養成する。

CP4　体系化された専門教育科目から得られる専門知識に基づき，国際社会が直面している問題を正しく理解し，実務にも即応した問題解決能力を身に付け，解決策を提案する能力を養成する。

CP5　体系化された専門教育科目から得られる専門知識に基づき，国際社会の各分野において積極的かつ自主的に立ち向かい，政策立案能力を身に付けることにより，個々の解決策を立案し，説明できる能力を養成する。

CP6　ゼミナール並びに総合教育科目，外国語科目，専門教育科目を通じて，多様な考えや表現及び文化を海外研修や地域研究を通して理解し，さらに多文化共生や日本人の気質・感性・価値観を日本語や外国語で学び，外国語能力を向上させることにより，国際社会で積極的に自己の考えを伝えることができる能力を養成する。

CP7　ゼミナールや卒業論文並びに総合教育科目，外国語科目，専門教育科目等を通じて，幅広い知識と専門性を身につけることにより，国際社会の中で，他者と連携を図り，協働者の力を引き出し，その活躍を支援できる能力を養成する。

CP8　総合教育科目並びに自主創造の基礎やライフデザイン及び卒業論文に至る４年間の学修を通じて，謙虚に自己を見つめ，生涯にわたり，社会人としての自己を高められ能力を養成する。

7　危機管理学部

https://www.nihon-u.ac.jp/risk_management/about/policy/#content2

自主創造の理念の下，文化的素養と市民的教養を錬磨する総合教育科目の基礎の上に，リーガルマインド（的確・柔軟な判断力）を涵養するための法学系専門科目を体系的に配置するとともに，リスクリテラシー（危機管理能力）を醸成するための災害マネジメント，パブリックセキュリティ，グローバルセキュリティ，情報セキュリティの４つの領域から構成される危機管理系専門科目を配置する。

講義型授業と演習・統合型授業との連携において，これらを有機的に結合させることにより，以下の要素からなる自ら学び，考え，道をひらく能力と，リーガルマインドに裏打ちされた多角的かつ理論的で着実なリスクリテラシーを開発する。この教育課程により，多様な現代社会の危機に際して，制度と組織を有効にマネジメントし，問題解決のために主体性と協調性をもって行動できる人材を養成する。

CP1-D1 市民的素養と参加

コミュニティに積極的な変化をもたらすために，知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。

CP1-E1 学識・専門技能

専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。

CP2-A1 グローバル感覚

地球的視点で物事を多面的に捉え，異文化との交流の重要性を認識することができる。

CP2-A2 異文化適応

異文化との交流を積極的かつ多面的に行い，相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。

CP2-B1 自己啓発

自己の存在意義を知り，自らを高め続ける努力を継続することができる。

CP3-G1 状況把握

自らの置かれた状況，及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し，適切に対応することができる。

CP3-H1 論理的思考

理路整然とした思考によって，問題・課題を合理的に解決することができる。

CP3-H2 批判的思考

論理的で偏りのない思考，そのように自らの推論を内省する態度をもって，問題・課題を合理的に解決することができる。

CP4-F1 探究と論拠

問を設定し又は論点を特定し，それに対する答・結論・判断を合理的に導くために，論拠の収集と分析を体系的に行うことができる。

CP4-F2 課題解決

オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし，検証し実行することができる。

CP4-I1 理解・分析と読解

文章表現における意味と含意を抽出し，分析及び理解することができる。

CP4-I2 量的分析

数値データを適切に扱い，様々な文脈で量的問題を推論し，課題の解決につなげることができる。

CP4-I3 情報分析

情報の収集と取捨選択，分析と加工を有効かつ円滑に行うことができる。

CP5-J1 継続的学修基盤

コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを，自らの思考及び行動のパターンとすることができる。

CP5-J2 創造的思考

既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し，一定のリスクをとりながら，結果に結び付けることができる。

CP6-K1 ライティング・コミュニケーション

文章によって自らの考えを表現し，読者に過不足なく伝達することができる。

CP6-K2 オーラル・コミュニケーション

自らの考え，信念を，聞き手に口頭で的確に伝達することができる。

CP7-C1 倫理的思考・社会認識

人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み，社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。

CP7-L1 チームワーク

集団的に課題解決を行う際に，自己の立場や責任を認識し，互いに集団の連帯を強めることができる。

CP8-M1 統合的・応用的学修

知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに，これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。

8　スポーツ科学部

http://www.nihon-u.ac.jp/sports_sciences/about/policy/#content2

日本大学スポーツ科学部（学士（体育学））では，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。

競技スポーツにおける専門的な知識を持つ技術的熟達者としての能力と，諸問題を認識するとともに課題を概念化し解決していく反省的実践家としての実践力として「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された 8 つの能力（コンピテンシー）を養成するために，総合教育，外国語教育，初年次教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。

また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の 8 つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目（ゼミナール，卒業研究・卒業論文、専門演習等）の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

CP1

初年次教育，総合教育及び専門科目を通じて，スポーツに通底する社会科学，自然科学、医科学、形式科学に関する知識・教養を学び、反省的実践家としての実践力を構成する基礎的・汎用的能力を育成する。

CP2

初年次教育，総合教育、外国語教育及び専門科目を通じて、スポーツ界における国際人としてのグローバル感覚や、異文化への適応力を育成する。

CP3

専門教育を通じて、スポーツにおける様々な問題を適切に把握し，建設的、合理的な判断を行うことができる能力を育成する。

CP4

専門教育を通じて、スポーツ界全体が抱える問題を探求し，その状況を様々な知見を基に的確に分析する能力を育成する。

CP5

専門教育を通じて、スポーツの新たな可能性を追求し、様々な領域、領野の既存の知見・アイデアを利用し、果敢に挑戦し続ける行動力を育成する。

CP6

外国語教育、専門教育を通じて、自らの考えや信念を様々な表現で示し、グローバルに行動できるコミュニケーション能力を育成する。

CP7

総合教育、専門教育（卒業の達成を測るための授業科目を中心とする）を通じて、スポーツを含めた社会にある多様な価値を受容し，自己の立場、責任をチームでの協働作業から認識することで社会の安定を希求する公共心を育成する。

CP8

専門教育（卒業の達成を測るための授業科目を中心とする）を通じて、課題発見・仮説構築・仮説検証・課題解決・省察のプロセスを、スポーツ科学の手法に関連する学習成果に基づき主体的に反復する思考を育成する。

9　理工学部　https://www.cst.nihon-u.ac.jp/about/education/index.html

【日本大学理工学部（工学）教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）】

日本大学理工学部（工学）では，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基

に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。
「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成するために，初年次教育，教養教育，専門教育，キャリア教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。
また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の８つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

１　教養教育科目，基礎教育科目及び各学科の専門教育科目の学修を通じて，豊かな教養・知識を身につけ，倫理観を高める能力を育成する。
２　教養教育科目及び基礎教育科目に置かれる外国語科目等の学修を通じて，世界情勢の理解や外国語による意思疎通の能力を育成する。
３　基礎教育科目の基礎科学分野及び各学科の専門教育科目の学修を通じて，工学に関する知識を養い，論理的かつ批判的な思考力を育成する。
４　各学科の実験・実習科目及び卒業研究の学修を通じて，問題を発見し，解決策を提案する能力を育成する。
５　各学科の専門教育科目の学修を通じて先端の技術・理論に触れ，探究心及び挑戦力を育成する。
６　全学共通初年次教育科目，基礎教育科目及び各学科の専門教育科目の学修を通じて，コミュニケーション力及び他者への理解力を育成する。
７　卒業研究等の学修を通じて，リーダーシップや協働者の力を引き出す能力を育成する。
８　卒業研究及び卒業達成度評価科目の学修を通じて，自己の学びを振り返り，自己を高めることができる能力を育成する。

【日本大学理工学部（理学）教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）】
日本大学理工学部（理学）では，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。
「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成するために，初年次教育，教養教育，専門教育，キャリア教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。
また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の８つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

１　教養教育科目，基礎教育科目及び各学科の専門教育科目の学修を通じて，豊かな教養・知識を身につけ，倫理観を高める能力を育成する。
２　教養教育科目及び基礎教育科目に置かれる外国語科目等の学修を通じて，世界情勢の理解や外国語による意思疎通の能力を育成する。
３　基礎教育科目の基礎科学分野及び各学科の専門教育科目の学修を通じて，理学に関する知識を養い，論理的かつ批判的な思考力を育成する。

４　各学科の演習科目及び卒業研究の学修を通じて，問題を発見し，解決策を提案する能力を育成する。
５　各学科の専門教育科目の学修を通じて先端の技術・理論に触れ，探究心及び挑戦力を育成する。
６　全学共通初年次教育科目，基礎教育科目及び各学科の専門教育科目の学修を通じて，コミュニケーション力及び他者への理解力を育成する。
７　卒業研究等の学修を通じて，リーダーシップや協働者の力を引き出す能力を育成する。
８　卒業研究及び卒業達成度評価科目の学修を通じて，自己の学びを振り返り，自己を高めることができる能力を育成する。

10　生産工学部　http://www.cit.nihon-u.ac.jp/about/outline/policy

日本大学生産工学部（学士（工学））では，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）に基づく卒業の認定に関する方針として示された以下の８つの能力（コンピテンシー）を養成するために，「全学共通教育科目」，「教養基盤科目」，「専門教育科目」，「生産工学系科目」からなる教育課程を編成し実施する。

全学共通教育科目

学びをはじめる新入生に対し，日本大学の学生として共通して身につけるべき学修姿勢や修得すべきスタディ・スキルの涵養と，実社会との関連から教養を学ぶ意義の理解や自身の専門分野を学ぶ意識の向上をねらいとする科目として「自主創造の基礎」及び「日本を考える」を設置する。

教養基盤科目

統合的な視野で物事を正しく理解・認識するための能力を養うと共に，幅広い教養を身につけ，豊かな人間性や知性を育成するための「教養科目」，「国際コミュニケーション科目」，「基盤科目」と，俯瞰的かつ多面的な視点を育成するための「横断科目」によって編成する。

専門教育科目

各学科の専門分野を体系的に理解するための専門工学科目と，体験的学習を通じて専門知識より深く理解し応用力をつけるための実技科目によって編成する。

生産工学系科目

理論と実践の融合によって経営がわかる技術者を育成するためのキャリアデザイン教育とエンジニアリングデザイン教育で構成される科目群を体系的に編成する。

上記を構成する授業科目は，各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れ，さらに，PBL や反転授業などによるアクティブラーニングの手法を授業形態に合わせて適切に取り入れた効果的で多様な学修方法によって実施する。

なお，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の８つの能力（汎用的能力）の達成度は，体系的に編成された教育課程に基づく授業科目の単位修得状況と卒業研究の到達度及び学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。具体的には，各学科の教育課程に則った評価方法（評価基準）に基づいて学修成果を評価する。そして，能力の土台となる専門的な知識・技能及び態度の達成度は，各授業科目のシラバスに明示される達成目標の達成度として，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法によって学修成果を評価する。

CP1　教養・知識・社会性を培い，倫理的に判断する能力を育成するために，教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。
CP2　国際的視点から必要な情報を収集・分析し，自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために，教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。
CP3　専門知識に基づき，論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために，専

門教育科目等を体系的に編成する。

CP4　新たな問題を発見し，解決策をデザインする能力を育成するために，全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・実技科目等を編成する。

CP5　生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づき，新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために，生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

CP6　多様な考えを受入れ，違いを明確にしたうえで議論し，自らの考えを伝える能力を育成するために，コミュニケーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

CP7　新たな課題を解決するために自ら学び，自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために教養基盤科目・実技科目等を編成する。

CP8　自己を知り，振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために，全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

11　工学部

http://www.ce.nihon-u.ac.jp/wordpress/wp-content/uploads/2019/03/gakubu_dp_cp.pdf

日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業の認定に関する方針に沿って学科別の教育課程を編成し実施する。

卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成するために，全学共通初年次教育科目，教養科目，外国語科目，体育科目，自然科学科目，専門教育科目の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。

また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能および態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインドおよび自主創造の８つの能力（汎用的能力）の達成度に関しては，教育課程の体系に基づく授業科目の単位修得状況及び卒業研究の到達度や，学生自身による振り返りと他者との協働における相互理解等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

CP1　全学共通初年次教育科目，教養科目及び各学科専門教育科目等を通して，工学にかかわる分野で社会と環境に貢献できる工学的手法に習熟させ，それらを駆使できる幅広い教養・科学の学修を通じて高い倫理観を育成する。

CP2　外国語科目及び各学科専門教育科目等を通して，日本大学並びに日本大学工学部の使命を理解し，自らの専門分野の日本および世界における工学的役割や諸問題を幅広く見渡し，説明できる能力を育成する。

CP3　自然科学科目及び各学科専門教育科目等を通して，工学にかかわる分野の基礎となる，論理的・科学的・批判的思考の重要さや手法を，体系化された継続的な学修によって理解・修得し，専門分野における幅広い知識の吸収と高度な技術力を身につけ，発揮できる能力を育成する。

CP4　各学科専門教育科目等を通して，持続可能な社会の実現に向けた，工学にかかわる幅広い分野の知識や技術を学修させ，問題解決型や提案型の思考に接することで想像力を養い，豊かな発想と高度な分析を通して，自ら問題を発見し解決できる能力を育成する。

CP5　各学科専門教育科目等を通して，持続可能な社会の実現に向けて自ら考え行動し，工学にかかわる分野で社会に貢献できる専門知識・技術を体系的に身につけさせ，自らのキャリアデザインも含めて，新しいことに果敢に挑戦できる能力を育成する。

CP6　全学共通初年次教育科目,教養科目，体育科目及び各学科専門教育科目等を通して,社会性を持つ工学にかかわる分野の技術者として,豊かな人間関係づくりの土台となる心身の健康，集団行動の能力，多様なメディアを用いたコミュニケーション力を身につけさせ，自分と異なる立場の他者を理解・尊重しつつ，自らの考えを相手に伝えることができる能力を育成する。

CP7　全学共通初年次教育科目,体育科目，自然科学科目及び各学科専門教育科目を通して,学修における協働作業の中で,他者と協働し社会に貢献できる人間性豊かな技術者になる素養を身につけさせ，集団の中でリーダーとして他者の力を引き出し，その活躍を支援できる能力を育成する。

CP8　各学科専門教育科目等を通して,工学にかかわる分野に関して，常に他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止め，自らの学修や活動の達成度を謙虚に振り返り，新しい知識や技術の修得に励むことができる能力を育成する。

12　医学部　http://www.med.nihon-u.ac.jp/gaiyou/policy.html

教育目標を踏まえ，ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた医師を育成するため，６年間を通じて，一般教育，基礎医学，社会医学，臨床医学の各分野で構成される体系的なカリキュラムを編成し実施する。また，各授業科目の学修方法，学修課程，学修成果の方法，評価基準をシラバスに明示し，学生に周知する。学修の評価に関しては，実施する授業形態に即し，適正かつ厳格な方法で実施する。

CP1　「教養・知識に基づく高い倫理観」を涵養するために
医師を目指すものとしての自己を評価し，生涯にわたって向上を図ることの必要性と方法を理解する機会を与え，医師としての職責・倫理観とプロフェッショナリズム（態度，考え方，倫理観など）を育てる。

CP2　「保健・医療・福祉の社会性を理解して，世界の現状を理解し，説明する力」
自己の専門領域の文化的・社会的位置付けを把握し，地域社会及び国際社会の保健・医療・福祉の現状を理解して，疾病予防と健康増進の向上に寄与することができる。（疾病予防と健康増進・医療の社会性）

CP3　「論理的・批判的思考力」を涵養するために
知識を積極的に習得し，科学的評価・実証を行い，倫理的原則に従い研究計画を立案し，新たな知見を生み出すための科学的探究・医学研究への志向・医学的知識と問題対応能力を育てる。

CP4　「問題発見・解決力」を涵養するために
患者に対し思いやりと敬意を表し，個人を尊重した適切で効果的な医療と健康増進を実施するため，患者ケアに必要な診療技能と科学的探究・問題対応能力を育てる。

CP5　「省察力」を涵養するために
未解決の医学的問題を認識し，医療ニーズに常に対応できるように自己を管理し，生涯学習により常に自己の向上を図る必要性と方法を理解して医療チームの一員として協働的な業務を行う機会を与え，医療の質の向上と患者の安全管理に務めるための自律的学習能力・医療の質と安全管理・生涯にわたって共に学ぶ姿勢を育てる。

CP6　「挑戦力」を涵養するために
自らの知識と技術を研鑽し，未知・未解決の臨床的あるいは科学的問題を意識し，解決のための仮説を立て，果敢に取組む姿勢を育てる。

CP7　「コミュニケーション力」を涵養するために
他者を理解し，それぞれの立場を尊重した人間関係を構築し，適切な医療を実践できるための態度を養い，自らの考えを正確に伝え，国内外に発信するためのコミュニケーション能力を育てる。

CP8　「リーダーシップ・協働力」を涵養するために
医療・研究チームで協同して活動し，医療の質の向上と安全管理を確保する

ためのチームリーダーとしての役割を果たすことができる資質と能力を育てる。

13　歯学部　https://www.dent.nihon-u.ac.jp/about/policy/

日本大学教育憲章（以下,「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業の認定に関する方針に沿って基礎・専門的知識に基づく的確な医療技術と，常に最新の科学的情報を基にして問題を探求する能力を有する人間性豊かな歯科医師を養成することを目的とした教育課程を編成し実施する。卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成するために，初年次教育，教養教育，専門教育等の授業科目を人間科学，基礎科学，生命科学，口腔科学，総合科学に区分・設定して，各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を履修系統図に沿って各学年に編成し実施する。また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能および態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価と歯学系OSCE・CBT（大学間共用試験）により，各授業科目のシラバスに明示される学修到達目標の達成度について各学年で判定し,「憲章」に示される日本大学マインドおよび自主創造の８つの能力（汎用的能力）への到達度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目の修得状況や到達度をもとに段階的かつ総合的に判定する。

CP1　歯科医学と医療倫理の基礎的知識を修得し,社会人としての品格と医療人になるための自覚を養成する。

CP2　国内外の医療・保健・福祉の現状を理解し，基礎・臨床・社会医学の知識を基に，国際社会で活躍できる基本的能力を育成する。

CP3　幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に，論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を育成する。

CP4　歯科医学の基礎知識を体系的に修得し,臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。

CP5　研究で明らかとなる新たな知見と研究マインドをもとに,歯科医学の課題に挑戦する学生を育成する。

CP6　他者の意見を尊重し，明確な意思疎通のもと，円滑な人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を養成する。

CP7　歯科医師の責務を自覚して，責任あるリーダーシップを発揮し，患者を中心としたチーム医療における適切なコミュニケーション能力を養成する。

CP8　各学年における学修で得た歯科医学の知識，技術および省察力をもとに，歯科医師として生涯にわたり学習する姿勢を育成する。

14　松戸歯学部　https://www.mascat.nihon-u.ac.jp/info/purpose.html

松戸歯学部（学士（歯学））では，日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）を基に，学位授与の方針に沿って，教育課程の編成を実施する。憲章に基づく学位授与の方針における８つの能力（コンピテンシー）を養成するための初年次教育，教養教育，専門教育等について，一般教養，医療行動科学，基礎歯科医学，社会歯科医学，臨床歯科医学，総合医学の各領域で構成される科目を横断的かつ体系的に位置付けて、総合歯科医学領域と臨床実習領域でそれらを統合する教育課程を編成する。また，講義，演習，実験，実習の授業形態を適切に組み合わせた科目を開設し実施する。学修成果の評価については，各授業科目の専門的な知識・技能及び態度の能力の修得を適切に評価する多元的な評価方法により各授業科目のシラバスに明示される学修到達目標の達成度について判定し、憲章に沿った能力の修得については，卒業の達成を測るための授業科目等により総合的に行う。

＜自ら学ぶ＞

・豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

〔CP1〕一般教養，全学共通初年次教育および医療行動科学による体験実習や参加型学修を通じて，自然科学，人文社会科学への深い理解と医療人としての基礎と

なるプロフェッショナリズムを育成し、５年次から付属病院において参加・実践型の臨床実習を行い高い倫理観を醸成する。知識に関する評価は筆記（論述・客観）試験・口頭試験、態度を加えた評価はポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。

・世界の現状を理解し，説明する力

〔CP2〕外国語学科目や、海外研修や海外研究者との交流を通じて，国内外の歯科医療の現状を理解し，国際社会で活躍できる基本的能力を育成する。

知識に関する評価は筆記（論述・客観）・口頭試験、態度を加えた評価はレポート等を用いて評価する。

＜自ら考える＞

・論理的・批判的思考力

〔CP3〕基礎歯科医学や社会歯科医学を通じて論理的思考力を育み，自ら学ぶ学修態度によって臨床歯科医学に関する知識を修得する能力を育成する。５年次から付属病院で行う臨床実習で歯科医療に対する論理的・批判的思考力を養成する。知識に関する評価は筆記（論述・客観）試験・口頭試験、態度を加えた評価はポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。

・問題発見・解決力

〔CP4〕基礎歯科医学と臨床歯科医学が連携する授業科目を配置し，歯科治療の実践力の向上に必要な探究心と問題解決能力を育成する。５年次からの臨床実習では主体的に実践する自己主導型学修をサポートし、適切なフィードバックによって継続的に問題解決する能力を養成する。知識に関する評価は筆記（論述・客観）試験・口頭試験、態度を加えた評価はポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。

＜自ら道をひらく＞

・挑戦力

〔CP5〕臨床歯科医学と総合医学を通じて新しいことに挑戦する気持ちを育成する。さらに充実した診療参加型臨床実習を提供し、基本的な臨床技能を習得し、責任と役割を担い、新しいことに挑戦する能力を養成する。知識に関する評価は筆記（論述・客観）試験・口頭試験、態度を加えた評価はポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。

・コミュニケーション力

〔CP6〕医療行動科学を通じて，初年次体験実習、参加型学修（模擬患者を対象としたロールプレイ実習を含む）を行い、さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達する能力を育成する。さらに５年次からは、付属病院や在宅で患者や多職種との連携を実践する多様な臨床実習を行うことで、対人関係能力や医療人としての人格を備えた全人的な歯科医師を養成する。評価は、ポートフォリオ、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。

・リーダーシップ・協働力

〔CP7〕社会歯科医学と地域医療に関連する学科目の講義、および地域医療実習等を通じて，多職種医療・福祉従事者と協働する必要性を自覚し，社会に貢献する能力を育成する。評価は、ポートフォリオ、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。

・省察力

〔CP8〕初年次教育から臨床歯科医学および総合医学に至る学修を通じ、臨床実習を経て卒業に至るまで，常に振り返りを行いながら自己の向上を図る必要性を理解し，医療人として生涯にわたって学ぶ姿勢を育成する。評価は、ポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。

15　生物資源科学部　https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/educational_goal/

①学士（生物資源学）

「日本大学教育憲章」（以下，「憲章」）を基に，卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成する。この目的を達成するために，全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，専門教育科目等の授業科目を，設定された各能力別に体系化し，講義・演習・実験・実習等の多彩な学修方法による教育課程を編成して実施する。学修の成果は，シラバスに明示された到達目標の達成度について，授業形態や授業手法に適した多面的な方法により評価する。「憲章」に示される「日本大学マインド」および「自主創造」の３つの構成要素に関連した８つの能力に関しては，授業内容に対する到達度に加えて，学生自身による振り返り等も考慮して総合的に判定する。

【自ら学ぶ】

CP1　全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，各学科専門教育科目による体系的な学びを通じて，豊かな教養と生命･食料･資源･環境に関する幅広い知識と高い倫理観を培い，健康で快適な生活や生態系の維持など，自然環境の保全･修復に貢献できる能力を育成する。

CP2　全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，各学科専門教育科目による体系的な学びを通じて，日本や国際社会が直面している生命･食料･資源･環境に関するさまざまな問題を理解し，説明できる能力を育成する。

【自ら考える】

CP3　教養教育科目の自然系科目や各学科専門教育科目の講義科目等の体系的な学びを通じて，生物資源科学の各分野に関連するさまざまな情報を統合し，論理的・批判的に思考できる能力を育成する。

CP4　講義科目の内容に対応する実験･実習･演習科目を一体化させた特徴的なカリキュラムによる体系的な学び「総合的フィールドサイエンス教育」を通じて，日本や国際社会が直面している生命･食料･資源･環境に関するさまざまな問題を自ら発見し，解決策を提案するための能力を育成する。

【自ら道をひらく】

CP5　「総合的フィールドサイエンス教育」に立脚した学部教育の集大成である「卒業研究」を通じて，自らが設定した課題に果敢に挑戦し，調査･実験などの研究成果を社会に発信できる能力を育成する。

CP6　全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，各学科専門教育科目（語学系･演習系科目）の体系的な学びを通じて，語学力，国語力，自己表現力，コミュニケーション能力を育成する。

CP7　全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，各学科専門教育科目（実験･実習･演習科目におけるグループワーク）を通じて，生物資源科学に関連するさまざまな分野の人々と連携・協働する能力，専門知識を活用してリーダーシップを発揮し，連携･協働者の活躍を支援するための力を育成する。

CP8　全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，各学科専門教育科目による広範かつ主体的な学びにより，幅広い視野と深い洞察力を培い，地域社会，日本及び世界における生命・食料・資源･環境をめぐる人間活動の中での自己の立場や役割を認識し，自己を高めて生物資源科学に関わるさまざまな活動に貢献するための能力を育成する。

②学士（獣医学）

「日本大学教育憲章」（以下，「憲章」）を基に，卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成する。この目的を達成するために，全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，専門教育科目等の授業科目を，設定された各能力別に体系化し，講義・演習・実習等の多彩な学修方法による教育課程を編成して実施する。学修の成果は，シラバスに明示された到達目標の達成度について，授業形態や授業手法に適した多面的な方法により評価する。「憲章」に示される「日本大学マインド」および「自主創造」の３つの構成要素に関連した８

つの能力に関しては，授業内容に対する到達度に加えて，学生自身による振り返り等も考慮して総合的に判定する。

【自ら学ぶ】

CP1　全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，各種専門教育科目の体系的な学びを通じて，日本や国際社会が直面している獣医学や生命･食料･資源・環境に関するさまざまな問題を理解し，説明する能力を育成する。

CP2　獣医学を体系的に学修することにより，生命科学，獣医療ならびに公共獣医事に関する幅広い知識を有し，国際的な視点に立って指導できる人材を育成する。

【自ら考える】

CP3　卒業論文もしくは臨床研究を通じて，科学的根拠に基づいた論理的･批判的な思考能力を身に付けた人材を育成する。

CP4　専門教育科目の学修を通じて，自主的に問題や課題を発見し，その解決策を提案できる人材を育成する。

【自ら道をひらく】

CP5　６年間の学修を通じて，新たな問題や課題に対し諦めることなく果敢に挑戦し，その成果を社会に発信できる人材を育成する。

CP6　６年間の学修を通じて，自分の考えを正しく伝え，実行することができる人材を育成する。

CP7　６年間の学修を通じて，さまざまな分野の人々と連携･協働する能力，専門知識を活用してリーダーシップを発揮し，連携･協働者の活躍を支援する能力を有する人材を育成する。

CP8　６年間の学修を通じて，幅広い視野と深い洞察力を培い，自己の資質を高めるとともに，省察力や自己研鑽力を有する人材を育成する。

16　薬学部　https://www.pha.nihon-u.ac.jp/outline/policy/

日本大学薬学部では，日本大学教育憲章を基にした卒業認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー）に沿って教育課程を編成し実施する。卒業の認定に関する方針として示された８つの能力を養成するために，総合教育科目，薬学教育科目，特色教育科目等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。また，学修成果は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法及び評価基準を各授業科目のシラバスに明示し，学修到達目標の達成度を評価する。日本大学マインド及び自主創造の８つの能力に関しては，卒業の達成を図るための授業科目の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に評価する。

・早期臨床実習及び実務実習での学修を基盤とし，６年間を通して医療人としての高い知識・教養に基づいた倫理観及びその力を倫理的な課題に適切に適用する能力を育成する。（ＣＰ１）

・総合教育科目及び外国語科目の学修を基盤とし，世界情勢を理解する能力や自身の考え方を説明する能力を育成する。（ＣＰ２）

・総合教育科目及び薬学教育科目の学修を基盤とし，薬学教育モデル・コアカリキュラムに準じて得られた知識を基に，論理的・批判的な思考により，課題に対し，見解を示す能力を育成する。（ＣＰ３）

・実験・実習科目及び卒業研究の学修を基盤とし，問題を発見して解決策を提案し，他者と協働して問題を解決する能力を育成する。（ＣＰ４）

・薬学教育科目の学修を基盤とし，特色教育科目で先端の理論・技能にふれ，探究心及び挑戦力を育成する。（ＣＰ５）

・日本大学全学共通初年次教育科目及び薬学教育科目の学修を基盤としてコミュニケーション力及び他者を理解し信頼関係を確立する能力を育成する。（ＣＰ６）

・実務実習及び卒業研究を基盤とし，他者と協働する能力及び指導者として協働者の力を引き出し，その活躍を支援する能力を育成する。（ＣＰ７）
・実務実習及び卒業研究を基盤とし，自己の学びを振り返り，今後の学修に活かす能力を育成する。（ＣＰ８）

17　通信教育部　https://www.dld.nihon-u.ac.jp/education_info/

【法学部】

日本大学法学部は，法学部ディプロマ・ポリシーに適う人材を養成するため，総合教育科目，外国語科目，保健体育科目，法律学科及び政治経済学科の専門教育科目について，４年間を通じて，体系的なカリキュラムを編成し実施する。また，各科目における教育内容・方法，成績評価方法及び評価基準をシラバス等で明示し，学生に周知したうえで，実施する授業形態に即し，公正かつ厳正に評価を行う。

１　法学部法律学科

①豊かな教養・知識に基づく高い倫理観

（１）現代社会における法の役割を理解し，説明することができる。
（２）高い倫理観と優れた人格を備えて，適切かつ責任ある行動をとることができる。
（３）他人の人格を尊重し，常に敬意を払って接することができる。
（４）日本大学の学則に従って学生生活を過ごすことができる。

②日本及び世界の社会システムを理解し説明する力

（５）日本及び世界の法の仕組みを理解し的確に説明することができる。
（６）社会における法的問題を認識し，それにどのように取り組むべきかを述べることができる。

③論理的・批判的思考力

（７）法律学の基礎的知識を身につけ，新たな知見を生み出すことができる
（８）法律学の基礎的知識に基づいて，物事を論理的，合理的かつ批判的に考察することができる。

④問題発見・解決力

（９）社会における問題の解決にとって必要な情報を積極的に収集・分析し，それを解決策に役立てることができる。
（10）社会における法的問題を抽出し，専門的知識に基づく具体的な解決方法を示すことができる。
（11）法律学に関する体系的知識を修得し，法的観点に立って問題を解決することができる。

⑤挑戦力

（12）法律学の専門的知識を基に，自らが取り組むべき課題を探求することができる。
（13）専門的知識・能力を社会の様々な領域に応用することにより，社会に貢献することができる。

⑥コミュニケーション力

（14）コミュニケーション能力を高め，自らの考えを的確に伝えることができる。
（15）社会の中で積極的にコミュニケーションを図ることができる。
（16）他者とのコミュニケーションを通じて，多様な価値観を理解・尊重することができる。

⑦リーダーシップ・協働力

（17）リーダーとしての役割を理解し，社会の中でリーダーシップを発揮することができる。
（18）他者を尊重し，信頼関係を構築することにより，協働して問題解決に取り組むことができる。
（19）問題解決のために話し合いの場を設け，自主的に問題を解決することがで

る。
⑧省察力
（20）他者の意見を謙虚に受け入れ，自己の達成度を客観的に分析した上で，さらなる目標を定めて，それを達成するために積極的に取り組むことができる。
２　法学部政治経済学科
①豊かな教養・知識に基づく高い倫理観
（１）社会における政治と経済の役割を理解し，説明することができる。
（２）法律，社会道徳及び日本大学の学則に従って学生生活を過ごすことができる。
（３）高い倫理観に基づいて，政治・経済分野での自らの使命・役割を果たすことができる。
②日本及び世界の社会システムを理解し説明する力
（４）日本と世界の政治や経済の仕組みや現状を分析し，説明することができる。
（５）日本や世界が直面する政治的・経済的問題を的確に把握し，理解することができる。
③論理的・批判的思考力
（６）社会の政治現象や経済活動を客観的・批判的に観察し，その本質を把握することができる。
（７）政治と経済に関する学問的知識を基に，社会現象を科学的・論理的に分析することができる。
（８）政治と経済に関する新たな知見を生み出すことができる。
④問題発見・解決力
（９）政治活動や経済活動に積極的に参加することができる。
（10）社会の現状を観察し，政治や経済に関する問題を発見することができる。
（11）政治的・経済的問題に対する解決策を提案することができる。
⑤挑戦力
（12）社会の抱える政治的・経済的課題に継続的に取り組むことができる。
（13）よりよい社会の創造に向けて，政治的・経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。
⑥コミュニケーション力
（14）政治や経済に関する他者の意見を理解・尊重することができる。
（15）政治や経済に関する学問的知識を活用して，論理的にコミュニケーションを図ることができる。
（16）政治や経済に関する自らの考えを正確に伝えることができる
⑦リーダーシップ・協働力
（17）政治活動や経済活動に参加するにあたり，多様な考えをもつ人々と協力しあうことができる。
（18）社会において，政治や経済に関する学問的知識を応用して，リーダーシップを発揮するとともに，協働者を支えることができる。
⑧省察力
（19）政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。
（20）自らの政治活動や経済活動への参加状況や貢献度合いを振り返り，客観的に評価することができる。
（21）生涯にわたり社会に貢献できるよう，日頃から政治や経済の新しい知識の獲得に励むことができる。
【文理学部】
文理学部では，卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる教養と知識・技能を修得させ，総合的実践力を獲得させるために，総合教育科目，外国

語科目，専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し，講義，演習，実習等を適切に組み合わせた授業を展開する。カリキュラムの体系性と学修の順序性を明確にするために，科目配置の目的や科目間の関連を説明する履修系統図を明示する。教育の内容と教育の方法については以下の①から⑧のように，評価の方法については⑨と⑩のように定める。なお，各授業科目の学修方法，学修過程，学修成果の評価の方法，評価基準をシラバスに明示し，学生に周知する。学修成果の評価に関しては，実施する授業形態に即し，適正かつ厳格な方法で実施する。

①総合教育科目（保健体育科目を含む）を通して，心身の健康，大学生活への適応，学修スキルの修得，卒業後のキャリアを見据えた４年間の学びの目標設定と計画策定を行うとともに，社会人としての基礎力の獲得に向け，４年間にわたってその計画を必要に応じて自主的に修正しながら着実に実行に移していく。

②総合教育科目（各学問の基礎教育科目）を通して，伝統的な諸学問を，領域を超えて学修するとともに，総合科目を通して，既存の学問の枠組にとらわれない主体的，創造的な学びを行う。

③個々の科目ではアクティブ・ラーニング等の方法によって，それらの諸問題を自らの現実と関連づけて理解し，その解決を志向する。

④外国語教育科目では，英語，中国語，ドイツ語，フランス語，日本語（外国人対象）の５つの異なる言語のなかから１つを選択し，基礎的なコミュニケーション能力，表現力や読解力を修得することを通して，自分とは異なる多様な人々や文化や社会と対面するなかで，自己を相対化し，他者をそれ自身として認識し理解する。

⑤人文系・社会系・理学系にまたがる総合教育科目群から，すべての系の科目をバランスよく履修することを通して，自然，人間，社会のそれぞれの複雑性だけでなく，それらの関連を，学術的，科学的に認識し，個々の領域の問題だけでなく領域間の相互作用によって生じる問題をも発見する。

⑥一部の総合教育科目や多くの専門教育科目において，問題発見・解決型学習（PBL），グループワーク，集団討議，反転授業等のアクティブ・ラーニングを導入した講義や演習や実習等を履修する。それによって，主体的に問題を発見し，その問題に学術的に取り組み，その解決に向けて，創造的なコミュニケーションを通して他者と協力していく。

⑦外国語科目では，インタラクティブな授業や海外交流を，総合教育科目では，日本研究・国際研究科目を履修することを通して，国際的なコミュニケーションと協働性を学ぶ。

⑧文理学部の４専攻のみならず，法学部・経済学部・商学部の基礎的な入門科目群から高度な発展科目群にいたる専門科目群を，適切に組み合わせて，各学問の体系性に応じた履修単位数制限や進級要件のなかで横断的に履修していく。それによって，２１世紀の国際社会のなかで直面する現実の諸問題の発見からその整理，解決に向けて教養的知識，専門的知識・技能を総合的，学術的に活用し，卒業研究や卒業論文研究に結実させる。

⑨卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って履修系統図に示したカリキュラムの目的を達成するために，各科目に設定された到達目標の達成の程度を，シラバスに記載された方法を用いて成績評価を行う。成績評価は，テストによるもののほか，レポートやプレゼンテーションや実技や授業参画度によるものなど，また，それらを組み合わせて，各科目の内容や方法に合わせて複合的，多元的に行う。

⑩学生が履修した各科目の成績評価を集計することによって，教育成果を分析し，改善していく。

１　文学専攻（国文学）

以下の方針でカリキュラムを編成する。

①専門基礎科目
日本語・日本文学の専門教育への導入としての入門科目，演習科目を置き，基礎的知識と，学修の基本方法と技術を実践的に学ぶ。
②専門教育科目
日本語・日本文学・書学の専門的で幅広い知識を深めるための多様な講義科目と，主体的学修を追求するための演習を置き，卒業論文の執筆で学びの集大成を目指す。
③教職コース科目
国語科教員をめざす学生のために，きめ細かい教科専門科目を置き，専門知識に富み，教育現場での実践力も身に付けた意欲的な教員を育成する。

２　文学専攻（英文学）

英文学科のディプロマ・ポリシーを達成するために，１年次から４年次にかけて段階的に講義と演習の専門科目群を設置する。

１年次　基礎的な学修方法，英語の読解力，英語によるコミュニケーション能力等を養うとともに，英米文学および英語学の基礎的な知識を学ぶ。

２年次　より高度な英語によるコミュニケーション能力を養うとともに，英米文学および英語学の基礎的な研究方法を学ぶ。

３年次　最も高度な英語によるコミュニケーション能力を養うとともに，英米文学および英語学の専門的な知識と研究方法を学ぶ。さらに，演習科目で４年次の卒業論文の準備を始める。

４年次　英米文学ないし英語学の最も高度かつ専門的な知識と研究方法を学ぶ。さらに，大学４年間の集大成として卒業論文をまとめる。

３　哲学専攻

卒業認定・学位授与の方針に掲げる目標を達成するために，哲学専攻は，哲学・倫理学・宗教学の３分野の下で，学生が各々の関心に応じて効果的に学びを進めることができるカリキュラムを編成する。履修系統図は，１年生から４年生までの学びの進め方を示している。

４　史学専攻

本専攻のディプロマ・ポリシーが求める能力を無理なく，段階的・体系的に身につけるために，１年次には入門・概説科目を通じて歴史学の基本を学び，自らの専攻分野を決める。専攻分野が決定する２年次以降は，基礎理論となる史学概論や，より高度な内容を持った特講科目を履修して，専門性を高める。３年次以降は特講科目を継続して学修するとともに，卒業論文執筆に向けた演習の受講を開始する。４年次は３年次を継承し，史学専攻での学修成果を卒業論文としてまとめる。

【経済学部】

１　経済学部経済学科

幅広い知識の獲得のために，教養関係科目を，そして経済学的思考の基礎を固めるために経済学概論、経済原論，経済史総論を，全学生に共通して設置する。総合教育科目及び専門科目について，それぞれ各科目の配当年次を明示して，段階的な学修を奨励する。専門的な知識を体系的に学ぶために，２年次から選択科目を履修する。また，十分な予習・復習時間の確保と，授業内容の確実な理解が可能となるように，履修単位数のキャップ制を設ける。なお，各授業科目の学修方法，学修過程，学修成果の評価の方法，評価基準をシラバスに明示し，学生に周知する。学修成果の評価に関しては，実施する授業形態に即し，適正かつ厳格な方法で実施する。

①地域社会や日本を含む多様で複雑な世界を理解する力

（１）導入教育によって，大学における学びの基礎を作った上で，経済学概論，経済原論，経済史総論により，経済学的思考の基礎を固め，問題の本質を把握する訓練を行う。

（２）総合教育科目及び専門科目について，それぞれ各科目の配当年次を明示して，段階的な学修を奨励する。専門的な知識を体系的に学ぶために，２年次から選択

科目を履修する。
（３）英語等外国語の４技能（読む・聞く・書く・話す力）の習得を系統的に図り，グローバル時代のコミュニケーション能力を涵養する。さらに海外交流スクーリング等による国際交流を通じて，実際の経験を通じた多様性への理解を高める。
②冷静に問題のメカニズムを読み解き，それを解決する力
③他者への温かい共感の下で，問題を発見しそれに挑戦する力
（４）経済理論，各種応用経済学系科目によって，経済活動の仕組みや市場の役割を理解し，経済政策や制度の当否を判断できる力を涵養する。
（５）他学部配当科目の横断的な科目体系によって，経営・財務・企画・営業などの，実務において求められる能力を向上させるとともに，社会に貢献する職業人としての基礎を育む。
（６）設置された福祉労働系，都市環境系科目によって，様々な立場におかれている人びとへの共感の下に，多様な経済社会問題を発見する力，それに挑戦する力を育む。
④他者の声を聞き，自分の考えを表現し，発信する力
（７）日本語を含む系統的な語学系科目の配置により，グローバルな環境下でも，自分の考えを伝え，対話によってより良い解決策を見出す能力を育む。
⑤自らの役割を認識し，他者とともに問題を解決する力
（８）導入教育において，問題発見・解決型学習，グループワーク，集団討論などのアクティブ・ラーニングを導入した学修を行う。
（９）リーダーシップや問題解決能力の向上を目指した教育を行う。
（10）スクーリングにより，学生同士の協働による学修を促進する。
（11）各科目に設置された到達目標の達成の程度を，シラバスに記載された方法を用いて評価する。成績評価は，テストによるもののほか，レポート，プレゼンテーション，授業参画度によるものや，それらを組み合わせた方法により多面的に行う。
（12）学生の成績を，各科目の系統ごとに集計し分析することで，科目系統ごとの教育効果を分析し，教育体系の評価，改善を行う。

【商学部】

１　商学部商業学科

ビジネス社会で活躍できる実践的な人材，企業経営から NPO まで産業構造の変化に対応して経営する力を発揮できる人材，経営活動の動きを計数的側面から捉える高い能力を持つ人材の養成を目指す。総合教育科目では，自ら考え，自ら学び，自ら道を開く自主創造力の養成し，日本大学学生としての基礎を学ぶ。商業学科では，グローバル社会に対応できる戦略的で多様なマーケティング，長期的かつ史的観点に基づく貿易，金融，ファイナンス及び保険などの専門科目を学修する。また，企業組織に代表される様々な組織の形態・行動及び，それらの創設，運営，評価及び歴史に関する専門科目を学修する。さらに，会計学の理論と実践に関する専門科目を学修する。学生は，各年次に配当された科目を段階的に学び，専門性を高めて学修する。加えて関連する他学部の専門領域についても学修し，より広い知識を習得することが可能である。英語教育については，習熟度に応じて無理のない学修が可能である。外部の検定試験の単位認定制度により，英語能力を向上させることができる。多岐に渡るテーマを研究する卒業論文指導や，アクティブ・ラーニングを用いた少人数で実施される科目では，問題提起や対応・解決について学修し，自らの考えを伝え，対話によって，より良い解決策を見出す能力を育む。各授業科目の学修方法，学修過程，学修成果の評価の方法，評価基準は，シラバスに明示して，周知する。学修成果の評価に関しては，実施する授業形態に即し，適正かつ厳格な方法で実施する。テストによるもののほか，レポート，プレゼンテーション及び授業参画度等によるものや，それらを組み合わせた方法により多面的に行う。これらは，

シラバスに記載されており，どのように学修計画を立てるべきか自分で判断することが必要となる。また，十分な予習・復習時間の確保と，授業内容の確実な理解が可能となるよう，履修単位数のキャップ制を設けている。学生と教員の授業外のコミュニケーションとして，「オフィスアワー」の時間帯を設けている。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：インターネットによる公表）

（概要）

1　法学部　https://www.law.nihon-u.ac.jp/educational_info/law.html

日本大学法学部は，高等学校などの教育課程において，十分な学力と知識及び判断力を身につけ，本学部で，法律学・政治学・行政学・経済学・経営学・新聞学などの専門的な学びを通じて，リーガルマインドの修得を目指し，自ら学び，自ら考え，自ら道をひらくという「自主創造」を実践できる入学者を求める。

2　文理学部　https://chs.nihon-u.ac.jp/admission/admission-policy/

日本大学は，「自主創造」の気風をやしない，文化の進展をはかり，世界の平和と人類の福祉に寄与する人材の育成を目的としている。この理念のもと，文理学部は，人文系・社会系・理学系にわたる各学科において専門知の基礎を学ぶとともに，「文」と「理」を架橋した深い教養とそれらを複合的に生かす実践力を身につけ，現代社会に貢献する人材の育成を目指している。こうした本学部の目的をよく理解し，自己と社会を変え，世界的な課題の解決に取り組む，強い意欲と情熱のある学生を望んでいる。このような条件に合致する学生を受け入れるために多様な選抜方法を実施しているが，その前提として入学者には次のことを求める。

1　旺盛な知的好奇心を持ち，既存の考えに縛られない創造性がある。
2　多様な文化や社会に対して強い関心を抱き，違いを乗り越えていく積極性がある。
3　自然や人間・社会の複雑な働きについて考察し，問いを発することができる。
4　問題の解決に向けて，社会や世界に実践的に働きかけていく意欲がある。
5　日本語を中心とする基礎的なコミュニケーション能力を持っている。

（哲学科）

哲学科は，思想全般にわたる知識と論理的思考能力と対話力に基づいて，現代社会の諸問題に果敢に取り組む人材の養成を目指している。この理念のもと，哲学科は，「真・善・美・聖」という基本価値に関心を持ち，現代社会の文化と思想の向上を目指す，意欲的な学生を望んでいる。このような学生を受け入れるために，哲学科は多様な選抜方法を実施しているが，その前提として入学者には次のことを求める。

1　高等学校で履修する国語，地理歴史，公民，数学，外国語など　について，その基礎的な内容を十分に理解して，高等学校卒業相当の知識を身に付けている。
2　西洋・東洋の思想に旺盛な好奇心を抱き，それを積極的に学んで現代社会に活かそうという意欲がある。
3　他者との対話を通して，自らの考えを吟味し，深めようという態度を有している。

（史学科）

文理学部のアドミッション・ポリシーのもと，歴史の知識・教養，歴史的視点・思考法を身に付け，より正確な歴史像の把握に努め，それらを積極的に活かして現代社会の諸問題の考察と解決に寄与しようとする学生を迎え入れる。

（国文学科）

文理学部のアドミッション・ポリシーのもと，日本語・日本文学に深い関心を持ち，体系的で専門的な知識の習得に自主的に取り組み，思考力，文章力，表現力を伸ばし，創造性とコミュニケーション能力を発揮して，社会に貢献しようという学

生を迎え入れる。
（中国語中国文化学科）
文理学部のアドミッション・ポリシーのもと，古代から現代にいたる中国の社会や文化に関する知識を身に付け，中国語を習得して，国際理解・国際交流に貢献しようとする学生を受け入れる。このような条件に合致する学生を受け入れるために多様な選抜方法を実施しているが，その前提として入学者には次のことを求める。
１　旺盛な知的好奇心を持ち，既存の考えに縛られない創造性がある。
２　中国語圏をはじめとする世界の多様な文化や社会に対して強い関心を抱き，異文化を理解しようとする積極性がある。
３　自然や人間・社会の複雑な働きについて考察し，問いを発することができる。
４　問題の解決に向けて，社会や世界に実践的に働きかけていく意欲がある。
５　日本語を中心とする基礎的なコミュニケーション能力を持っている。
（英文学科）
英文学科のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを達成するために，入学時に基礎的な英語の文法的知識・読解力・コミュニケーション能力等を有しているとともに，入学後は論理的・批判的思考能力と問題発見・解決力の獲得・定着に取り組みながら，高度な英語運用能力を身に付け，英語圏文学及び英語学の専門知識に裏打ちされた多様な価値観や豊かな教養を備えることによって，国内外の各分野で活躍しようという学生を迎え入れる。
（ドイツ文学科）
日本大学は，「自主創造」の気風をやしない，文化の進展をはかり，世界の平和と人類の福祉に寄与する人材の養成を目的としている。この理念のもと，文理学部は，人文系・社会系・理学系にわたる各学科において専門知の基礎を学ぶとともに，「文」と「理」を架橋した深い教養とそれらを複合的に活かす実践力を身に付け，現代社会に貢献する人材の養成を目指している。こうした本学部の目的をよく理解し，自己と社会を変え，世界的な課題の解決に取り組む，強い意欲と情熱のある学生を望んでいる。このような条件に合致する学生を受け入れるために多様な選抜方法を実施しているが，その前提として入学者には次のことを求める。
１　旺盛な知的好奇心を持ち，既存の考えに縛られない創造性がある。
２　ドイツ語圏の文学・語学・文化に関心を抱き，高度なドイツ語能力を身に付けた上で，ドイツ語圏文化の諸相を広く深く学ぶことを目指す学生。
３　様々な文化における人間・社会の複雑な働きについて考察し，問いを発することができる。
４　問題の解決に向けて，社会や世界に実践的に働きかけていく意欲がある。
５　日本語とドイツ語を中心とする基礎的なコミュニケーション能力を持っている。
（社会学科）
文理学部のアドミッション・ポリシーのもと，社会学の理論と方法を深く学び身に付け，現実社会を調査・分析し考察する力を高めることで，他者と協力しながら錯綜する現代社会の諸課題の解決に寄与し，自由でしなやかな社会の構想をリードしようとする，意欲ある学生を迎え入れる。また，受験生は，地歴公民（特に現代史や時事問題），数学（統計学に関わる分野），国語（論証）に関する能力を高めておくことが望ましい。
（社会福祉学科）
１　大学において専門的に学ぶために，高等学校までの各教科の基礎が身に付いている人物を求める。
２　様々な社会問題や格差に対する鋭い問題意識，人権意識を持ち，よりよい社会のありようを探求する意欲を持つ人物を求める。
３　社会福祉問題に強い関心があり，福祉社会をめぐる様々な課題を他者と協力し

て解決しようとする意欲や主体性がある人物を求める。
４　クラブ活動やボランティア活動に積極的に取り組み，他者とコミュニケーションをとり，協調的・建設的に共同作業に取り組もうとする人物を求める。
（教育学科）
日本大学は，「自主創造」の気風をやしない，文化の進展をはかり，世界の平和と人類の福祉に寄与する人材の養成を目的としている。この理念のもと，文理学部は，人文系・社会系・理学系にわたる各学科において専門知の基礎を学ぶとともに，「文」と「理」を架橋した深い教養とそれらを複合的に活かす実践力を身に付け，現代社会に貢献する人材の養成を目指している。こうした本学部の目的をよく理解し，自己と社会を変え，世界的な課題の解決に取り組む，強い意欲と情熱のある学生を望んでいる。このような条件に合致する学生を受け入れるために多様な選抜方法を実施しているが，その前提として入学者には次のことを求める。
１　旺盛な知的好奇心を持ち，既存の考えに縛られない創造性がある。
２　多様な文化や社会に対して強い関心を抱き，違いを乗り越えていく積極性がある。
３　自然や人間・社会の複雑な働きについて考察し，問いを発することができる。
４　問題の解決に向けて，社会や世界に実践的に働きかけていく意欲がある。
５　日本語を中心とする基礎的なコミュニケーション能力を持っている。
（体育学科）
体育・スポーツと健康に対する強い関心と基礎的な知識・技能を兼ね備え，在学中にスポーツ活動を課外活動として行い，本学科で学修した高度な科学的知識及び実践知を活かして，体育・スポーツと健康に関わる専門職（特に中学校・高等学校の保健体育教員あるいは小学校の教員※）に就く意思が明確な者を求めている。
１　学校教員：保健体育・スポーツ教育
２　社会体育・スポーツ指導者：ジュニア選手の発掘・育成，地域　スポーツ
３　エリートスポーツ選手の指導者：競技力向上を目指した優れた選手の育成・強化
４　健康スポーツ指導者：一般成人・高齢者に対する健康スポーツの普及
※小学校教職課程については，本学部の協定校において所定の単位の修得が必要。
（心理学科）
日本大学は，「自主創造」をやしない，文化の進展をはかり，世界の平和と人類の福祉に寄与する人材の養成を目的としている。この理念のもと，文理学部は，人文系・社会系・理学系にわたる各学科において専門知の基礎を学ぶとともに，「文」と「理」を架橋した深い教養とそれらを複合的に活かす実践力を身に付け，現代社会に貢献する人材の養成を目指している。こうした本学部の目的をよく理解し，自己と社会を変え，世界的な課題の解決に取り組む，強い意欲と情熱のある学生を望んでいる。心理学科においては，日本大学及び文理学部の方針を受け，さらに心理学科で勉学を受けるにふさわしい学生を受け入れるために多様な選抜方法を実施しているが，その前提として入学者には次のことを求める。
１　幅広く豊かな知識と教養を身に付ける知的好奇心がある。
２　現代社会が直面している多様な問題に関心がある。
３　得られる情報を客観的に理解し，論理的に考えることができる。
４　問題を注意深く観察し，解決しようとする意欲がある。
５　あきらめない気持ちで，課題に果敢に挑戦することができる。
６　他者と議論できるコミュニケーション能力がある。
７　集団の中で他者と協力することができる。
８　謙虚に自己を振り返り，自己の資質を高めようとする意欲がある。
（地理学科）
文理学部のアドミッション・ポリシーのもと，世界や日本の地域的な諸課題の解

決と，地域社会の持続的発展に貢献することを目指す意欲的な学生を迎え入れる。前提として次のことを求める。

１　フィールドワークに関心を持ち，現象を地理的空間に展開しようと発想することができる。

２　世界や日本の地域的な諸問題について筋道を立てて考えるとともに，人々と議論し，協働して学んで得られた結果を説明する能力を身に付けていること。

３　自然と人間・社会との関係に興味を抱き関連性を説明できる。

４　地域社会の持続的発展に寄与し貢献する目的意識と意欲があること。

５　高等学校の教育課程で修得した自然地理，人文地理や地理情報の知識・技能を身に付けている。また，地図や統計などの地理空間情報を GIS で表示する能力を身に付けている。

(地球科学科)

気象学，水圏科学，地球化学，地質学，火山学，地球物理学などの地球科学的な知識と技術に基づき，自然災害問題や地球環境問題の具体的な課題に対処できる基礎的能力を持った人材や，幅広い地球科学的教養を身に付け社会の様々な領域で活躍できる人材を養成するため，地球に強い関心を持ち，勉学への意欲を持って科学的な基礎知識を身に付け，その知識を応用できる資質を持った学生を受け入れる。

(数学科)

日本大学は,「自主創造」の気風をやしない，文化の進展をはかり，世界の平和と人類の福祉に寄与する人材の養成を目的としている。この理念のもと，文理学部は,人文系・社会系・理学系にわたる各学科において専門知の基礎を学ぶとともに,「文」と「理」を架橋した深い教養とそれらを複合的に活かす実践力を身に付け，現代社会に貢献する人材の養成を目指している。こうした本学部の目的をよく理解し，自己と社会を変え，世界的な課題の解決に取り組む，強い意欲と情熱のある学生を望んでいる。数学科では，日本大学の理念と文理学部の目指している人材養成の目的のもと，ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて，次のようにアドミッション・ポリシーを定める。

１　旺盛な知的好奇心を持ち，既存の考えに縛られない創造性がある。

２　多様な文化や社会に対して強い関心を抱き，違いを乗り越えていく積極性がある。

３　自然や人間・社会の複雑な働きについて考察し，問いを発することができる。

４　問題の解決に向けて，社会や世界に実践的に働きかけていく意欲がある。

５　日本語を中心とする基礎的なコミュニケーション能力を持っている。

６　抽象数学の学習から論理力を，応用数学の学習から社会に役立つ数学の運用力をそれぞれ習得し，それらの知識・技能を活かして人類と社会に幅広く貢献しようという志を持っている。

(情報科学科)

文理学部のアドミッション・ポリシーのもと，情報科学に対する強い関心を抱き，情報科学及び情報技術の基礎をプログラミングや数理を含む多様な面から習得し，情報社会の発展に寄与することに強い意欲と情熱のある学生を望んでいる。このような条件に合致する学生を受け入れるために多様な選抜方法を実施しているが，その前提として入学者には次のことを求める。

１　情報技術やそれを支える数理に対して強い関心を持ち，既存の考えに縛られない創造性がある。

２　新しい技術に対して関心を持ち，情報技術の変化に敏感に反応しようとする積極性がある。

３　情報技術が社会に与える影響について考察し，問いを発することができる。

４　問題の解決に向けて，社会に対し情報技術を用いて実践的に働きかけていく意欲がある。

５　情報技術と数理を学ぶために必要とされる基礎的な学力を持っている。

（物理学科）

物理学科では，文理学部のアドミッション・ポリシーのもと，現代の先端科学技術の発展に寄与できる基礎的な学力と専門的な知識を習得し，未来の科学技術及び産業界の発展に貢献しようとする学生を望んでいる。このような条件に合致する学生を受け入れるために多様な選抜方法を実施しているが，その前提として入学者には次のことを求める。

１　旺盛な知的好奇心を持ち，既存の考えに縛られない創造性がある。

２　多様な文化や社会に対して強い関心を抱き，違いを乗り越えていく積極性がある。

３　自然や人間・社会の複雑な働きについて考察し，問いを発することができる。

４　問題の解決に向けて，社会や世界に実践的に働きかけていく意欲がある。

５　日本語を中心とする基礎的なコミュニケーション能力を持っている。

（生命科学科）

文理学部のアドミッション・ポリシーのもと，生命科学の専門的知識や技術を習得するとともに，めざましく発展しつつある現代の先端技術に対処するために，それらを活かして社会に幅広く貢献しようという意欲を燃やす学生を迎えいれる。高等学校等で得られた基礎的な知的能力を学力試験により評価して入学者を選抜するだけでなく，高等学校での成績，学習意欲や適性等を多面的・総合的に評価する選抜を行い，国内外から幅広く迎える。

（化学科）

化学は，合成繊維，プラスチック，医薬品，半導体など，現代社会に欠かすことの出来ない様々な物質を創りだす，夢の多い学問である。また，資源やエネルギー源の枯渇，食料不足，人口問題， 環境汚染など，今後人類が直面する諸問題の解決には，化学が大きな役割を果たすと期待されている。化学に対するこのような期待に応えるために，化学科では広い視野に立って将来の化学及び科学技術の発展に貢献できる人材の養成に努めている。そこで，化学科では文理学部のアドミッション・ポリシーに加えて，以下に示す項目に対して１ つ以上該当する学生を国内外から幅広く迎える。

１　化学に強い関心があり，より深く学びたいという意欲を持つ人

２　化学実験が好きで，未知の事象に対する旺盛な好奇心を持つ人

３　化学に関する知識と技術を習得し，様々な分野での活躍を目指す人

４　教育に熱意を持ち，将来，中・高等学校の理科教員になりたいと考えている人

３　経済学部　https://www.eco.nihon-u.ac.jp/education/

日本大学の基本理念である「自主創造」の精神にもとづき，経済学・経営学・会計学の修得を通じて，経済的諸現象に関する幅広い知識と教養を身につけ，広く国際社会で活躍できる人材の育成を目指している。このような本学部の教育方針を理解し，現代の経済社会が直面する課題の解決に向け，他者と協力しながら，強い意欲を持って主体的に学修を継続できる学生を求めている。

４　商学部

https://www.bus.nihon-u.ac.jp/education-information/

日本大学の教育理念である「自主創造」の精神に基づき，商学・経営学・会計学の修得を通じて，実学としてのビジネスに関する幅広い知識と教養を身に付け，社会環境の変化に対応できる人材の育成を目指している。　商学部の教育方針を理解し，日本のみならず世界のビジネス環境が直面する諸問題の解決に向け，誰とでも協働しながら，学修を自主的に継続できる生徒を求めている。　そのために，多様な選抜方法によって，次のような知識，能力，意欲及び態度を有する者を受け入れる。

①日本を含む世界中の多様で複雑な商取引に関するルールやその背景を理解するために必要となる基礎知識を身に付けている者

②科学的及び論理的な思考と，客観的な根拠及び事象に基づいて導き出した結論を表現する力を身に付けている者
③あらゆるビジネスの諸問題に対して，旺盛な知的好奇心を持ち，その解決を目指す強い意欲を身に付けている者
④様々なコミュニケーションにより，相手の考えを理解した上で，自らの考えを文章や言葉で表現し，伝えるための基礎的な能力を身に付けている者
⑤誰とでも協働して取り組むことができる協調性及び自主性を身に付けている者。

5　芸術学部　http://www.art.nihon-u.ac.jp/about/policy/education/
http://www.art.nihon-u.ac.jp/admission/recruitment/request/

本学の教育理念である「自主創造」のもと，自ら学び，自ら考え，自ら道をひらく能力を持った人材を育成する。そのため，８つの芸術分野それぞれを強く志す人，創造性が豊かでコミュニケーション能力に富み，芸術全般にわたり強い関心を持つ人，自らが芸術家，クリエイターになることを真剣に考えている人を求める。選抜方法として，学部実施の入学者選抜においては，各学科の特性に基づき，小論文，作文や実技等による専門試験及び面接試験を実施して，受験生の適性や創造性を個別的かつ直接的に審査するよう心掛けている。

6　国際関係学部　https://www.ir.nihon-u.ac.jp/guide/info-ed/

日本大学の理念「自主創造」のもと，広く知識を世界にもとめる人材の育成を目的とする。本学部の目指す教育は，自らの価値を高め世界で活躍できるように，知りたいという好奇心，学びたいという探究心に応える。そこで得た問題解決能力及びコミュニケーション能力は，複雑化する国際社会において，文化の違いや利害関係を乗り越え，様々な人や組織の協働を促す。世界の多様な民族，言語，宗教，文化，社会，環境などをグローバルな視点で学びたい人を広く求める。将来，国際社会の様々な分野で活躍するために，海外留学経験や外国語運用能力，集団におけるリーダーシップやコミュニケーション能力の実践，スポーツ・文化活動の成果等，多彩な個性を持つ意欲の高い者を広く求める。

（入学前に修得しておくことが望まれる学業内容）

高等学校教育課程全般の内容はもとより，特に世界及び日本の地理・近現代史の学業内容から異文化への興味を高め，理解を深めていることが望ましい。

7　危機管理学部

https://www.nihon-u.ac.jp/risk_management/about/policy/#content3

日本大学危機管理学部（学士（危機管理学））は、本学の教育理念である「自主創造」、本学部の教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）に合致する、下記のような資質豊かな人材を求める。

危機管理に不可欠な資質として，複雑な現代社会の危機に向き合いながら，その解決方法を追究する真摯な姿勢と志を持ち，高等学校とそれに準ずる教育課程において，危機管理学の探究に必要な基礎学力，柔軟な発想と幅広い視野を身に付けている人材。

上記の人材を，①意欲・経験・適性，②知識・技能，③思考力・判断力・表現力，④主体性・計画性・協働性について評価する，多様な入学者選抜試験によって受け入れる。

①　意欲・経験・適性
知識と経験とを発展させて、意欲的に課題に向き合うことができる。

②　知識・技能
知識や技能を駆使して、課題を探求することができる。

③　思考力・判断力・表現力
課題に対して幅広い視野でその原因と対処法を考察し、そのプロセスを適切に表現することができる。

④　主体性・計画性・協働性
　主体的かつ計画的に、他者と協働しつつ、課題解決に取り組むことができる。

【入学者選抜の基本方針】

　日本大学危機管理学部（学士（危機管理学））は、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に従い，本学の教育理念に合致する人材を受け入れるために，①「意欲・経験・適性」，②「知識・技能」，③「思考力・判断力・表現力」，④「主体性・計画性・協働性」の評価要素について，一般選抜，総合型選抜，学校推薦型選抜，校友子女選抜，編入学試験，及び転部試験の各区分に応じ，個別学力検査，総合問題試験，面接・口頭試問，プレゼンテーション，グループディスカッション，志望理由書，課題レポート，出身高等学校等調査書を含む書類審査，その他の評価方法を組み合わせ，多様な入学者選抜を実施する。

　各評価要素の内容は、以下のとおりとする。

①　「意欲・経験・適性」

－１　意欲とは、学修への内発的動機づけをいう。

－２　経験とは、学修への内発的動機付けに連なる、没入体験や体験活動をいう。

－３　適性とは、学修への内発的動機付けに繋がる、自己客観視や省察を伴って特定された、将来のビジョンをいう。

②　「知識・技能」

－１　知識とは、国語・英語・数学・地理歴史・公民など、高等学校とそれに準ずる教育課程において学修した基礎的学力のうち，主として情報や認識の運用力をいう。

－２　技能とは、国語・英語・数学・地理歴史・公民など、高等学校とそれに準ずる教育課程において学修した基礎的学力のうち,主として作業の実行力をいう。

③　「思考力・判断力・表現力（コミュニケーション力を含む）」

－１　思考力とは、物事を論理的、戦略的又は批判的に考え抜く能力をいう。

－２　判断力とは、物事を正しく認識し、評価する能力をいう。

－３　表現力とは、知識や情報を状況や場面に即して適切に伝達する能力をいい、互いに意思疎通を円滑に繰り返すコミュニケーション力を含む。

④　「主体性・計画性・協働性」

－１　主体性とは、課題と向かい合い、その解決のために主体的に考え、行動しようとする姿勢をいう。

－２　計画性とは、学修やキャリア形成を、継続的、計画的に実行しようとする姿勢をいう。

－３　協働性とは、他者との協力において課題を解決し、または自己を高めようとする姿勢をいう。

各評価要素の入学者選抜との対応関係は、以下のとおりとする。

〔一般選抜〕（Ａ個別方式，Ｎ全学統一方式第一期及び第二期）

　一般選抜では，以下の指標をもとに，②「知識・技能」を重視しつつ，③「思考力・判断力・表現力」を加えて総合的に評価する。

　個別学力検査　②－１，２；③－１，２

〔総合型選抜〕

　総合型選抜では，以下の指標をもとに，①「意欲・経験・適性」及び③「思考力・判断力・表現力」を重視しつつ，②「知識・技能」，④「主体性・計画性・協働性」と合わせて総合的に評価する。

書類審査　①－１，２，３；④－１，２，３
課題レポート　②－１，２；③－１，２，３
総合問題試験　②－１，２；③－１，２，３
グループディスカッション　①－１，２，３；③－１，２，３；④－１，２，３
面接・口頭試問　①－１，２，３；②－１，２；③－１，２，３；④－１，２，３

〔学校推薦型選抜〕（付属基礎学力）
学校推薦型選抜（付属基礎学力選抜）では，以下の指標をもとに，②「知識・技能」を重視しつつ，①「意欲・経験・適性」を加えて総合的に評価する。
基礎学力到達度テスト　②－１，２
書類審査　①－１，２，３；②－１，２
〔学校推薦型選抜〕（付属特別選抜）
学校推薦型選抜（付属特別選抜）では，以下の指標をもとに，①「意欲・経験・適性」を重視しつつ，②「知識・技能」，③「思考力・判断力・表現力」，④「主体性・計画性・協働性」と合わせて総合的に評価する。
書類審査　①－１，２，３；②－１，２
小論文　②－１，２；③－１，２，３
面接・口頭試問　①－１，２，３；②－１，２；③－１，２，３；④－１，２，３
〔学校推薦型選抜〕（提携校）
学校推薦型選抜（提携校）では，以下の指標をもとに，①「意欲・経験・適性」を重視しつつ，②「知識・技能」，③「思考力・判断力・表現力」，④「主体性・計画性・協働性」と合わせて総合的に評価する。
書類審査　①－１，２，３；②－１，２
小論文　②－１，２；③－１，２，３
面接・口頭試問　①－１，２，３；②－１，２；③－１，２，３；④－１，２，３
〔学校推薦型選抜〕（日本大学競技部）
学校推薦型選抜（日本大学競技部）では，以下の指標をもとに，①「意欲・経験・適性」及び④「主体性・計画性・協働性」を重視しつつ，②「知識・技能」，③「思考力・判断力・表現力」と合わせて総合的に評価する。
書類審査　①－１，２，３；②－１，２
面接・口頭試問　①－１，２，３；②－１，２；③－１，２，３；④－１，２，３
〔校友子女選抜〕
校友子女選抜では，以下の指標をもとに，①「意欲・経験・適性」を重視しつつ，②「知識・技能」，③「思考力・判断力・表現力」，④「主体性・計画性・協働性」と合わせて総合的に評価する。
書類審査　①－１，２，３；②－１，２
小論文　②－１，２；③－１，２，３
面接・口頭試問　①－１，２，３；②－１，２；③－１，２，３；④－１，２，３
〔編入学試験〕
編入学試験では，以下の指標をもとに，②「知識・技能」を重視しつつ，①「意欲・経験・適性」，③「思考力・判断力・表現力」，④「主体性・計画性・協働性」と合わせて総合的に評価する。
書類審査　①－１，２，３；②－１，２
語学試験　②－１，２
専門試験　②－１，２；③－１，２，３
面接・口頭試問　①－１，２，３；②－１，２；③－１，２，３；④－１，２，３
〔転部試験〕
転部試験では，以下の指標をもとに，②「知識・技能」を重視しつつ，①「意欲・経験・適性」，③「思考力・判断力・表現力」，④「主体性・計画性・協働性」と合わせて総合的に評価する。
書類審査　②－１，２
専門試験　②－１，２；③－１，２，３
面接・口頭試問　①－１，２，３；②－１，２；③－１，２，３；④－１，２，３

8　スポーツ科学部
http://www.nihon-u.ac.jp/sports_sciences/about/policy/#content3

日本大学スポーツ科学部（学士（体育学））では、本学の教育理念である「自主創造」に合致し、教育研究上の目的とディプロマポリシー（学位授与方針）、カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、下記のような人材を求める。スポーツに関わる様々な実践の場において、これまでの教育課程で身に付けた学力を基に、競技スポーツに関わる諸問題や課題を多様な視点から発見し、それに対する多面的な情報収集・分析を通して、解決策を導き出す過程を繰り返すことができる能力を身に付ける意志を持った人材を求める。また、スポーツ科学の最新の知見を活かして競技力の向上を真摯に探求する、もしくはそれを支える意志のある人材を求める。

また、入学者選抜においては下記の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

①意欲・経験・適性

1　これまでのスポーツ経験の中で得られた知識に基づき、スポーツ科学を積極的に学ぶ意欲がある。（意欲・経験）

2　反省的実践を通じて競技スポーツの発展に貢献する意欲がある。（意欲・適性）

②知識・技能

1　これまでの教育課程において学修した基礎学力を有し、自身の考えを適切に表現できる能力を有している。（知識・技能）

③思考力・判断力・表現力

1　課題に対して論理的に考察した上で自身の考えを基に的確に判断し、伝えることができる。（思考力・判断力・表現力）

④主体性・計画性・協働性

1　スポーツを通して多様な人々と協働し学習するとともに、自ら意欲的に課題解決に取り組む態度を有している。（主体性・協働性）

2　自身の大学４年間の学修計画とキャリア形成についての考えを持ち、計画的に実践する姿勢を有している。（主体性・計画性）

【各種入学者選抜方式とアドミッション・ポリシーとの対応】

一般選抜（一般選抜Ａ個別方式並びにＮ全学統一方式第１期及び第２期）

②「知識・技能」を重視しつつ，③「思考力・判断力・表現力」を加えて総合的に評価する。

学力検査（②-1、③-1）

総合型選抜

①「意欲・経験・適性」および③「思考力・判断力・表現力」を重視しつつ，②「知識・技能」，④「主体性・計画性・協働性」と合わせて総合的に評価する。

第一次選考：書類審査（①-1、②-1、③-1）

第二次選考：課題レポート（②-1、③-1）

プレゼンテーション（③-1）

口頭試問（②-1、③-1）、

面接（①-1、①-2、④-1、④-2）

学校推薦型選抜（付属基礎学力選抜）

②「知識・技能」を重視しつつ，①「意欲・経験・適性」を加えて総合的に評価する。

基礎学力到達度テスト（②-1）

書類審査（①-1、②-1）

学校推薦型選抜（付属特別選抜）

①「意欲・経験・適性」を重視しつつ，③「思考力・判断力・表現力」，④「主体性・計画性・協働性」と合わせて総合的に評価する。

書類審査（①-1）

口頭試問（③-1）

面接（①-1、①-2、④-1、④-2）

学校推薦型選抜（指定校）

①「意欲・経験・適性」を重視しつつ，③「思考力・判断力・表現力」，④「主体性・計画性・協働性」と合わせて総合的に評価する。
書類審査（①-1）
口頭試問（③-1）
面接（①-1、①-2、④-1、④-2）
学校推薦型選抜（提携校）
①「意欲・経験・適性」を重視しつつ，③「思考力・判断力・表現力」，④「主体性・計画性・協働性」と合わせて総合的に評価する。
書類審査（①-1）
口頭試問（③-1）
面接（①-1、①-2、④-1、④-2）
校友子女選抜
①「意欲・経験・適性」を重視しつつ，③「思考力・判断力・表現力」，④「主体性・計画性・協働性」と合わせて総合的に評価する。
書類審査（①-1）
小論文（③-1）
口頭試問（③-1）
面接（①-1、①-2、④-1、④-2）
学校推薦型選抜（日本大学競技部、日本大学競技部トップアスリート）
①「意欲・経験・適性」及び②「知識・技能」を重視しつつ，④「主体性・計画性・協働性」と合わせて総合的に評価する。
書類審査（①-1、②-1）
口頭試問（②-1）
面接（①-1、①-2、④-1、④-2）
外国人留学生選抜
①「意欲・経験・適性」を重視しつつ，②「知識・技能」，③「思考力・判断力・表現力」，④「主体性・計画性・協働性」と合わせて総合的に評価する。
日本留学試験（②-1）
口頭試問（③-1）
面接（①-1、①-2、④-1、④-2）
編入学試験
①「意欲・経験・適性」及び②「知識・技能」，④「主体性・計画性・協働性」を重視しつつ，③「思考力・判断力・表現力」と合わせて総合的に評価する。
語学試験（②-1）
専門試験（②-1、③-1）
面接（①-1、①-2、④-1、④-2）
転部（学部間）試験
①「意欲・経験・適性」を重視しつつ，②「知識・技能」，③「思考力・判断力・表現力」，④「主体性・計画性・協働性」と合わせて総合的に評価する。
専門試験（②-1、③-1）
面接（①-1、①-2、④-1、④-2）

9　理工学部　https://www.cst.nihon-u.ac.jp/about/education/index.html

日本大学理工学部では良質な学位授与を実現するため，その教育方針を下記のとおり定める。日本大学理工学部は，日本大学が掲げる教育理念「自主創造」に基づき，一人ひとりの個性を尊重し，「自由闊達な精神，豊かな創造性及び旺盛な探求心を持ち，人類の平和と福祉に貢献できる，誇りある人材を養成する」ことを教育理念に掲げている。このような教育理念のもとに，日本大学理工学部では，大学で学ぶ上で求められる基礎学力を有し，知的好奇心が旺盛で，修得した科学的知識・技術を活かし社会に貢献したいという意欲のある人を求めている。

10　生産工学部　http://www.cit.nihon-u.ac.jp/about/outline/policy

日本大学生産工学部では，日本大学教育憲章に則り，自ら学び，自ら考え，自ら

道をひらく能力を有し，社会に貢献できる人材を育成します。
　このため本学部では，高等学校課程までに修得した知識・教養・倫理観を基に，以下に示す「求める学生像」を理解して意欲的に学修を進めていくことのできる者を求めています。
「求める学生像」
　豊かな知識・教養を身につけて高い倫理観をもって社会（日本社会・国際社会）に貢献することを目標とし，その目標に向かって自ら継続的に学修する意欲をもつ人。
　問題発見及びその解決のために，必要な情報を収集・分析し，自らの思考力をもって，自らの考えをまとめ，表現しようと努力する人。
　グループやチームをとおして自己を高め，さらに挑戦することや振り返ることの必要性を理解した上で，経営や生産管理ができる技術者になろうとする人。
　なお，本学部に入学を志す者は，「求める学生像」を理解して受験していると判断し，入学試験では，学力試験等により，４年間の学修に必要な知識・技能・思考力・判断力を評価します。

11　工学部　http://www.ce.nihon-u.ac.jp/undergraduate/undergraduate109/
　日本大学の教育理念である「自主創造」の気風に満ち，自主的に考察して判断できる発想力と解決能力を持つ技術者を養成します。さらに，工学部が提唱する「ロハス工学※」を理解し，調和のとれた持続可能な社会の実現に貢献できる人間性豊かな技術者の育成を目指します。そのため，工学の各専門分野の知識や技術を修得する意欲を持ち，様々な分野で幅広く，グローバルに活躍することを意識している次のような人材を求めています。
①本学部のカリキュラムを学修する上での基礎となる知識・技能として高等学校等における学習内容を理解している者。
②自ら考え，行動・創造するための思考力・判断力・表現力等の能力を有し，高い倫理観とグローバルな視点を持つ，人間性豊かな技術者になる向上心がある者。
③基本的なコミュニケーション力を有しており，主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ意欲がある者。
　また，その入学者選抜に当たっては，知識・技能，思考力・判断力・表現力などの能力や，多様な入学者とともに協働して学修する意欲を多面的に評価するために，一般選抜，学校推薦型選抜，総合型選抜など，様々な方式により選抜する。
　※ロハス工学：健康で持続可能な社会実現のために，「人の心と身体，地球にやさしい生き方」を支える工学的技術を研究開発すること。また，それを目的とした学問のこと。

12　医学部　https://www.med.nihon-u.ac.jp/admition_policy.html
　医学部は，自主創造の理念を念頭に醫明博愛を実践する，(1) 豊かな知識・教養に基づき社会に貢献する高い人間力を有する医師の育成，(2) 高い倫理感のもとに，論理的・批判的思考力を有し，世界へ発信できる学際的視野を持った研究者の育成，及び (3) 豊かな個性を引き出し，次世代リーダーを育成する熱意ある教育者を志す人材の育成を目指しています。
　従って医学部では，医学・医療の分野で社会に貢献したいという明確な目的意識とそれを実現しようとする強い意志を持ち，目標に向かって意欲的に学修を進めていくことのできる学生を求めています。
　入学者選抜では，このような人材を多元的な尺度で評価し，基礎的な能力や資質に優れた人材を見出します。
　一次試験では，学科試験（理科，数学，外国語）により，６年間の学修に必要な基本的な知識・技能，判断力，思考力を評価します。
　二次試験では，個別学力検査により応用力，展開力を評価し，調査書等を参考に思考力，判断力，表現力，主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を評価し

ます。

13　歯学部　https://www.dent.nihon-u.ac.jp/about/policy/index.html

本学部では基礎学力があり，健康で多様性に富んだ資質を兼ね備えた人を求めている。学生同士が「切磋琢磨」して自己を認め合い，高め合うことで，歯科医療に求められるプロフェッショナルをともに目指す意欲の高い人材の育成を行う。

AP1　自主創造の気風に賛同し自己研鑽できる人

AP2　医療人となる目的意識と高い倫理観をもつ人

AP3　自己の目標を実現する挑戦力を持ち努力する人

AP4　生涯にわたり学習意欲を持続し社会に貢献する姿勢をもつ人

14　松戸歯学部　https://www.mascat.nihon-u.ac.jp/info/purpose.html

松戸歯学部の教育理念・目標に合致した人を選抜するために，基礎的学力，論理的思考力やコミュニケーション能力などに関する試験を実施し，医療人としての資質を総合的に評価し，以下の資質を持つ人を受け入れる。

〔AP1〕歯科医学を通じて社会に貢献する志を有する人。

〔AP2〕歯科医学を修得するための基礎的な学力とコミュニケーション能力を兼ね備えている人。

〔AP3〕自主的に学ぶ姿勢と創造性に富み，論理的で柔軟な思考力を有する人。

〔AP4〕他人に対する思いやりを持ち，社会的責任感が強く，多様な価値を受容する寛容性と奉仕的精神を備えている人。

〔AP5〕諦めない心で歯科医学を探究し，目標や意義を見出すために振り返りができる人。

15　生物資源科学部　https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/educational_goal/

①学士（生物資源学）

ディプロマ･ポリシーに掲げた人材を育成するために，多様な選抜方法によって，以下の能力･資質を有する者を受入れる。

【知識･技能】

AP1　高等学校で習得すべき自然科学の基礎知識を有している。

AP2　高等学校で習得すべき基礎的な数理能力，論理的思考力を有している。

AP3　日本や国際社会が直面している生命・食料・資源･環境の諸問題に関する基礎知識を有している。

【思考力･判断力･表現力等の能力】

AP4　入学後にさまざまな分野の文献を調査し，プレゼンテーション，レポート作成を行うにあたって必要とされる国語力を有している。

AP5　入学後に生物資源科学に関連する英語文献の講読，英語でのコミュニケーションに必要とされる基本的な語学力を有している。

【関心･意欲･態度･志向性】

AP6　生物（植物･動物･微生物等）とそれらに由来する生物資源や自然環境に加え，日本や国際社会が直面している生命・食料・資源･環境に関する問題に強い関心を持っている。

AP7　「生産･利用科学」，「生命科学」，「環境科学」に関する学びを通して自ら課題を見出し，それを積極的・創造的に解決しようとする強い意欲を持っている。

AP8　日本や国際社会における科学･技術の持続的な発展に貢献しようとする強い意欲を持っている。

AP9　入学後，本学部での「総合的フィールドサイエンス教育」に関連する実験･実習･演習科目の受講において，多様な人々と協働しつつ主体性を持って学修できる。

②学士（獣医学）

ディプロマ･ポリシーに掲げた人材を育成するために，多様な選抜方法によって，次のような能力･資質を有する者を受入れる。

【知識･技能】

AP1　高等学校で習得すべき自然科学の基礎知識を有している。
AP2　高等学校で習得すべき基礎的な数理能力や論理的思考力を有している。
AP3　日本や国際社会が直面している人・動物・環境（生態系）に関連する諸問題の基礎知識を有している。
【思考力･判断力･表現力等の能力】
AP4　入学後にさまざまな分野の文献を調査し，プレゼンテーション，レポート作成を行うにあたって必要とされる国語力を有している。
AP5　入学後に獣医学に関連する英語文献の講読，英語でのコミュニケーションに必要とされる基本的な語学力を有している。
【関心･意欲･態度･志向性】
AP6　生命に対する強い関心と倫理観を有している。
AP7　日本や国際社会が直面している人・動物・環境（生態系）に関連する諸問題や獣医療に強い関心を持っている。
AP8　獣医学に関する学びを通して自ら課題を見出し，それを積極的・創造的に解決しようとする強い意欲を持っている。
AP9　日本や国際社会における獣医学の持続的な発展に貢献しようとする強い意欲を持っている。
AP10 入学後，実習・演習科目を含む各種開講科目の受講にあたり，多様な人々と協働しつつ主体性を持って学修できる。

16　薬学部　https://www.pha.nihon-u.ac.jp/outline/policy/
① 日本大学の教育理念である「自主創造」の精神に共感できる人。
② 薬剤師となって人々の健康増進に貢献したいという意欲を持つ人。
③ 異文化，異分野の多様な価値を受容し理解に努める人。
④ 他の人の痛みや苦しみに共感できる人。
⑤ 自ら学ぶ学習意欲と知的探究心を持っている人。
⑥ 薬学の専門領域の学習に必要な基礎学力が身についている人。
⑦ 他の人と意見交換を行うことができ，協調して行動することができる人。
⑧ 社会に広い関心を持ち，自ら選んだ場で活躍する意欲がある人。

17　通信教育部　https://www.dld.nihon-u.ac.jp/education_info/
日本大学通信教育部は，学術を社会に普及するための開かれた教育の場として，教育の機会均等を図り，生涯学習社会の実現に向け，次に掲げる者を積極的に受け入れる。
①日本大学の教育理念を深く理解し，賛同することのできる者
②他者の人格を尊重しつつ行為のできる者
③人格の陶冶を目指しながら勉学意欲を継続することのできる者
④自立学習を継続することのできる者で，時間的・地理的制約によりその実現が困難な者
⑤自らの視点を習得し，問題点の発見とその解決策を見出す努力を惜しまない者
⑥基礎的なコミュニケーション能力を持ち，相手の考えを理解した上で，自らの考えを文章や言葉で表現し，伝えるための能力を身につけている者
⑦他者と協働して取り組むことができる協調性及び自主性を身につけている者
⑧課題解決に向けて他者と協働して取り組むことができる協調性及び主体性を有する者
⑨コース履修に当たっては特に本通信教育部の入学者の受入れに関する方針を理解している者

【法学部】
法学部は，高等学校などの教育課程において，充分な学力と知識及び判断力を身につけ，本学部で，法律学・政治学・行政学・経済学などの専門的な学びを通じて，リーガルマインドの修得を目指し，自ら学び，自ら考え，自ら道をひらくという「自

主創造」を実践できる入学者を求める。

【文理学部】

文理学部は 各専攻において専門知の基礎を学ぶとともに,それを複合的に生かす実践力を身につけ，現代社会に貢献する人材の育成を目指している。こうした本学部の目的をよく理解し，自己と社会を変え，世界的な課題の解決に取り組む，強い意欲と情熱のある学生を望む。

【経済学部】

経済学部は，経済学の修得を通じて，経済的諸現象に関する幅広い知識と教養を身につけ，広く国際社会で活躍できる人材の育成を目指している。このような本学部の教育方針を理解し，現代の経済社会が直面する課題の解決に向け，他者と協力しながら，強い意欲を持って主体的に学修を継続できる学生を求めている。

【商学部】

商学部は，商学を中心に経営・会計学等の修得を通じ実学としてのビジネスに関する幅広い知識と教養を身につけ，社会環境の変化に対応できる人材の育成を目指している。本学部の教育方針を理解し，日本のみならず世界のビジネス環境が直面する諸問題の解決に向け，誰とでも協働しながら，学修を自主的に継続できる学生を求めている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：インターネットによる公表。

1　法学部　https://www.law.nihon-u.ac.jp/educational_info/law.html
2　文理学部　https://www.chs.nihon-u.ac.jp/about/organization/
3　経済学部　https://www.eco.nihon-u.ac.jp/disclosure/data_2/
4　商学部　https://www.bus.nihon-u.ac.jp/education-information/
5　芸術学部　http://www.art.nihon-u.ac.jp/about/relations/
6　国際関係学部　https://www.ir.nihon-u.ac.jp/guide/info-ed/
7　危機管理学部
https://www.nihon-u.ac.jp/risk_management/about/disclosure/data2/
8　スポーツ科学部
http://www.nihon-u.ac.jp/sports_sciences/about/disclosure/data2/
9　理工学部　https://www.cst.nihon-u.ac.jp/about/education/index.html
10　生産工学部　http://www.cit.nihon-u.ac.jp/about/data/organization
11　工学部　http://www.ce.nihon-u.ac.jp/educational_information/1402-2/
12　医学部　https://www.med.nihon-u.ac.jp/img/kyouiku/about/soshiki20220501.pdf
13　歯学部
https://www.dent.nihon-u.ac.jp/education/organizational/index.html
14　松戸歯学部　https://www.mascat.nihon-u.ac.jp/curriculum/education.html
15　生物資源科学部　https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/
16　薬学部　https://www.pha.nihon-u.ac.jp/media/R03-02-1.pdf
17　通信教育部　https://www.dld.nihon-u.ac.jp/course/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
―	4 人	―					4 人
法学部	―	73 人	43 人	11 人	10 人	0 人	137 人
文理学部		141 人	57 人	0 人	19 人	32 人	249 人
経済学部	―	70 人	32 人	15 人	4 人	0 人	121 人
商学部	―	58 人	36 人	7 人	0 人	0 人	101 人
芸術学部	―	61 人	15 人	12 人	13 人	42 人	143 人
国際関係学部	1 人	27 人	12 人	1 人	16 人	0 人	57 人
危機管理学部	―	19 人	9 人	3 人	0 人	0 人	31 人
スポーツ科学部	―	17 人	8 人	7 人	2 人	0 人	34 人
理工学部	1 人	142 人	92 人	5 人	49 人	33 人	322 人
生産工学部	―	95 人	43 人	18 人	16 人	8 人	180 人
工学部	―	66 人	43 人	20 人	7 人	0 人	136 人
医学部	―	50 人	94 人	10 人	138 人	125 人	417 人
歯学部	―	31 人	32 人	31 人	45 人	2 人	141 人
松戸歯学部	1 人	25 人	27 人	50 人	29 人	0 人	132 人
生物資源科学部	―	107 人	57 人	47 人	22 人	13 人	246 人
薬学部	―	30 人	7 人	18 人	11 人	1 人	67 人
通信教育部	―	3 人	5 人	0 人	1 人	0 人	9 人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	2539 人	2539 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：インターネットにより公開。 https://www.nihon-u.ac.jp/research/researchers/databese/

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

日本大学では，FD を「自主創造の理念の下に大学を取り巻く外的諸要因をも分析して，学問領域単位（学科・専攻等）での教育プログラムを常に見直し，それらを実行するため教員と職員が協働し，学生の参画を得ながら組織的に取り組む諸活動」と定義しており，全学的に推進していくために「日本大学 FD 推進センター」を設置している。全学 FD 委員会を組織し，全学的な理解浸透を図ると共に，より細かな検討及び企画については，３つの専門ワーキンググループを組織し，年間の FD ワークショップ等の運営及び情報発信を行っている。また，大学として年間を通じて開催している FD ワークショップ等は以下記載のとおりである。

①新任教員ワークショップ（日本大学教育憲章の理解とグループワークによるシラバス作成）
②全学 FD ワークショップ（アウトカム基盤型の教育の理解及びカリキュラムプランニングの修得）
③全学 FD ワークショップ@キャンパス（各学部における FD 研修会の実施）
④学生 FD CHAmmiT（学生スタッフが企画立案し教職学で議論するしゃべり場を主とした教育改善イベント）
⑤各種 FD シンポジウムやセミナーの企画・実施

以下は，各学部における主な FD の状況である。

1　法学部

教育内容・方法等の改善を図ることを目的とし，ファカルティ・ディベロップメント委員会を設置している。昨年からは「ＦＤワークショップ＠キャンパス」を開催し，学修目標・学修方略・学修評価について発表と討議が行われた。また，授業アンケートを年２回，前学期末及び後学期末に実施しており，さらには，学生から寄せられた意見に対して教員が改善計画を示すための「アクションプランシート」を作成し，授業改善を促している。

2　文理学部

FD 活動の状況については，教育内容・方法の改善を図るため教員によるＦＤ委員会を組織し，次の活動を通じて，教員の資質向上を図っている。

ア　授業改善のためのアンケート
イ　ＦＤカフェ
ウ　ＦＤ講演会
エ　ＦＤ活動・授業改善活動に対する補助金給付及び成果報告会

「ア」については，結果を教員へフィードバックして改善を促しているほか，個人が特定されない形でホームページでも内容を公表している。

「イ」については，令和２年度に引き続き，遠隔授業実施にあたり，困っていること等について授業例や工夫を紹介し共有するために開催し，講演者の事例報告等の後，講演者と参加者で質疑応答及び意見交換を行った。

「ウ」については，アカデミック・ライティング教育・支援に関する理解の共有とライティング教育・支援が個々の教員の専門教育と連動することがいかに有益であるかについて理解を深めることをテーマとし，ＦＤ講演会を開催し，講演の後，講演者と参加者で質疑応答を行った。

「エ」については，３つの課題（①教職課程におけるオンラインを活用した授業外学修の可能性と限界，②入学時における学生の読解力は入学後の授業理解度にどの程度影響するか）について補助金を支給し，成果報告会を開催した。

また，学生によるＦＤ団体である学生ＦＤワーキンググループを組織し，新入生歓迎イベントとしての「しゃべり場」の開催のほか，プロジェクト教育科目の企画立案など活動している。

3　経済学部

ＦＤ推進委員会において，教育内容・方法等の改善の一助となるよう以下の取り組みを行っている。

①授業内容・方法の改善の方策を得るため，全教職員を対象とした『ＦＤディスカッション』を開催
②学生による授業評価アンケートの実施及び授業改善計画報告書の作成
③専任教員を対象としたＦＤ研修会

4　商学部

商学部 FD 委員会による「FD ウィーク」＆「FD ワークショップ・講演会」を毎年実施している。具体的には，商学部 FD ウィークの FD ワークショップとして，各年度の「テーマ」を設定し，それに基づき，教員による授業実施方法や授業形態の取り組みの紹介をして，ティーチングティップスなどの成果をまとめるなどして，教員の授業改善に関する情報共有をしている。

5　芸術学部

原則として全教員（専任・非常勤）を対象とした「学生による授業評価アンケート」の実施，日本大学 FD CHAmmiT への参加推進，FD セミナーの実施等

6　国際関係学部

前期・後期に分けて全ての科目で授業評価アンケートを実施・集計して，各授業担当

者へフィードバックし授業改善に役立てている。新任教員の授業をＦＤ委員が授業参観し，適宜アドバイスを与えながら教育の質の向上につとめている。さらに１年に１回，ＦＤ講演会（令和３年度演題：理工学部における教学ＩＲ体制とデータ活用事例）を実施している。また，授業評価アンケートの結果は，区分毎に学生専用のポータルサイトを通じて公開している。

7　危機管理学部

学務委員会が中心となり，危機管理学部とスポーツ科学部の合同によるＦＤ研修会及びＦＤワークショップを実施している。令和３年度は，４回のＦＤ研修会を開催した。

（ＦＤ研修会）

令和３年５月１５日（土）実施
令和３年度新任教員 FD ワークショップ
令和３年６月２４日（木）実施
財政説明会及び AI-IR 中間報告
令和３年７月１３日（火）実施
文部科学省の傾向理解
令和４年３月２３日（水）実施
AI-IR 活動報告会

8　スポーツ科学部

学務委員会が中心となり，危機管理学部とスポーツ科学部の合同によるＦＤ研修会及びＦＤワークショップを実施している。令和３年度は，４回のＦＤ研修会を開催した。

（ＦＤ研修会）

令和３年５月１５日（土）実施
令和３年度新任教員 FD ワークショップ
令和３年６月２４日（木）実施
財政説明会及び AI-IR 中間報告
令和３年７月１３日（火）実施
文部科学省の傾向理解
令和４年３月２３日（水）実施
AI-IR 活動報告会

9　理工学部

①学生による「授業改善のためのアンケート」の集計結果を分析し，授業の改善に向けた取組みを学部のホームページに公表している。

②大学教員としての能力開発をテーマに新任専任教員を対象とした研修会を行っている。参加者がオンデマンド講義を行い，外部講師から教授法の在り方に関してアドバイスをいただいている。

③各学科，専攻及び一般教育教室ごとに行っているＦＤ活動の特徴的な内容及び授業アンケートの分析結果並びに学修満足度調査の分析結果等の資料を配布し，意見・質疑応答を行い情報の共有を図っている。

10　生産工学部

教育内容・方法等の改善に向けた取組として，「FD･SD 研修会」，「授業参観」，「授業評価アンケート」を実施し，教育効果についての研究，授業及び教育環境の改善，教育活動のレベルアップを図っている。また，各教員の教育活動の点検，継続的な教育改善努力への取り組みの促進，優れた教育活動の共有化等，教員の教育能力の向上と教育活動の活性化を図るために，優れた教育活動の実践が認められる教員に教育貢献賞を授与している。

11　工学部

令和３年度は，オンライン授業やアフターコロナの授業方法の改善を図ることを目的に「工学部 FD 研修会」として，日本大学 FD 推進センター掲載の動画を活用し，学部内

専用サイトにリンクさせ，オンデマンドで実施している。

12　医学部

本学部は，令和３年４月１日付けでＦＤ・ＳＤ推進委員会を設置した。同委員会で「医学部におけるＦＤ研修実施方針」を策定し，これに基づきＦＤ活動を実施する環境を整備した。同実施方針に基づき，同委員会及び医学部内部質保証推進委員会，自己点検・評価委員会，医学教育センターとが連携し，令和４年度から本格的にＦＤ活動を推進を目指している。現在，医学教育センターが中心となり，医学教育ワークショップを開催している。本ワークショップは，試験問題の作り方といった基本的な事項から，ＰＢＬテュートリアルのテューター養成，最新のカリキュラムに関する事項まで幅広いテーマについて実施されている。医学部の教育カリキュラムに関連するテーマが多くを占めるが，「医療・医学行政で活躍されている先生にうかがう」等，大学院生を参加対象者としたワークショップを開催した実績も有しており，今後も積極的に推進していく。参加者には学務委員，科目責任者，授業担当者および大学院担当教員等，医学部および大学院の教育カリキュラムで中心的な役割を担っている教員が多く，その成果は参加者自身の担当科目の指導法改善に反映され，学生指導の基となるシラバスにその成果が集約される。令和元年度は試験問題(ＭＣＱ)の作り方やＰＢＬテュートリアルについて実施された。本ワークショップの歴史は古く，総開催数は 100 回を超え，令和３年度中に 136 回目を実施した。継続的な開催により，教員の教育力開発・向上に広く貢献している。

13　歯学部

例年，以下のＦＤ活動を実施している。

・ＣＢＴ作問・ブラッシュアップワークショップ
・歯学部ＦＤ講習会
・日本大学歯学部教学課題研修会
・日本大学歯学部教学課題研修会報告会

14　松戸歯学部

ＦＤ委員会をもうけ，教員の教育力向上を図るため，学内での講演会，ワークショップを定期的に複数回開催している。内容についても，教育力のさらなる充実と改善，歯科医師国家試験に向けた取り組み，他大学の講師による教学の考え方と学生へのサポート方法の紹介，予備校の講師による学力の向上に苦慮する高校生に対する学修方略等，多岐にわたっている。

15　生物資源科学部

FD 委員会を中心に FD 活動を組織的に実施しており，学内外の講師を招いて教育手法や大学教育を取り巻く環境に関するセミナーを毎年度開催している。また，大学発行の刊行物（Learning Guide，FD Newsletter）を全教員に配布し，周知している。さらに，一般教養課程（教職・学芸員課程を含む）では，理工学部，生産工学部，工学部及び薬学部とともに「理工系五学部一般教育合同会議」を平成 8 年から 2 年毎に開催し，教育に関わる諸問題に関するワークショップを開催している。あわせて生物資源科学部では学生による授業評価アンケートを全ての授業科目で実施しており，教員はシラバスと授業内容との整合性，学生の授業時間外の学習時間数及び学生の理解度などを把握でき，授業改善に役立てることを可能としている。

16　薬学部

FD 委員会を中心に教育課程の適切性について定期的に教員相互による授業参観，定期試験のレビューにより検証を行っている。また学内教員を対象として年 2 回講演会や研修会（ワークショップ）を開催している。また，毎年科目ごとに学生による授業評価が行われ，その集計結果は FD 委員会に報告，担当教員にはフィードバックされている。教員は自己研鑽実施報告書及び授業改善計画報告書を年度ごとに作成しており，授業方法などについて自己振り返りが実施されている。

17　通信教育部

教育内容・方法等の改善を図ることを目的とし，学務委員会の下部組織として，学務

委員会ＦＤ専門委員会を設置している。各スクーリング授業で授業評価アンケートを実施し授業改善の一助としている。さらに学内外のＦＤワークショップ等に参加し，より良い教育活動ができるよう情報の共有を行っている。また，授業担当教員の多くが参加する教員連絡会を企画し、通信教育部の教育方針等の周知などで教育の質向上に努めている。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
法学部（第一部）	1,533 人	1,548 人	101%	6,132 人	6,799 人	111%	0 人	0 人
法学部（第二部）	200 人	200 人	100%	800 人	602 人	75%	0 人	0 人
文理学部	1,900 人	1,972 人	103.8%	7,600 人	8,003 人	105.3%	0 人	24 人
経済学部	1,566 人	1,635 人	104.4%	6,264 人	6,863 人	0.91%	若干名	110 人
商学部	1,266 人	1,327 人	104.8%	5,064 人	5,305 人	104.8%	0 人	25 人
芸術学部	866 人	909 人	104.9%	3,464 人	3,844 人	110.9%	0 人	23 人
国際関係学部	666 人	637 人	95.6%	2,664 人	2845 人	106.8%	0 人	0 人
危機管理学部	300 人	314 人	104.7%	1,200 人	1,295 人	107.9%	若干名	3 人
スポーツ科学部	300 人	314 人	104.7%	1,200 人	1,277 人	106%	若干名	2 人
理工学部	2,030 人	2,184 人	107.6%	8,120 人	8,644 人	106.5%	0 人	0 人
生産工学部	1,540 人	1,715 人	111%	6,020 人	6,416 人	107%	0 人	0 人
工学部	1,030 人	1,090 人	105.8%	4,120 人	4,134 人	100.3%	0 人	0 人
医学部	125 人	125 人	100%	725 人	749 人	103.3%	0 人	0 人
歯学部	130 人	126 人	97%	780 人	782 人	100%	0 人	0 人
松戸歯学部	130 人	127 人	97.7%	780 人	739 人	94.7%	若干名	4 人
生物資源科学部	1,520 人	1,612 人	106.1%	6,320 人	6,607 人	104.5%	0 人	0 人
薬学部	244 人	293 人	120.0%	1,464 人	1,558 人	106.4%	若干名	0 人
通信教育部	9,000 人	733 人	8.1%	36,000 人	7,717 人	21.4%	0 人	0 人
合計	24,346 人	16,861 人	69.3%	98,717 人	74,179 人	75.1%	0 人	191 人

（備考）

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
法学部（第一部）	1,587 人（100%）	62 人（3.9%）	1,191 人（75%）	166 人（10.4%）

法学部（第二部）	76 人 (100%)	1 人 (1.3%)	41 人 (53.9%)	12 人 (15.7%)
文理学部	1,821 人 (100%)	153 人 (8.4%)	1,497 人 (82.2%)	171 人 (9.4%)
経済学部	1,557 人 (100%)	23 人 (1.5%)	1,324 人 (85.0%)	210 人 (13.5%)
商学部	1,327 人 (100%)	32 人 (2.4%)	1,115 人 (84.0%)	180 人 (13.6%)
芸術学部	840 人 (100%)	58 人 (6.9%)	516 人 (61.4%)	266 人 (31.7%)
国際関係学部	669 人 (100%)	23 人 (3.4%)	531 人 (79.4%)	115 人 (17.2%)
危機管理学部	272 人 (100%)	6 人 (2.2%)	239 人 (87.9%)	27 人 (9.9%)
スポーツ科学部	279 人 (100%)	16 人 (5.7%)	244 人 (87.5%)	19 人 (6.8%)
理工学部	2020 人 (100%)	487 人 (24.1%)	1409 人 (69.8%)	124 人 (6.1%)
生産工学部	1,484 人 (100%)	207 人 (14.0%)	1,167 人 (78.6%)	82 人 (7.4%)
工学部	999 人 (100%)	164 人 (16.4%)	756 人 (75.6%)	79 人 (7.9%)
医学部	105 人 (99.1%)	0 人 (%)	0 人 (%)	105 人 (99.1%)
歯学部	119 人 (100%)	0 人 (%)	0 人 (%)	119 人 (100%)
松戸歯学部	105 人 (100%)	0 人 (%)	50 人 (47.6%)	55 人 (52.4%)
生物資源科学部	1,473 人 (100%)	128 人 (8.7%)	1,203 人 (81.7%)	142 人 (9.6%)
薬学部	226 人 (100%)	5 人 (2.2%)	203 人 (89.8%)	18 人 (8.0%)
通信教育部	609 人 (100%)	15 人 (2.4%)	137 人 (22.4%)	457 人 (75.0%)
合計	15,568 人 (100%)	1,380 人 (8.9%)	11,623 人 (74.7%)	2,347 人 (15.1%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

・進学先　日本大学大学院研究科，東京工業大学大学院研究科，早稲田大学大学院研究科，筑波大学大学院研究科，明治大学大学院研究科

・就職先　警視庁，東日本旅客鉄道㈱，東京都教育委員会，㈱マーキュリー，大和ハウス工業㈱，千葉県，横浜市，千葉県教育委員会，三菱自動車工業㈱，大成建設㈱，スズキ㈱，㈱ＳＵＢＡＲＵ，日本郵政グループ（日本郵便㈱／㈱ゆうちょ銀行／㈱かんぽ生命保険），㈱メイテック，㈱アウトソーシングテクノロジー，富士ソフト㈱，イオンリテール㈱，㈱フジタ，東海旅客鉄道㈱

（備考）

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
法学部（第一	1,739 人	1,532 人	146 人	55 人	6 人

部）	（100%）	（88.1%）	（8.4%）	（3.2%）	（0.3%）
法学部（第二部）	131 人 （100%）	55 人 （42.0%）	40 人 （30.5%）	33 人 （25.2%）	3 人 （2.3%）
文理学部	1,971 人 （100%）	1,670 人 （84.7%）	134 人 （6.8%）	151 人 （7.7%）	16 人 （0.8%）
経済学部	1,603 人 （100%）	1,340 人 （83.6%）	173 人 （10.8%）	69 人 （4.3%）	21 人 （1.3%）
商学部	1,508 人 （100%）	1,255 人 （83.2%）	107 人 （7.1%）	90 人 （6.0%）	56 人 （3.7%）
芸術学部	906 人 （100%）	703 人 （77.6%）	158 人 （17.4%）	45 人 （5.0%）	0 人 （0%）
国際関係学部	696 人 （100%）	595 人 （85.5%）	59 人 （8.5%）	40 人 （5.7%）	2 人 （0.3%）
危機管理学部	314 人 （100%）	261 人 （83.1%）	25 人 （8.0%）	20 人 （6.4%）	8 人 （2.5%）
スポーツ科学部	314 人 （100%）	270 人 （86.0%）	9 人 （2.9%）	24 人 （7.6%）	11 人 （3.5%）
理工学部	2,083 人 （100%）	1,730 人 （83.1%）	247 人 （14.3%）	156 人 （7.5%）	0 人 （0%）
生産工学部	1,584 人 （100%）	1,483 人 （93.6%）	77 人 （4.9%）	24 人 （1.5%）	0 人 （0.0%）
工学部	1,061 人 （100%）	913 人 （86.1%）	64 人 （6.0%）	84 人 （7.9%）	0 人 （0.0%）
医学部	122 人 （100%）	94 人 （77.0%）	26 人 （21.3%）	2 人 （1.6%）	0 人 （0.0%）
歯学部	130 人 （100%）	82 人 （63.1%）	32 人 （24.6%）	16 人 （12.3%）	0 人 （0.0%）
松戸歯学部	127 人 （100%）	73 人 （57.5%）	36 人 （28.3%）	18 人 （14.2%）	0 人 （%）
生物資源科学部	1,546 人 （100%）	1,385 人 （89.6%）	93 人 （6.0%）	63 人 （4.1%）	5 人 （0.3%）
薬学部	258 人 （100%）	181 人 （70.2%）	42 人 （16.3%）	33 人 （12.8%）	2 人 （0.8%）
通信教育部	630 人 （100%）	98 人 （15.6%）	228 人 （36.2%）	288 人 （45.7%）	16 人 （2.5%）
合計	16,723 人 （100%）	13,720 人 （82%）	1,696 人 （10.1%）	1,211 人 （7.2%）	146 人 （0.9%）
（備考）					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

授業計画（シラバス）は，①授業の概要，②授業の目的・到達目標，③授業の方法，準備学修・授業時間外の学修，④授業計画，⑤成績評価の方法及び基準，⑥教科書・参考書等，⑦連絡先（オフィスアワー，email など），⑧履修上の注意，受講生に対する要望等を最低限の項目とし，各学部の状況に応じて記載項目を追加し，授業担当者に作成を依頼している。

また，授業計画（シラバス）は，当該科目の担当以外の教員によるシラバス第三者が，作成された授業計画（シラバス）について，「卒業に関する基本方針」及び「教育課程の編成・実施の方針」に則した内容になっているかといった観点から点検を行い，全ての授業科目の点検が終了したのちに，各学部のホームページで公開している。

以下は，各学部の授業計画（シラバス）公表時期

1	法学部	４月初めにホームページに公開
2	文理学部	３月下旬にホームページに公開
3	経済学部	ホームページに公開中
4	商学部	３月下旬にホームページに公開
5	芸術学部	４月初めにホームページに公開
6	国際関係学部	４月初めにホームページに公開
7	危機管理学部	４月初めにホームページに公開
8	スポーツ科学部	４月初めにホームページに公開
9	理工学部	４月初めにホームページに公開
10	生産工学部	４月初めにホームページに公開
11	工学部	３月下旬にホームページに公開
12	医学部	３月２５日にホームページに公開
13	歯学部	学内関係者（学生含む）には３月下旬に公開し，外部には４月下旬に公開
14	松戸歯学部	４月初めにホームページに公開
15	生物資源科学部	４月初めにホームページに公開
16	薬学部	４月初めにホームページに公開
17	通信教育部	シラバスシステムにて公開（公開は随時）

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

学修成果に係る評価方法及び基準については，以下のとおり本学学則第 34 条，第 35 条及び第 36 条において規定している。また，各授業科目における成績評価方法及び基準については，当該授業科目の授業計画（シラバス）の「成績評価の方法及び基準」に記載している。なお，授業計画（シラバス）には，学生が「何を学び，何ができるようになるか」という学修の到達目標及び各授業担当者が設定した成績評価の方法・基準を記載し，学修成果を厳格かつ適正に評価し単位を与えている。

第 34 条　学業成績は，授業科目ごとに行う試験によって，これを定める。ただし，授業科目によっては，その他の方法で査定することができる。

２　試験には，平常試験・定期試験・追試験及び再試験がある。

①　平常試験とは，当該授業科目履修者を対象に授業科目担当教員が学期の途中に適宜行う試験のことをいう。

②　定期試験とは，当該授業科目履修者を対象に大学の定めた試験期間中に行う試験のことをいう。定期試験は学期末又は学年末に行う。

③　追試験とは，やむを得ない事由のため定期試験を受けることのできなかった者のために行う試験のことをいう。

④　再試験とは，受験の結果不合格となった者のために行う試験のことをいう。

３　追試験及び再試験は当該学部において必要と認めたときに限り，これを行う。

第 35 条　修学についての所定の条件を備えていない者は，受験資格を失うことがある。

第 36 条　学業成績の判定は，Ｓ，Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄ及びＥの６種をもってこれを表し，Ｓ（100～90 点），Ａ（89～80 点），Ｂ（79～70 点），Ｃ（69～60 点），Ｄ（59 点以下），Ｅ（履修登録したが成績を示さなかったもの）をもって表し，Ｓ，Ａ，Ｂ，Ｃを合格，Ｄ，Ｅを不合格とする。合格した授業科目については，所定の単位数が与えられる。

２　第１項の学業成績の学修結果を総合的に判断する指標として，総合平均点（Grade Point Average，以下「ＧＰＡ」という）を用いることができる。
３　前項に定めるＧＰＡは，学業成績のうち，Ｓにつき４，Ａにつき３，Ｂにつき２，Ｃにつき１，Ｄ及びＥにつき０をそれぞれ評価点として与え，各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を，総履修単位数（Ｐ又はＮとして表示された科目を除く）で除して算出する。ＧＰＡは，小数点第３位を四捨五入し，小数点以下第２位まで有効とする。
４　第１項の規定にかかわらず，履修登録後，所定の中止手続きを取ったものはＰ，修得単位として認定になったものはＮと表示する。
５　ＧＰＡ算出の対象科目は，卒業要件単位数に含まれる授業科目（単位認定科目としてＮと表示された科目を除く）とする。
６　ＧＰＡは，学期のＧＰＡ，年度のＧＰＡ及び入学時からの累計のＧＰＡとする。
７　通年科目は，学期のＧＰＡ算出の際には，後学期のＧＰＡに算入する。
８　授業科目を再履修した場合，累計のＧＰＡ算出の際には，直近の履修による学業成績及び単位数のみを算入するものとし，以前の学業成績及び単位数は算入しない。
９　試験において不正行為を行った場合は，処分を受けた条件に基づき，評価をＥ，評価点はなしとして取り扱う。

授業計画（シラバス）には，学生が「何を学び，何ができるようになるか」という学修の到達目標及び各授業担当者が設定した複数の成績評価の方法・基準を記載し，学修成果を厳格かつ適正に評価し単位を与えている。

卒業の認定に関する方針については，本学の「日本大学教育憲章」と各学部の教育研究上の目的等を踏まえ，制定している。また，同方針は，学位（学士）授与に当たっての修得すべき知識，態度，技能が示され，この方針に基づいて学位が授与される。同方針は，各学部のホームページ等に公表している。

なお，各授業科目においては，同方針に定めた能力を獲得するために到達目標を定めており，それらの授業科目を履修・修得し，各学科が定めた卒業要件（単位数等）を満たした学生については，教授会の議を経て学長が卒業を決定している。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
法学部（第一部）	法律学科	124 単位	有	年間 46 単位
	政治経済学科	124 単位	有	年間 46 単位
	新聞学科	124 単位	有	年間 46 単位
	経営法学科	124 単位	有	年間 46 単位
	公共政策学科	124 単位	有	年間 46 単位
法学部（第二部）	法律学科	124 単位	有	年間 46 単位
文理学部	哲学科	124 単位	有	40 単位
	史学科	124 単位	有	40 単位
	国文学科	124 単位	有	40 単位
	中国語中国文化学科	124 単位	有	40 単位
	英文学科	124 単位	有	40 単位
	ドイツ文学科	124 単位	有	40 単位
	社会学科	124 単位	有	40 単位
	社会福祉学科	124 単位	有	40 単位
	教育学科	124 単位	有	40 単位
	体育学科	124 単位	有	40 単位
	心理学科	124 単位	有	40 単位

	地理学科	124 単位	有	40 単位
	地球科学科	124 単位	有	40 単位
	数学科	124 単位	有	40 単位
	情報科学科	124 単位	有	40 単位
	物理学科	124 単位	有	40 単位
	生命科学科	124 単位	有	40 単位
	化学科	124 単位	有	40 単位
経済学部	経済学科	124 単位	有	1 年次 42 単位 2～4 年次 40 単位
	産業経営学科	124 単位	有	1 年次 42 単位 2～4 年次 40 単位
	金融公共経済学科	124 単位	有	1 年次 42 単位 2～4 年次 40 単位
商学部	商業学科	124 単位	有	年間 42 単位
	経営学科	124 単位	有	年間 42 単位
	会計学科	124 単位	有	年間 42 単位
芸術学部	写真学科	124 単位 (2020 年度以降入学者) 128 単位 (2019 年度以前入学者)	有	1 年次 41 単位 2～4 年次 40 単位
	映画学科	124 単位 (2020 年度以降入学者) 128 単位 (2019 年度以前入学者)	有	1 年次 41 単位 2～4 年次 40 単位
	美術学科	124 単位 (2020 年度以降入学者) 128 単位 (2019 年度以前入学者)	有	1 年次 46 単位 2～4 年次 40 単位
	音楽学科	124 単位 (2020 年度以降入学者) 128 単位 (2019 年度以前入学者)	有	1 年次 46 単位 2～4 年次 40 単位
	文芸学科	124 単位 (2020 年度以降入学者) 128 単位 (2019 年度以前入学者)	有	1 年次 41 単位 2～4 年次 40 単位
	演劇学科	124 単位 (2020 年度以降入学者) 128 単位 (2019 年度以前入学者)	有	1 年次 41 単位 2～4 年次 40 単位
	放送学科	124 単位 (2020 年度以降入学者) 128 単位 (2019 年度以前入学者)	有	1 年次 41 単位 2～4 年次 40 単位
	デザイン学科	124 単位 (2020 年度以降入学者) 128 単位 (2019 年度以前入学者)	有	1 年次 46 単位 2～4 年次 40 単位
国際関係学部	国際総合政策学科	124 単位	有	1～3 年次 40 単位 4 年次 48 単位
	国際教養学科	124 単位	有	1～3 年次 40 単位 4 年次 48 単位
危機管理学部	危機管理学科	124 単位	有	年間 44 単位
スポーツ科学部	競技スポーツ学科	124 単位	有	年間 44 単位
理工学部	土木工学科	130 単位	有	年間 48 単位
	交通システム工学科	130 単位	有	年間 48 単位

	建築学科	130 単位	有	年間 48 単位
	海洋建築工学科	130 単位	有	年間 48 単位
	まちづくり工学科	130 単位	有	年間 48 単位
	機械工学科	130 単位	有	年間 48 単位
	精密機械工学科	130 単位	有	年間 48 単位
	航空宇宙工学科	130 単位	有	年間 48 単位
	電気工学科	130 単位	有	年間 48 単位
	電子工学科	130 単位	有	年間 48 単位
	応用情報工学科	130 単位	有	年間 48 単位
	物質応用化学科	130 単位	有	年間 48 単位
	物理学科	130 単位	有	年間 48 単位
	数学科	130 単位	有	年間 48 単位
生産工学部	機械工学科	128 単位	有	年間 40 単位
	電気電子工学科	128 単位	有	年間 40 単位
	土木工学科	128 単位	有	年間 40 単位
	建築工学科	128 単位	有	年間 40 単位
	応用分子化学科	128 単位	有	年間 40 単位
	ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ工学科	128 単位	有	年間 40 単位
	数理情報工学科	128 単位	有	年間 40 単位
	環境安全工学科	128 単位	有	年間 40 単位
	創生デザイン学科	128 単位	有	年間 40 単位
工学部	土木工学科 (令和3年度入学者以前)	126 単位	有	年間 48 単位
	土木工学科 (令和4年度入学者以降)	126 単位	有	年間 49 単位
	建築学科 (令和3年度入学者以前)	130 単位	有	年間 48 単位
	建築学科 (令和4年度入学者以降)	127 単位	有	年間 49 単位
	機械工学科 (令和3年度入学者以前)	126 単位	有	年間 48 単位
	機械工学科 (令和4年度入学者以降)	126 単位	有	年間 49 単位
	電気電子工学科 (令和3年度入学者以前)	125 単位	有	年間 48 単位
	電気電子工学科 (令和4年度入学者以降)	125 単位	有	年間 49 単位
	生命応用化学科 (令和3年度入学者以前)	126 単位	有	年間 48 単位
	生命応用化学科 (令和4年度入学者以降)	126 単位	有	年間 49 単位
	情報工学科 (令和3年度入学者以前)	128 単位	有	年間 48 単位
	情報工学科 (令和4年度入学者以降)	126 単位	有	年間 49 単位
医学部	医学科（新課程） 医学科（旧課程）	314 単位 322 単位	無	全授業科目のうち必修科目の割合が 90%を超えるため，履修上限を設けていな

				い。
歯学部	歯学科	198 単位	有	全授業科目のうち必修科目の割合が 90%を超えるため，履修上限を設けていない。
松戸歯学部	歯学科	197 単位	有	全授業科目のうち必修科目の割合が 90%を超えるため，履修上限を設けていない。
生物資源科学部	生命農学科	124 単位	有	年間 48 単位
	生命化学科	124 単位	有	年間 48 単位
	獣医学科	188 単位	有	年間 48 単位
	動物資源科学科	124 単位	有	年間 48 単位
	食品ビジネス学科	124 単位	有	年間 48 単位
	森林資源科学科	124 単位	有	年間 48 単位
	海洋生物資源科学科	124 単位	有	年間 48 単位
	生物環境工学科	124 単位	有	年間 48 単位
	食品生命学科	124 単位	有	年間 48 単位
	国際地域開発学科	124 単位	有	年間 48 単位
	応用生物科学科	124 単位	有	年間 48 単位
	くらしの生物学科	124 単位	有	年間 48 単位
薬学部	薬学科	187 単位	有	1 年次 47 単位 2～4 年次 48 単位 5・6 年次 40 単位
通信教育部	法律学科	124 単位	有	年間 48 単位
	政治経済学科	124 単位	有	年間 48 単位
	文学専攻 (国文学)	124 単位	有	年間 48 単位
	文学専攻 (英文学)	124 単位	有	年間 48 単位
	哲学専攻	124 単位	有	年間 48 単位
	史学専攻	124 単位	有	年間 48 単位
	経済学科	124 単位	有	年間 48 単位
	商業学科	124 単位	有	年間 48 単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：ホームページ，学部要覧，奨学金募集要項への記載等。 1　法学部 日本大学法学部ホームページ上に公表（「GPA 制度について」にて，早期卒業制度や一部のコース選択に活用される旨記載）URL ： https://www.law.nihon-u.ac.jp/educational_info/law.html 2　文理学部 ＧＰＡの活用状況については，そのポイントと修得単位数により，履修登録単位の上限をある程度まで超えて履修できる特別措置を設けている。 https://chs.nihon-u.ac.jp/about/information/ 履修登録単位数上限に関する特別措置 3　経済学部		

	大学院経済学研究科学内選考の出願基準 4　商学部 https://www.bus.nihon-u.ac.jp/education-information/ 5　芸術学部 成績不振学生の退学勧告等に活用している。 6　国際関係学部 https://www.ir.nihon-u.ac.jp/pdf/yoran_2022.pdf?v=220418 （『履修要覧』に毎年度記載（今年度は12・13頁に記載）し，ホームページ上にも掲載） 7　危機管理学部 前年度３６単位以上修得し，且つＧＰＡが3.60以上の学生は，４単位を限度として各年次の最高履修単位数を超えての履修を認めている。また，２年次の「危機管理基礎演習」及び３年次の「ゼミナール」「危機管理特殊研究」の入室試験の際にＧＰＡが高い学生から希望のゼミナール等を選択できるようにしている。 また，成績不振学生のフォローアップの際に対象者の抽出方法として修得単位数とＧＰＡを用いている。その他，留学への応募資格や学生支援機構の貸与型奨学金や学外奨学金推薦時にＧＰＡによる基準を定め，活用している。 8　スポーツ科学部 ３年次の「ゼミナール」の入室試験の際にＧＰＡが高い学生から希望のゼミナール等を選択できるようにしている。その他，留学への応募資格やや学外奨学金推薦時にＧＰＡによる基準を定め活用している。 9　理工学部 https://www.cst.nihon-u.ac.jp/about/education/pdf/6_1.pdf 10　生産工学部 http://www.cit.nihon-u.ac.jp/educational-information 11　工学部 （令和３年度入学者以前）履修登録単位数に上限を設けており，前年度の学業成績において，年間（年度）GPAが2.0以上の者は，本年度は48単位を超えて60単位まで履修登録できる。 （令和４年度入学者以降）履修登録単位数に上限を設けており，前年度の学業成績において，年間（年度）GPAが3.0以上の者は，本年度は49単位を超えて57単位まで履修登録できる。 12　医学部 成績証明書に記載している。 13　歯学部 https://www.dent.nihon-u.ac.jp/education/ 14　松戸歯学部　なし 15　生物資源科学部 日本大学大学院生物資源科学研究科博士前期課程推薦入学試験に所属学科のGPA順位による出願資格を設けている。 16　薬学部　なし

	17　通信教育部　なし
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）	公表方法：インターネットによる公表 1　法学部 日本大学法学部受験生サイトにて配布の学部デジタルパンフレットにて資格試験等合格者数を公表 http://nulaw.jp/about/pamphlet/ 日本大学法学部ホームページ上に資格試験等合格者数を一部公表（本学部にて実施の褒奨制度対象者） https://www.law.nihon-u.ac.jp/seminar/passer.html 2　文理学部 https://chs.nihon-u.ac.jp/about/information/ 3　経済学部 https://www.eco.nihon-u.ac.jp/disclosure/ 4　商学部 https://www.bus.nihon-u.ac.jp/ 5　芸術学部 【学生の受賞・表彰】 http://www.art.nihon-u.ac.jp/blog/index.php?c=topics&category=&sk=0 6　国際関係学部 https://www.ir.nihon-u.ac.jp/career/point/ 7　危機管理学部 学生による授業評価アンケートを学期ごとに実施し，自身の出席状況や授業時間外の学修時間等の設問により学修状況の把握を行っている。 https://www.nihon-u.ac.jp/risk_management/about/disclosure/data9/ 8　スポーツ科学部 学生による授業評価アンケートを学期ごとに実施し，自身の出席状況や授業時間外の学修時間等の設問により学修状況の把握を行っている。 http://www.nihon-u.ac.jp/sports_sciences/about/disclosure/data9/ 9　理工学部 https://www.cst.nihon-u.ac.jp/about/#PublicRelations 10　生産工学部 http://www.cit.nihon-u.ac.jp/2019/pdf/books/spring112.pdf http://www.cit.nihon-u.ac.jp/about/activities/faculty-development/center 11　工学部 授業評価アンケートで学生の授業に対する満足度や学修意欲等を把握している。 https://www.ce.nihon-u.ac.jp/nue/wp-content/uploads/2021/10/R3-1-research.pdf 12　医学部 http://www.med.nihon-u.ac.jp/kyouiku/about.html 13　歯学部

	https://www.dent.nihon-u.ac.jp/education/ 14　松戸歯学部 日本大学学修満足度向上調査結果を大学 HP にて公表 https://www.nihon-u.ac.jp/students_first/research/ 歯科医師国家試験合格率を学部 HP にて公表 https://www.mascat.nihon-u.ac.jp/info/national_examanation.html?msclkid=27feccb5c15311ec8eb681208933c19b 15　生物資源科学部 ・獣医師国家試験の合格状況を獣医学科ホームページ公表 https://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~vethome/career/index.html ・学会等における受賞・表彰歴を学部ホームページ公表 https://www.brs.nihon-u.ac.jp/news/ 16　薬学部 （薬剤師国家試験合格状況） https://www.pha.nihon-u.ac.jp/career/national-exam/ 17　通信教育部 https://www.dld.nihon-u.ac.jp/environment/

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：インターネットによる公表

1　法学部
https://www.law.nihon-u.ac.jp/educational_info/law.html
https://www.law.nihon-u.ac.jp/campusmap.html

2　文理学部
https://chs.nihon-u.ac.jp/about/campus/
https://chs.nihon-u.ac.jp/about/access/

3　経済学部
https://www.eco.nihon-u.ac.jp/campus/
https://www.eco.nihon-u.ac.jp/studentlife/facility/

4　商学部
https://www.bus.nihon-u.ac.jp/education-information/

5　芸術学部
http://www.art.nihon-u.ac.jp/about/relations/

6　国際関係学部
https://www.ir.nihon-u.ac.jp/guide/info-ed/

7　危機管理学部
https://www.nihon-u.ac.jp/risk_management/about/disclosure/data10/

8　スポーツ科学部
http://www.nihon-u.ac.jp/sports_sciences/about/disclosure/data10/

9　理工学部
https://www.cst.nihon-u.ac.jp/campus/

10　生産工学部
http://www.cit.nihon-u.ac.jp/educational-information

11　工学部
　http://www.ce.nihon-u.ac.jp/undergraduate/undergraduate106/
12　医学部
　https://www.med.nihon-u.ac.jp/img/kyouiku/about/kouchi.pdf
13　歯学部
　https://www.dent.nihon-u.ac.jp/about/facilities/index.html
14　松戸歯学部
　https://www.mascat.nihon-u.ac.jp/info/campus.html
15　生物資源科学部
　https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/
16　薬学部
　https://www.pha.nihon-u.ac.jp/media/R03-07-1.pdf
17　通信教育部
　https://www.dld.nihon-u.ac.jp/environment/
　https://www.dld.nihon-u.ac.jp/access_map/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名		授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
法学部	［第一部］ 法律学科・政治経済学科・新聞学科・経営法学科・公共政策学科	H30 以降	810,000 円	260,000 円	190,000 円	施設設備資金 190,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H29 以前	730,000 円	260,000 円	190,000 円	施設設備資金 190,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	［第二部］ 法律学科	R2 以前	400,000 円	160,000 円	100,000 円	施設設備資金 100,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		R3 以降	470,000 円	160,000 円	100,000 円	施設設備資金 100,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
文理学部	哲学科・英文学科・ドイツ文学科	R 元以降	830,000 円	260,000 円	200,000 円	施設設備資金 190,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30	770,000 円	260,000 円	200,000 円	施設設備資金 190,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	史学科・国文学科	R 元以降	830,000 円	260,000 円	210,000 円	施設設備資金 190,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30	770,000 円	260,000 円	210,000 円	施設設備資金 190,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円

	中国語中国文化学科・社会学科・教育学科	R元以降	830,000 円	260,000 円	215,000 円	施設設備資金 190,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30	770,000 円	260,000 円	215,000 円	施設設備資金 190,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	社会福祉学科	R元以降	830,000 円	260,000 円	260,000 円	施設設備資金 200,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30	770,000 円	260,000 円	260,000 円	施設設備資金 200,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	体育学科	R元以降	830,000 円	260,000 円	300,000 円	施設設備資金 220,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30	770,000 円	260,000 円	290,000 円	施設設備資金 220,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	心理学科	R元以降	830,000 円	260,000 円	290,000 円	施設設備資金 220,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30	770,000 円	260,000 円	290,000 円	施設設備資金 220,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	地理学科	R元以降	1,060,000 円	260,000 円	320,000 円	施設設備資金 240,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30	1,000,000 円	260,000 円	300,000 円	施設設備資金 240,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	地球科学科	R元以降	1,100,000 円	260,000 円	300,000 円	施設設備資金 240,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30	1,000,000 円	260,000 円	300,000 円	施設設備資金 240,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	数 学 科	R元以降	1,100,000 円	260,000 円	310,000 円	施設設備資金 240,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30	1,000,000 円	260,000 円	310,000 円	施設設備資金 240,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	情報科学科	R元以降	1,100,000 円	260,000 円	320,000 円	施設設備資金 240,000 円 休学在籍料

						前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30	1,000,000 円	260,000 円	300,000 円	施設設備資金 240,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	物理学科	R 元以降	1,100,000 円	260,000 円	350,000 円	施設設備資金 240,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30	1,000,000 円	260,000 円	350,000 円	施設設備資金 240,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	生命科学科・化学科	R 元以降	1,100,000 円	260,000 円	380,000 円	施設設備資金 240,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30	1,100,000 円	260,000 円	380,000 円	施設設備資金 240,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
経済学部	経済学科・産業経営学科・金融公共経済学科	H29 以降	810,000 円	260,000 円	290,000 円	施設設備資金 170,000 円 休学及び留学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H28 以前	730,000 円	260,000 円	290,000 円	施設設備資金 170,000 円 休学及び留学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
商学部	会計学科・経営学科・商業学科	H30 以降	810,000 円	260,000 円	170,000 円	施設設備資金 170,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H28～H29	730,000 円	260,000 円	170,000 円	施設設備資金 170,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
芸術学部	写真学科	R 元以降	1,110,000 円	260,000 円	500,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30 以前	1,020,000 円	260,000 円	500,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	映画学科 （映像表現理論コース）	R 元以降	1,140,000 円	260,000 円	500,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30 以前	1,020,000 円	260,000 円	500,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	映画学科 （監督・撮影録音コース）	R 元以降	1,140,000 円	260,000 円	550,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円

		H30 以前	1,020,000 円	260,000 円	550,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	映画学科 （演技コース）	R 元以降	1,140,000 円	260,000 円	480,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30 以前	1,020,000 円	260,000 円	480,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	美術学科	R 元以降	1,100,000 円	260,000 円	520,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30 以前	1,020,000 円	260,000 円	520,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	音楽学科	R 元以降	1,110,000 円	260,000 円	520,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30 以前	1,020,000 円	260,000 円	520,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	文芸学科	R 元以降	1,040,000 円	260,000 円	450,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30 以前	1,020,000 円	260,000 円	450,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	演劇学科 （舞台構想・演技・舞台美術・舞踊コース）	R 元以降	1,110,000 円	260,000 円	470,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	演劇学科 （演出・演技・装置・照明・日舞・洋舞コース）	H30 以前	1,020,000 円	260,000 円	480,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	演劇学科 （劇作・企画制作コース）	H30 以前	1,020,000 円	260,000 円	470,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	放送学科	R 元以降	1,140,000 円	260,000 円	500,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30 以前	1,020,000 円	260,000 円	500,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	デザイン学科	R 元以降	1,100,000 円	260,000 円	490,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料

						前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30 以前	1,020,000 円	260,000 円	490,000 円	施設設備資金 400,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
国際関係学部	国際総合政策学科・国際教養学科	R 元以降	890,000	260,000 円	200,000 円	施設設備資金 200,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30 以前	830,000	260,000 円	200,000 円	施設設備資金 200,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
危機管理学部	危機管理学科	－	860,000	260,000 円	200,000 円	施設設備資金 200,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
スポーツ科学部	競技スポーツ学科	－	800,000	260,000 円	400,000 円	施設設備資金 300,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
理工学部	数 学 科	H29 以降	1,150,000 円	260,000 円	280,000 円	施設設備資金 220,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H28 以前	1,100,000 円	260,000 円	280,000 円	施設設備資金 220,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	土木工学科・交通システム工学科・建築学科・海洋建築工学科・まちづくり工学科・機械工学科・精密機械工学科・航空宇宙工学科・電気工学科・電子工学科・応用情報工学科・物質応用化学科・物理学科	H29 以降	1,150,000 円	260,000 円	320,000 円	施設設備資金 220,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H28 以前	1,100,000 円	260,000 円	320,000 円	施設設備資金 220,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
生産工学部	機械工学科・電気電子工学科・土木工学科・建築工学科・応用分子化学科・マネジメント工学科・数理情報工学科・環境安全工学科・創生デザイン学科	R4 入学者	1,100,000 円	260,000 円	420,000 円	施設設備資金 220,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		R3 入学者	1,100,000 円		430,000 円	施設設備資金 220,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		R2 入学者	1,100,000 円		440,000 円	施設設備資金 220,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		R1 入学者	1,100,000 円		440,000 円	施設設備資金 220,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
		H30 入学者	1,100,000 円		440,000 円	施設設備資金 220,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円

		H29 以前入学者	1,000,000 円		440,000 円	施設設備資金 220,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
工学部	土木工学科・建築学科・機械工学科・電気電子工学科・生命応用化学科・情報工学科	H30 以降	1,100,000 円	260,000 円	80,000 円	施設設備資金 220,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
医学部	医学科	－	2,500,000 円	1,000,000 円	2,850,000 円	施設設備資金 1,500,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
歯学部	歯学科	R2 年度 入学生まで	3,000,000 円	600,000 円	3,300,000 円	施設設備資金 6 年次まで 1,700,000 円(年間) 教育充実料 3 年次まで 1 年次 1,600,000 円（年間） 2・3 年次 600,000 円（年間） 休学者 休学在籍料　120,000 円（年間）
	歯学科	R3 年度 入学生から	3,500,000 円	600,000 円	2,800,000 円	施設設備資金 6 年次まで 1,200,000 円(年間) 教育充実料 3 年次まで 1 年次 1,600,000 円（年間） 2・3 年次 600,000 円（年間） 休学者 休学在籍料　120,000 円（年間）
松戸歯学部	歯学科	－	3,500,000 円	600,000 円	2,800,000 円	施設設備資金 800,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
生物資源科学部	生命農学科・生命化学科・動物資源科学科・森林資源科学科・海洋生物資源科学科・生物環境工学科・食品生命学科・応用生命科学科・くらしの生物学科	－	1,050,000 円	260,000 円	350,000 円	施設設備資金 200,000 円 実験実習料 150,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	食品ビジネス学科・国際地域開発学科	－	850,000 円	260,000 円	270,000 円	施設設備資金 170,000 円 実験実習料 100,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
	獣医学科	－	1,500,000 円	260,000 円	650,000 円	施設設備資金 350,000 円 実験実習料 300,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
薬学部	薬学科	－	1,400,000 円	400,000 円	650,000 円	施設設備資金 650,000 円 休学在籍料 前期 60,000 円 後期 60,000 円
通信教育部	正科生	－	100,000 円	30,000 円		

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）

本学では，平成 29 年４月に本学の教育に関する具体的指標として「日本大学教育憲章」を施行した。これに基づき各学部では教育に関する３つの方針の見直しを行うと共にカリキュラム改革を進めているところである。また，同憲章に示した指標のうち，その基礎的な能力を本学で学ぶ学生が確実に満たしていけるよう，平成 26 年度より全学共通初年次教育科目「自主創造の基礎１」「自主創造の基礎２」の２科目を展開している。同科目は同憲章制定前に高等学校での「学習」から大学生としての「学修」に対応できるよう，学びの転換やコミュニケーション能力等を育む科目としてスタートしているが，憲章制定後は，同憲章に示された具体的な教育指標をルーブリックに落とし込むとともに，その初級領域の一部を担保できるような教育目標として同科目のガイドラインを改訂し，科目のバージョンアップを図っている。また，「自主創造の基礎」においては，私立総合大学の中においても有数の学部・学科数（16 学部 87 学科）を擁する本学の様々な学部の学生が混在してグループワークを行う「日本大学ワールド・カフェ」を平成 29 年度から実施し，日本大学教育憲章に掲げられている「多様な価値を受容し，自己の立場・役割を認識する力」を中心とした汎用的能力等が学生に身に付くよう科目設計をし，１万人を超える初年次学生が参加交流するダイナミックな授業を実現している。さらに，本学では，同憲章に掲げている「日本の特質を理解し伝える力」の基礎を養うことを主な目標とした新たな全学共通教育科目「日本を考える」を令和２年度から開講し，共通教育の更なる充実を図ると共に，学生にこれら全学共通教育科目を通じて日本大学の学生としての，基本的能力・姿勢が身に付くよう全学的に支援を行っていく。また，本学独自の奨学金として，成績優秀者や家計困窮者を対象に大学・短期大学部合わせて６０種類以上の奨学金制度を整備しており，国の修学支援新制度と併用するなど，支援を希望する学生に合わせて対応している。

以下は各学部での主な取組である。

1　法学部

学業成績優秀者，経済的困窮者，国家試験合格を志す者等に対して，各種の奨学金を準備している。

2　文理学部

学期の始めに学科ごとのガイダンスを実施し，学修に関する注意事項等について学生に周知している。また，各教員は必ずオフィスアワーの時間を設け，学生からの質問等に対応している。成績不振者に対しては，年度当初に前年度修得単位数が１０単位未満の者，長期間欠席が続いていると疑われる者及び学科で必要と判断した者について，学生本人及び学生の父母（学費支弁者）宛てに文書で通知の上，各学科で面談を実施している。面談の内容について，所定の「学生面談シート」に詳しく記入し，学科及び学部で状況の把握に努めている。

なお，対象学生と連絡が取れない場合については，学生課が引き取り，引き続きアプローチを重ね，結果を各学科へフィードバックしている。また，各学科でも独自に学業不振学生等面談が必要な学生の基準を定めており，それに基づき面談・指導等を実施するなど，留年・中途退学等を未然に防ぐセーフティネットを幾重も用意し対応している。

3　経済学部

令和４年度の新入生ガイダンスは，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，対象学生を学科ごとに午前・午後に分け，十分な感染症対策を実施した上で，４月２日（土）に実施した。当日欠席をした学生には，代替措置としてガイダンス動画を作成し，動画サイト及びホームページに公開して対応した。

２年次生から４年次生を対象としたガイダンスについても同様に，対象学生を学科ごとに午前・午後に分け，履修登録の日程，留意点及び授業に係るガイダンスを実施した。さらに，当日欠席をした学生には，動画を作成し，動画サイト及びホームページに公開し，閲覧を促した。

履修登録に際しては，登録期間（４月 12 日～15 日）に先立ち，４月４日～７日の期間，履修登録相談の機会として，特設会場を設けて，相談への対応を行うとともに，専用の問い合わせフォームにおいても相談を受け付けた。授業時間割については，スマートフォンやタブレット端末から，学生ポータルサイトを通じて閲覧できるよう対応し，前学期の授業については，４月 11 日から対面授業で実施した。

また，新型コロナウイルス感染症対策として，学生本人に基礎疾患等があり，対面授業への出席が困難な学生及び各国における外出・行動制限により日本への入国に制限のある外国人留学生を対象に，各科目の担当教員と連携したうえで，オンライン授業受講の配慮を行った。

学生支援としては，授業で使用するためのＰＣ等端末機器を保有していない学生に対してノートＰＣの無償貸与（希望者）を行ったことに加え，学内にオンライン授業や就職活動におけるオンライン面接ができるＢＯＸ型のブースを設置し，様々なオンライン化に対応できる環境を整えた。

令和４年度も引き続き，学修相談をはじめ各種相談等を対面で実施しており，今後も，各種相談等において，学生・保護者・大学の三者の関係を密にして，修学支援の充実を行っていく。

4　商学部

学修指導等について，１年次はクラス担任，１年次以外は所属ゼミナール担当教員が担当し，ゼミナール未入室の学生は所属コースのコース科目担当者会議において担当教員を決定の上，実施する。なおコース未登録の者は，学務委員会委員及びコース未登録教員が担当する。そのほか科目担当教員のオフィスアワーを利用した受講授業に関する学修サポート，ゼミナールや総合研究での進路選択に係る修学の支援を実施している。

5　芸術学部

『学生支援室』

修学にあたって，困難を感じている学生や障がいのある学生の相談に応じており，本人の意向を確認し，所属学科や各課と連携をはかりながら，学生生活を送るうえでの悩みを取り除くための支援を行っている。

6　国際関係学部

すべての学生に専任教員１名を担任教員として配置し，入学時の履修指導から始まり，卒業指導まで修学支援を行っている。留学希望者には国際教育センター及び留学アドバイザーが中心となり，各自のニーズにあった留学ができるよう支援している。また，学生支援室と連携し，特段の配慮が必要な学生の修学支援を行っている。

7　危機管理学部

４月の授業開始前に「スタートアップガイダンス」「クラス別新入生ガイダンス」「キャリアガイダンス」「個別履修相談」等を実施し，学生が段階的に本学部の授業内容と履修科目が理解できるよう支援を行った。また，成業に不安のある成績不振学生に対してフォローアップのガイダンスを実施した。

学期中には，授業科目ごとに Google Classroom を開設し授業に関する質問を随時受付できる環境を整えている。これにより，授業の進行に遅れる学生，より高い学びを求めている学生，大学院進学や海外留学を希望する学生の学修支援を行っている。

8　スポーツ科学部

４月の授業開始前に「スタートアップガイダンス」「クラス別新入生ガイダンス」「キャリアガイダンス」「個別履修相談」等を実施し，学生が段階的に本学部の授業内容と履修科目が理解できるよう支援を行った。また，成業に不安のある成績不振学

生に対してフォローアップのガイダンスを実施した。
学期中には，授業科目ごとにGoogle Classroomを開設し授業に関する質問を随時受付できる環境を整えている。これにより，授業の進行に遅れる学生，より高い学びを求めている学生，大学院進学や海外留学を希望する学生の学修支援を行っている。

9　理工学部

パワーアップセンターで，授業での理解力向上と将来のキャリア形成のために大事な「基礎力」をつけるサポートを重点的に行っている。理工系の基礎力となる英語・数学・物理・化学の４教科で「基礎講座」を開設し，苦手意識のある科目や学習経験のあまりない科目の学修サポートをしている。

10　生産工学部

ピアサポートシステムを導入し，学部４年生を中心としたピアサポーターが，教員の補助として１年生全員の生活や修学をサポートしている。また，アカデミックアドバイザーシステムを導入し，科目別のアドバイザーによる学習関連のあらゆる悩みに対しサポートしている。

11　工学部

大学院学生がチューターとして特定の時間を設け，主に学部１・２年次生の学部共通基礎科目や学科専門基礎科目について学修支援を行っている。
また，教員についても，学修支援専門員として，各教員指定の曜日や時間において，自然科学科目や外国語科目，専門科目について学修指導が受けられる制度を設けている。

12　医学部

（新課程）

１年次では「自主創造の基礎」及び「医学序論」を開講し，幅広いテーマを与え選択することで自らの意思で判断，行動し知識を見つけることを学び，３・４年次の「ＰＢＬテュートリアル」を通して臨床医学について提示された症例に対し，自分で考え，自分で問題点を抽出し，解決に向けて努力するという学習習慣を定着させている。また，４年次では「自由選択医学研究１・2」を開講し，学生自身の知的好奇心に基づき学問の面白さを自ら発見させる。５年次から開始される「clinical clerkship1～3」では，診療参加型実習（クリニカル・クラークシップ）のスタイルで診療現場での医師としての能力を総合的に学んでいき，６年次では「選択臨床実習」を実施し，これまでに積み上げてきた知識・技能を整理して再構築していく。こうした自己問題発見・解決型に重点を置いたカリキュラムを編成することにより，学生の自発的な修学意欲を引き出す取組を行っている。

（旧課程）

１年次では「自主創造の基礎１」を実施し，幅広いテーマを与え選択することで自らの意思で判断，行動し知識を見つけることを学び，２・３・４年次の「ＰＢＬテュートリアル」では提示された症例に対し，自分で考え，自分で問題点を抽出し，解決に向けて努力するという学習習慣を定着させている。５年次から開始される「ＢＳＬ」では従来の見学中心ではなく，診療参加型実習（クリニカル・クラークシップ）のスタイルで診療現場での医師としての能力を総合的に学んでいき，６年次では「総合講義」や「選択臨床実習」を実施し，これまでに積み上げてきた知識・技能を整理して再構築していく。こうした自己問題発見・解決型に重点を置いたカリキュラムを編成することにより，学生の自発的な修学意欲を引き出す取組を行っている。

13　歯学部

全学年への対応として，クラス担任制度を取っており，授業への出席や試験結果等に基づいて定期面談を実施し，学習及び学生生活に関する指導を行っている。また，経済的な理由により修学が困難な学生や学業成績の優秀な学生に対し，選考の上，各種奨学金を給付・貸与している。

14　松戸歯学部

学修環境の整備を教室，実習室を中心に随時実施している。その他にも，学生の自主学修スペースの拡充を随時実施している。また，新型コロナウイルス感染症対応として，遠隔授業と対面授業が並行して行える環境を整備している。

15　生物資源科学部

生物資源科学部の教育研究上の目的に掲げる『フィールドから分子レベルに至る科学的知識と優れた技術を備えた人間性豊かな人材を養成する』ため，学科毎に教育研究上の目的及び3つの方針を定めている。これらの方針等に基づく学生の修学をサポートするため，学科毎に各年次に学級担任を配置し，修学や学生生活等における相談にきめ細やかに対応している。また長期欠席者や成績不振者を早期に発見し修学指導を実施する体制を構築し，学習意欲の改善を促し，順調な学修・学生生活を支援するようにしている。あわせて学習支援センターを開設し，学習上の問題で支援を必要とする学生向けに経験豊富な教員等との個別対話が可能なスペースを設置している。

さらに，入学時に生物資源科学部で必要となる生物・化学の理解度を確認するテストを実施し，学生及び学科教員がその状況を把握している。このテストの結果等を参考に，必要な学生には各科目のリメディアル教育を実施している。

16　薬学部

新入生には，4月にプレイスメントテストを実施し，学力到達度を把握し入学直後の学修指導に役立てている。また基礎科目については，習熟度別のクラス編成や特別編成授業日程の設定など集中的にリメディアルを実施し，基礎学力の向上を図っている。1年次～4年次には，一部の科目にポートフォリオを導入し，学生本人が自己の学習歴を振り返ることで主体的な学修を促している。また，学年末に実力試験を実施し，各学年の学力到達度を測るとともに成績不振学生への指導に役立てている。3年次の8月からは Web を利用し，薬剤師国家試験の過去問に基づいた課題についてインターネット上で自主的に学習が行えるシステムを整備している。また，科目担当教員から授業資料配信と保存や課題等の提示と回収，学生からは授業資料の閲覧や課題等の提出ができるインターネットを利用したLMS(Learning Management System)を全学年で導入している。この学修支援システムにより授業を補完し，授業理解を深め授業満足度の向上を図っている。また，令和2年度から授業収録システムを導入し，オンライン授業に利用している。

17　通信教育部

学生の単位修得方法や履修計画の相談を行う学修支援センターを設置している。また，年に2回総合学修ガイダンスとして，通信授業の学修方法や専門科目での学び方のガイダンスを行っている。

b.進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

本学では，学生の主体的な未来選択の実現に向けた，大学全体としてキャリア教育カリキュラムを策定し，入学時に「働くとは何か」について終身雇用制度を踏まえ，豊かな老後を過ごすため，職業選択の重要性と，理想とする働き方を実現するために，不足している経験・知識を手に入れるよう，学生生活を有意義に過ごすようガイダンスを義務付けている。

大学全体としての支援は，入学時により就職への動機づけを行い，自己実現のため不足している能力を自覚させるとともに，それらの能力向上を目的とした「産学官連携の人材育成プログラム」を提供している。自己実現に適した就職先を知るため「合同企業研究会・就職セミナー」を実施するとともに，希望する就職先へ自己を売り込むため不可欠な自己分析講座・エントリーシート対策講座・模擬面接講座等を実施しているほか，地方出身者の地元への就職について就職支援協定を締結している地方自治体の協力の下，セミナー等を実施している。

公務員志望の学生に対しては，筆記試験を重視した対策講座・模擬面接を提供してい

る。
さらに学部においてはそれぞれの特色を生かした支援策を講じている。

以下は，各学部での主な取組である。

1　法学部

年間を通じて豊富で密度の濃いプログラムで学生の就職活動を全面的にサポートします。また，卒業生の方にも在学生と同様に「就職相談」「求人情報の提供」「履歴書添削・面接対策」など就職支援を実施しています。

2　文理学部

文理学部の就職支援については，大きく正課と正課外の２つの支援に分けられる。正課では，自らのキャリアをデザインする力を身につけることを目的として，低学年から受講できるキャリア教育科目を設置し，キャリアデザイン，キャリア・ストレスマネジメント，インターンシップを開講している。正課外については，就職指導課が主に支援を行っている。主な支援内容としては，各種講座・ガイダンスの実施，就職に関する相談・選考書類等の添削・面接練習，就職関係資料及び書籍の閲覧・貸出し，求人・インターンシップ情報の提供，学内の企業・公務員説明会等を実施している。これらの支援は，就職活動期を迎える３，４年生だけでなく，１，２年生の低学年からでも受講が可能で，さらに低学年向けの各種支援行事も実施している。これらの支援に対して，卒業生への満足度調査や各種講座・ガイダンスの参加者数や満足度を調査して，次年度以降の就職支援に役立てている。公務員志望者向けには，公務員試験対策講座や各種講座・ガイダンスを実施し支援を行っている。教員志望者向けには，教育現場で必要な知識を身に『つける』，教員免許状を取得する『とる』，教員採用試験に合格し，教員に『なる』ことを目的として，教職センターが一貫して支援を行っている。さらに，外国人留学生向けや障がい者向けの支援，卒業後も就職活動を継続する方への支援も実施している。

3　経済学部

本学部では，学年ごとに，それぞれの段階に合わせたガイダンスや講座を実施している。就職や職業など，学生が自らの進む道，個々のキャリアデザインについて，じっくりと考えながら，着実に準備を進めることができる。１～２年次では，キャリア教育として，自身を知り，大学生活の動機付けを図り，職業選択のための職業・業種の紹介などを通じて職業観を育てることに重点をおき，学生には広がりある自分発見につなげ，個々の目標設定を行うことで，大学から社会・職業への円滑な移行を目指す。また，キャリア形成支援の一環として２～３年次生が履修可能な授業科目「キャリア形成論」を設けているほか，低学年からインターンシップへの積極的な参加を促し，職業意識を高め，社会人基礎力を養い，目先にとらわれることなく，職業選択ができることを目標とし，併せて大学生活のモチベーションアップを図る。資格取得を目指す学生に対しては，資格取得支援講座を開講し，大学が受講料を一部補助することで，受講しやすい環境を作っているほか，自習環境の整備として国家試験受験準備室を設け，アドバイザーによる学習相談等も行っている。また，就職指導課において，受講者の受験状況・合格者の把握を行い，講座の在り方や合格者増加策などの検証を行っている。また，本学部（含む本研究科）では，在学中の学生の各種資格等の推奨による自主創造型人材の育成を目的に，本学部で定めた各種資格取得者及び国家公務員等合格者に対して本学部校友会の協力を得て，奨励金を給付している。

なお令和３年度は，昨年度に続き，新型コロナウイルス感染対策として，上記の様々な講座やガイダンスを可能な限りオンラインで実施し，学生の利便性の向上に努めた。

4　商学部

初年次から，社会に求められる人材となるための学生生活の過ごし方を学ぶキャリアガイダンスや社会人基礎力を養成する講座を実施し，就職活動に向けた意識作りを

促している。また，３年次からは，就職に関する個別相談や業界研究会を実施することで学生の就職活動に対応した支援の取組を行っている。

5　芸術学部

芸術学部では１・２年生に対して「就職に対する動機付け」及び「多岐に渡る業界の紹介」をテーマにキャリアガイダンスを実施して，学生が早期から卒業後の進路について自主的に考える機会を設けている。３年生には就職活動の準備を具体的に支援する就職指導講座や個別企業セミナー，合同企業セミナーなどを開催して，就職活動力の向上や受験機会の増大を目指している。４年生については，学部に限らず大学全体に寄せられた求人票の公開の他，東京新卒応援ハローワークと連携して，週１回就職支援ナビゲーターを招いて就職相談の場を設けている。また，学年不問の就職（進路）に関する個別相談にも，キャリアコンサルタントの資格を持つ職員を中心に随時応じている。

また，令和４年度新入生から，大卒者として社会に求められる汎用的な能力・態度・志向（ジェネリックスキル）を可視化し，客観的評価の指標を設けることで，学生の主体的な学びと就職活動等の自己分析などへの活用を図るべく，PROG テストを導入している。

6　国際関係学部

学生のキャリア形成を支援するために，各種の就職・キャリア支援講座，企業研究会・説明会，公務員試験対策講座などを開催している。また，個別支援として，求人情報の提供，就職・キャリア相談，エントリーシートなどの添削指導，模擬面接（Web 面談）など，個人の希望や悩みに応じたサポートを実施している。

7　危機管理学部

本学部のキャリア支援プログラムでは，学生のキャリア形成を支援するために充実した学生生活に立脚して，「自分を知る（自己分析）」「社会を知る（業界・企業研究）」「相手に伝える（プレゼンテーション）」の３つの力を増進させることを目指したプログラムを開講している。

令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症対策として，オンライン(オンデマンド型，ライブ型)を主とした 101 のプログラムのほか，キャリアカウンセラーによる就職相談をオンラインで行い，学生ひとりひとりに応じた様々なキャリア支援を実施した。

また，就職試験対策としての「SPI 対策入門講座」，「面接対策講座」や就活塾「桜門志誠塾」，「桜門志誠塾ベーシック」は， 講師と学生とのライブ型講義を継続し，公務員講座は，復習可能なオンデマンド型とした。その他，従来学内で実施していた「企業説明会」，「公安系公務員説明会」を，各企業，各団体の協力を得てライブ型とし，学生と希望先との個別面談を設定した。新型コロナウイルスの影響による企業の採用計画変更に対応すべく，各学生の就職活動状況を各担当教員が確認・把握し，学生へのきめ細かい支援を継続した。

8　スポーツ科学部

本学部のキャリア支援プログラムでは，学生のキャリア形成を支援するために充実した学生生活に立脚して，「自分を知る（自己分析）」「社会を知る（業界・企業研究）」「相手に伝える（プレゼンテーション）」の３つの力を増進させることを目指したプログラムを開講している。

令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症対策として，オンライン(オンデマンド型，ライブ型)を主とした 101 のプログラムのほか，キャリアカウンセラーによる就職相談をオンラインで行い，学生ひとりひとりに応じた様々なキャリア支援を実施した。また，就職試験対策としての「SPI 対策入門講座」，「面接対策講座」や就活塾「桜門志誠塾」，「桜門志誠塾ベーシック」は， 講師と学生とのライブ型講義を継続し，公務員講座は，復習可能なオンデマンド型とした。その他，従来学内で実施していた「企業説明会」，「公安系公務員説明会」を，各企業，各団体の協力を得てライブ型

とし，学生と希望先との個別面談を設定した。新型コロナウイルス感染症の影響による企業の採用計画変更に対応すべく，各学生の就職活動状況を各担当教員が確認，把握し学生へのきめ細かい支援を継続した。

9　理工学部

就職・キャリア支援プログラム

①１年生対象

・キャリアデザイン…自分の価値観や社会を知り，自分のキャリアについて考える

②２年生対象

・就職活動準備講座…就職，進学の概要理解と専門学修の重要性を認識する
・業界研究セミナー…企業人事担当者やＯＢ・ＯＧが理工学部生のために来校

③３年生・４年再修者対象

・就活スタートガイダンス…スケジュールと全体像。インターンシップの活用
・インターンシップ講座Ⅰ…業界・企業の基礎知識，自分の持ち味・自己 PR とは
・インターンシップ講座Ⅱ…申込方法と参加マナー，就職活動としての利用方法
・適性試験模試…採用選考で実施されるＳＰＩの模試
・総合就職ガイダンス…理工学部就職活動の特徴を知り，自身の就活を考える
・リケジョの就活…女子学生に特化した支援プログラム
・業界・企業・職種研究講座…業界や職種の役割，企業選びの「軸」を考える
・適性試験対策講座＆適性試験模試②…適性試験全般の説明と Web 模試（玉手箱）
・履歴書・エントリーシート講座…応募書類のマナー・書き方と自己アピール
・業界セミナー…企業人事担当者やＯＢ・ＯＧが理工学部生のために来校
・企業訪問対策講座…人事担当者の教える就活マナーと学内セミナーの活用法
・面接講座…企業の狙い・目的を理解したうえで，自己表現を考える
・学内セミナー…人事担当者やＯＢ・ＯＧと直接交流するセミナー
・模擬面接・模擬グループディスカッション…面接試験の実践体験

④４年生対象

・合同企業セミナー…合同企業セミナー（対面またはオンライン）
・個別企業セミナー…企業各社の学内での説明会

⑤コンピテンシー診断

・診断と診断結果を踏まえた解説。低学年には「働くとは何か」への思慮と醸成

⑥公務員対策プログラム

・総合ガイダンス（全学年),
・合格体験談～合格者が語る公務員合格への道～（全学年）
・試験対策講座「基礎養成コース」（３年）
・試験対策講座「夏期集中講座」（３年）
・試験対策講座「実践コース」（３年）
・面接カード対策講座（３年）
・試験対策講座「合格完成コース」（３年）
・試験対策講座「国家総合職対策講座」（３年）
・論作文対策講座（４年）
・面接対策講座（４年）
・個別面接指導（面接カード添削・模擬面接）（４年）
・公務員模擬面接（４年）

⑦教員対策プログラム

・教員就職ガイダンス（３年）
・合格者の話を聴く会（３年）
・教員研究講座①②（３年）
・論作文対策講座（３年）
・公開模擬試験（３年）

・直前ガイダンス（４年）
・面接対策講座（４年）
・模擬面接（４年）

10　生産工学部

３年次の秋季から自己分析・企業分析から面接に至るまでの就職活動を全面的にサポートするための就職支援プログラムを無償にて実施している。また，就職指導委員と就職指導課が一体となって，進路に悩みを抱えている個別の学生に対し，相談や面接アドバイスを行う，個別支援も実施している。

11　工学部

就職活動が始まる前の１・２年生を対象としたキャリア講座「自分の将来設計と就活入門」の実施（全２回）を始め，３年生からは年７回の就職ガイダンスや自己分析テスト等を開催している。また，就職指導課に１名のキャリア相談員を常駐するほか，学科ごとに２名の就職指導委員を配置し，進路相談，およびサポート等の支援を行っている。

12　医学部

６年生を対象に，医師臨床研修マッチングの説明会を実施している。また，６年生及び研修医を対象に卒後教育委員会及び日本大学同窓会が共催で日本大学・関連病院合同研修プログラム説明会を実施している。

13　歯学部

学部卒業生の就職先としては，平成１８年度から法制化された歯科医師臨床研修制度により，歯科医師国家試験合格者は，臨床研修施設において１年以上の臨床研修が義務付けられているため，歯学部では，本学部付属歯科病院をはじめとする臨床研修施設において，臨床研修を行う者を就職者としている。臨床研修施設の決定については，一般財団法人歯科医療振興財団マッチングプログラムに参加しなければならず，この説明会を実施している。

14　松戸歯学部

併設の歯科病院における研修医の募集について，６年生を対象に「マッチング登録説明会」を実施し，マッチング登録に関する口頭説明及び資料配布を行っている。また，他の歯科病院の研修医のパンフレットについても，事務局の窓口に常備している。

15　生物資源科学部

１・２年次から主体的な「未来選択」ができることを目的とした「キャリアガイダンス」各年次で実施する。また，リーダーシップ育成や社会人基礎力・プレゼンテーション力の向上等を目指す「課題解決型ワークショップ」を夏期に開催。

３年次では，４月時点で今後の進路先「進学」，「就職」を検討する「進路ガイダンス」を実施。前期は就職活動全般の流れとインターンシップ参加へのスケジュールを説明する。就活に必要な基礎知識，自己分析の方法，エントリーの方法等を各専門講師がレクチャーする。秋頃から企業を招き，職場の生の情報を直接聞くことが出来，また業界全体の動向など，業種に対する広い知識も得られる「業界勉強会・企業研究会」「合同企業セミナー」を開催する。採用解禁直前には，「個別模擬面接指導導」を開催し，企業の人事担当者による本格的な個人面接を学生に体験させ，個別に指導する。これらにより学生自身が面接の心構えや方法を体験的に学び，企業側からの視点や志望業界へのアプローチ方法等を知ることができる。

４年次は，就活中の学生に対して一次選考を兼ねた合同企業選考会等を開催し，企業との接点の機会を提供する。

公務員志望者への支援として，公務員試験合格を目指すための公務員試験対策講

座を開講の他に，「公務員導入ガイダンス」や「自治体等職員採用説明会」を学部内で開催する。
　満足度の高い就職に繋げる支援を実施している。
16　薬学部
　進路選択に当たっては，令和４年４月からキャリア・カウンセリング・ルームを新設し，心理カウンセラーの資格を持つキャリアカウンセラーによる就職相談を開始，低学年からキャリアの意識を醸成するための就職支援行事及び就職支援講座を実施している。また，新規求人企業の開拓等や求人情報を，紙面による掲示のみならず，ＮＵ就職ナビ，ポータルサイトに入力して，WEB を駆使して常に学生が閲覧可能としている。
17　通信教育部
　東京新卒応援ハローワークからジョブサポーターを迎えた「就職サポート室」の開室，キャリアコンサルタントによる年８回の就職ガイダンスにより，就職活動支援を行っている。また，日本大学の学生向けの求人情報や企業情報等を検索できる「ＮＵ就職ナビ」も利用できる。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）
　全学的な学生支援の組織として学生支援センターを設置し，各学部の情報を広く収集し，学生対応に生かせるよう整備している。また，各学部に学生支援室を設置し，日々の学生対応に当たっている。学生支援室には，なんでも相談窓口機能を持たせて，学生からの相談に対応している。学生支援室には，カウンセラーのほか，コーディネーターを設置することにより，体制を強化している。
　障がいのある学生に対しては，本部に専門委員会及び各学部に障がい学生支援専門委員会を設置し，支援の申し出があった際に迅速な対応できるよう整備している。
　また，学内にインテーカー制度を設け，学内プログラム修了者をインテーカーとして認定し，日々の業務の中で学生支援が必要だと感じた学生に対して学生支援室への導入ができるよう整備している。

以下は，各学部での主な取組である。
1　法学部
　日本大学法学部は，学生の人権や生活を守るために各種の相談窓口を設けています。学生への人権侵害についての相談受付窓口や，幅広く学生生活全般について相談できる学生支援室があります。
2　文理学部
　「保健室」に看護師２名が常駐するとともに，学校医として内科医及び精神科医各１名が週１回ずつ在室している。健康相談・健康診断・感染症予防の展開，さらに健康な学生生活に向けた保健指導（諸情報発信），傷病者対応（救急処置，介護，病院紹介）などの業務に加え，精神衛生面での相談対応等も行っている。また，「学生支援室」では，人間関係や進路についての不安や悩みなどの幅広い相談，さらに障がい学生に配慮した支援を行っている。専任コーディネーターを介して，カウンセラー（臨床心理士）をはじめ，関係する学科，事務局が適宜連携を保ち，学業及び学生生活全般にわたり，学生本位の多角的支援に努めている。
3　経済学部
　保健室には看護師が常駐し，学生の傷病等に対応するとともに，適切な支援部署につなぐ学生支援窓口にもなっている。また，内科と精神神経科の医師が週１回在室し，全科にわたって相談を受け付けており，必要に応じて日本大学病院等に精密検査や受診紹介及び案内の手続きを行っている。学生支援室には，資格（臨床心理士）を持ったカウンセラーが月曜日から金曜日までの週５日対応している。令和４年度も引き続き，十分な新型コロナウイルス感染予防対策（日本大学健康観察システムの入力

記録や入構時の検温，アクリルの防護壁，フェイスシールドの着用，相談者・カウンセラー双方のマスク着用など）をしたうえで，カウンセラーが面談や電話など，相談者の希望に応じた個別相談ができる体制と環境を整えている。

4　商学部

毎年，全学生に定期健康診断を実施しているほか，保健室では医師が心身の相談に応じている。また，精神面の相談等は，学生支援室で臨床心理士によるカウンセリングを受けることができる。さらに，日本大学障がい学生支援に関する基本方針に基づき，障がいのある学生の修学に対しても，可能な限りの支援を行っている。

5　芸術学部

学生の相談内容に応じ，保健室及び学生支援室において，カウンセラー（臨床心理士）・医師（内科医・精神科医）・看護師が支援できる体制を整えている。必要に応じて付属大学病院の紹介もしている。

6　国際関係学部

学生支援室のコーディネーターが窓口となり，学生の修学支援やカウンセラーによる学生相談を行っている。また，月２回，学校医（産業医兼ねる）と精神科医を配置し，学生からの多種多様な修学に関する相談に対応できるキャンパス環境整備に取り組んでいる。

7　危機管理学部

４月の授業開始前に，全学生を対象にした「健康診断」を実施し，学生の健康状態の把握に当たる他，「学生生活適応チェック」を全学生に実施し，生活状況に不安のある学生の把握と指導に努めている。障がい学生の支援については，「障がい学生支援委員会内規」と「障がい学生支援ガイドライン」を定め，学生支援室に週１日は精神科医，週４日は臨床心理士の資格を持つカウンセラーが常駐している。また，学生支援室と教職員との間を取り持つため，社会福祉士の資格を有するコーディネーターを常駐させている。

また，入学前にアンケートを実施し事前にカウンセラーとの面談を希望している学生の把握に努めた。学生支援室における精神科医及びカウンセラーとの相談は，事前予約の上，対面及び電話相談にて随時対応している。

8　スポーツ科学部

新年度ガイダンス期間中に，全学生を対象にした「健康診断」を実施し，学生の健康状態の把握に当たる他，「学生生活適応チェック」を全学生に実施し，生活状況に不安のある学生の把握と指導に努めている。障がい学生の支援については，「障がい学生支援委員会内規」と「障がい学生支援ガイドライン」を定め，学生支援室に週１日は精神科医，週４日は臨床心理士の資格を持つカウンセラーが常駐している。また，学生支援室と教職員との間を取り持つため，社会福祉士の資格を有するコーディネーターを常駐させている。

また，令和４年度入学者には，入学前にアンケートを実施し事前にカウンセラーとの面談を希望している学生の把握に努めた。学生支援室における精神科医及びカウンセラーとの相談は，事前予約の上，対面及び電話相談にて随時対応している。

9　理工学部

学生支援室（学生相談窓口）では，学生のさまざまな疑問・不安・悩みを解決するために，専門カウンセラーや学科相談員（教員），コーディネーターが毎日（土日，祝日，長期休暇等を除く），学生の相談に対応している。相談の秘密を遵守しており，気軽に来室できるよう心掛けている。保健室では，大学内で傷病が発生した場合の応急処置や健康相談のほか，健康診断証明書の発行等を行っている。

10　生産工学部

全学年を通じて，クラス担任を置き，各種相談に応じている。また，先輩にあたる学部４年生をピアサポーターとして採用し，不自由なく学生生活が送れるようにフォローするとともに，学習面の相談窓口として実籾キャンパスにアカデミックアドバイ

ザールーム，学生生活面の相談窓口としては，カウンセラー室に専門のカウンセラーを津田沼キャンパスに週５日，実籾キャンパスに週１日配置している。常に学生担当，学生課長等と連携して対応している。日本大学学生支援センター主催のインテーカー研修には教職員が積極的に参加するように促し，各学科・系の学生支援にあたっている。また，平成２９年１０月より精神科医を委嘱し，月に１度，カウンセラーを中心に学生担当，学生課長，看護師で打合せを行っている。平成３１年４月より，津田沼キャンパスの１階に学生支援窓口として，学生支援室を設置し，コーディネーターを配置し，他部署との連携を強化し，さらなる学生支援を展開している。障がい学生に対しても障がい学生支援委員会を設置し，「日本大学障がい学生支援に関する基本方針」「日本大学生産工学部障がい学生支援ガイドライン」に基づいて障がいを理由とする差別を行わず，障害のない学生と平等に修学できるように可能な限りの支援を目指して展開している。

11　工学部

学生支援室を設置し，臨床心理士の資格を有するカウンセラーによる相談に応じている。また，各学科に日本大学インテーカーを有する教員，全学年にクラス担任を置き，学生指導の立場から学業，学生生活，進路相談等，さまざまな相談に応じている。保健室に看護師２名を配置して日常の大学内での傷病や体調不良の応急対応を行い，医療機関へ紹介を行っている。また，毎年，全学生に対して健康診断を実施し健康相談や生活指導も行っている。

12　医学部

本学部における心身に関する支援の取組みとしては，まず各学年に担任を５名配置し，その他に精神神経科医，心療内科医及びその他教職員で構成される学生支援員が連携し，問題があれば速やかにカウンセリングを受けることが可能な体制を取っている。また，相談内容に応じて担当者を案内し，学業に関する悩み以外にも交友関係に関する悩み等幅広く対応している。更に，医学部という学部の特性から，感染症対策にも力を入れており，入学前に本人及び父母に対し感染症対策についてお知らせすると共に，入学後に校医から新入生へその必要性について説明している。学中は，１年次と４年次に抗体価検査を全員に対し実施し，必要に応じてワクチンを接種するように指導している。

13　歯学部

歯学部では，各学年に学年主任１名とクラス担任を複数（３～４名）置き，学務担当，学生担当等とともにクラス担任者会議を設置し，修学面，生活面，健康面など，学生が抱えている様々な問題に対して，相談体制を構築している。健康相談や傷病に対する対応は，保健室常駐の看護師や週一回，学校医及び精神科医が相談や対応を行っている。緊急を要する場合は，隣接する日本大学病院で対応できるよう連携を図っている。また，精神的な不安を訴えている学生については，学生支援室に本部から派遣されているカウンセラー及び本学部のインテーカーの資格を持つ教員によって，面談を行っている。この学生支援室の利用案内については，学内への掲示，学部要覧，学生手帳及び歯学部ホームページに掲載している。

14　松戸歯学部

学生支援センターより派遣されたカウンセラーと，インテーカーの資格を持った本学部教員が相談及び支援を行っている。また，精神科医の配置も行っている。

15　生物資源科学部

学生の心身の健康支援として，保健室に２名の看護師が常駐しており，校内での怪我や体調不良時の応急処置，健康診断，健康相談，医療機関の紹介，感染症の把握や対策を行っている。平日には専門医が校医として曜日別に保健室に在室しており，月曜日は総合内科，火曜日は精神科，水曜日は整形外科，木曜日は消化器内科，金曜日は婦人科の各担当医師が，学生の健康相談に応じる他，医療機関への紹介状作成を行っている。また，学部の特長として土や動物に接触する機会が多いことから，破傷風

予防接種を推奨し，学部が費用の全額補助を行っている。昨今増えている学生の心の相談に対しては，精神科校医や学生支援室の臨床心理士と連携し対応している。学生支援室は，月曜から金曜の１０時から１７時の間，開室しており，毎日臨床心理士が２名体制で学生からの相談に対応している。また，「フリースペース」を学生支援室の隣室に開設し，個別ブース６席を設けている。他者の目を気にせず過ごせる空間として学生に開放しており，学生からは好評の場となっている。その他，学生課内にコーディネーターを配置しており，月曜から金曜の１０時から１３時，１３時から１６時の間電話での相談に対応している。生物資源科学部には，現在約９０のクラブ・サークルがあり「体育」「文化」「学術」「一般サークル」の４部門に分かれて活動している。約７０％の学生が何れかの団体に所属し，課外活動を通じて，心身ともに健全な文化人になるよう活動をしている。体育館はトレーニングルームを開設しており，施設利用にあたっての事前講習を受講することにより学生が各種トレーニングマシンを安全に使用できるようにしている。このトレーニングルームには専門のトレーナーが在籍しており，トレーナーの指導の下，学生の日頃の運動不足を解消し，心身ともに健やかな日々を過ごせる一助となっている。トレーナーは教職員とは異なる立場で学生の相談相手にもなっている。そこでの指導の中に気になる学生がいた場合には，学生課等と連携することにより情報共有を行い，心身ともに学生生活をサポートしている。また,健康維持の意識向上を図るため学内サイトで健康サポートの動画を毎月配信している。

16　薬学部

４月に健康診断を行っている。保健室には看護師が常駐し，１名の教員（医師）が学生の健康支援に当たっている。学生支援室ではカウンセラーが，火曜日から金曜日までの週４日，相談に当たっている。なお，毎月１回，心療内科医が来校し，相談を受けている。17　通信教育部

学生支援窓口を設置し，すべての学生のあらゆる相談を受け付け，適切な部署に振り分けている。学生支援室では，臨床心理士の資格を持ったカウンセラーが対応し，保健室では看護師が健康相談，救急処置及び医療機関への紹介等を行っている。

17　通信教育部

学生支援窓口を設置し，すべての学生のあらゆる相談を受け付け，適切な部署に振り分けている。学生支援室では，臨床心理士の資格を持ったカウンセラーが対応し，保健室では看護師が健康相談，救急処置及び医療機関への紹介等を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：インターネットによる公表

1　法学部　https://www.law.nihon-u.ac.jp/educational_info/law.html
2　文理学部　https://chs.nihon-u.ac.jp/about/information/
3　経済学部　https://www.eco.nihon-u.ac.jp/disclosure/
4　商学部　https://www.bus.nihon-u.ac.jp/education-information/
5　芸術学部　http://www.art.nihon-u.ac.jp/about/relations/
6　国際関係学部　https://www.ir.nihon-u.ac.jp/guide/info-ed/
7　危機管理学部
https://kenkyu-web.cin.nihon-u.ac.jp/scripts/websearch/index.htm
8　スポーツ科学部
https://kenkyu-web.cin.nihon-u.ac.jp/scripts/websearch/index.htm
9　理工学部　https://www.cst.nihon-u.ac.jp/about/education/index.html
10　生産工学部　http://www.cit.nihon-u.ac.jp/educational-information
11　工学部　http://www.ce.nihon-u.ac.jp/educational_information/

12	医学部　http://www.med.nihon-u.ac.jp/kyouiku/about.html
13	歯学部　https://www.dent.nihon-u.ac.jp/education/
14	松戸歯学部　https://www.mascat.nihon-u.ac.jp/curriculum/education.html
15	生物資源科学部　https://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/
16	薬学部　https://www.pha.nihon-u.ac.jp/outline/education/
17	通信教育部　https://www.dld.nihon-u.ac.jp/education_info/

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F113310103395
学校名	日本大学
設置者名	学校法人日本大学

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		3,647人	3,611人	4,012人
内訳	第Ⅰ区分	2,047人	2,111人	
	第Ⅱ区分	1,005人	996人	
	第Ⅲ区分	595人	504人	
家計急変による支援対象者（年間）				65人
合計（年間）				4,077人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	31人		
修得単位数が標準単位数の５割以下（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	54人		
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	15人		
「警告」の区分に連続して該当	185人		
計	268人		
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	―	前半期		後半期	

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	―
３月以上の停学	0人
年間計	―
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	33人		
ＧＰＡ等が下位４分の１	406人		
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	46人		
計	452人		
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。